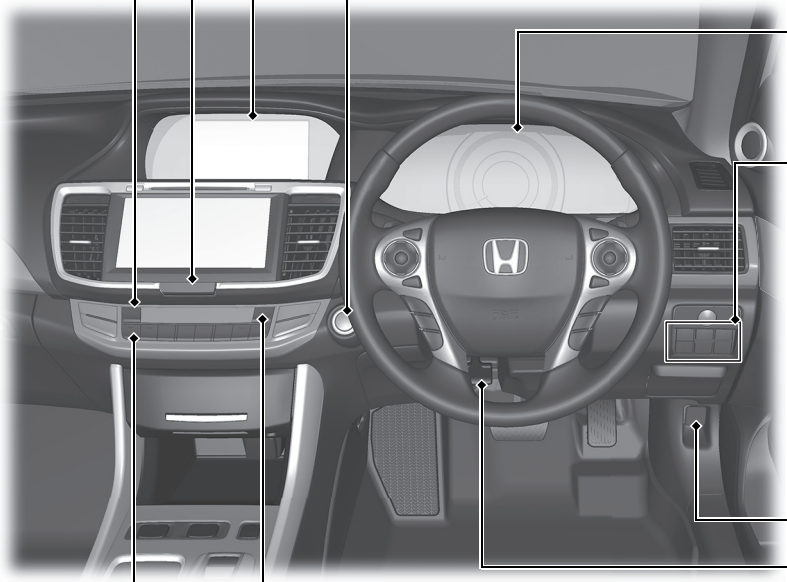
HONDA

Accord Hybrid

オーナーズマニュアル

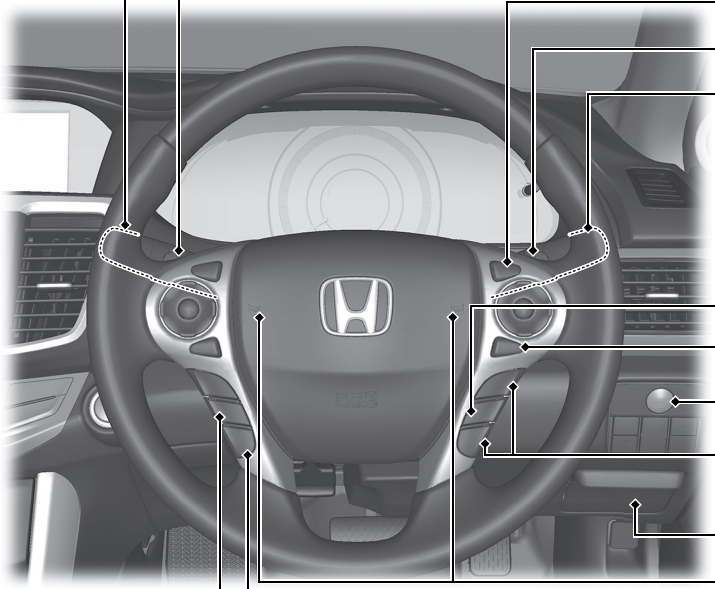
クイックガイド
安全なドライブ
計器の見かた
各部の操作
オーディオ
運転
メンテナンス
万一の場合には
資料
索引

ビジュアル目次



デフロスタースイッチ P. 183
非常点滅表示灯(ハザードスイッチ)
Honda インターナビシステム※
POWER スイッチ P. 145
メーター P. 98
警告灯 P. 61
表示灯 P. 73
(VSA OFF)スイッチ P. 250
CMBS(衝突軽減ブレーキ) OFF スイッチ P. 283
(車両接近通報 OFF)スイッチ P. 208
路外逸脱抑制スイッチ P. 257
パーキングセンサースイッチ P. 290
ボンネット解除ノブ P. 302
ハンドル位置調節レバー P. 158
オートエアコン P. 182
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ P. 155

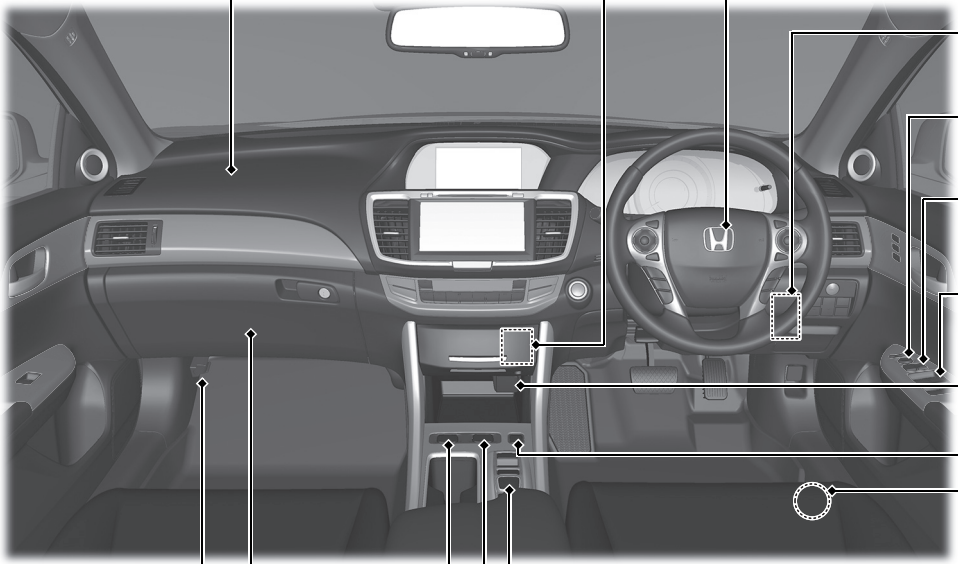
※：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。



ワイパー/ ウォッシャースイッチ P. 152
セレクター(−) P. 204
MAIN スイッチ
セレクター(+) P. 204
ライト / 方向指示器(ウィンカー)スイッチ P. 148, 150
フォグライトスイッチ P. 151
SEL/RESET スイッチ P. 99
LKAS スイッチ
ECON スイッチ P. 207
インフォメーション(i)スイッチ(▲ / ▼) P. 99
ETC 車載器 ※1
ホーンスイッチ(周辺)
発話スイッチ ※2
取り消しスイッチ ※2

※1：別冊「ETC 車載器」を参照してください。
※2：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。

ビジュアル目次



SRS エアバッグシステム（助手席用） P. 39

USB ジャック※

SRS エアバッグシステム（運転席用） P. 39

室内ヒューズボックス P. 357

ドアミラー調節スイッチ P. 160

マスタードアロックスイッチ P. 130

パワーウィンドースイッチ P. 139

アクセサリーソケット P. 175

EV スイッチ P. 8

トランクオープナー P. 135

フューエルリッドオープナー P. 295

シフトポジションスイッチ P. 200

SPORT スイッチ P. 206

パーキングブレーキスイッチ P. 270

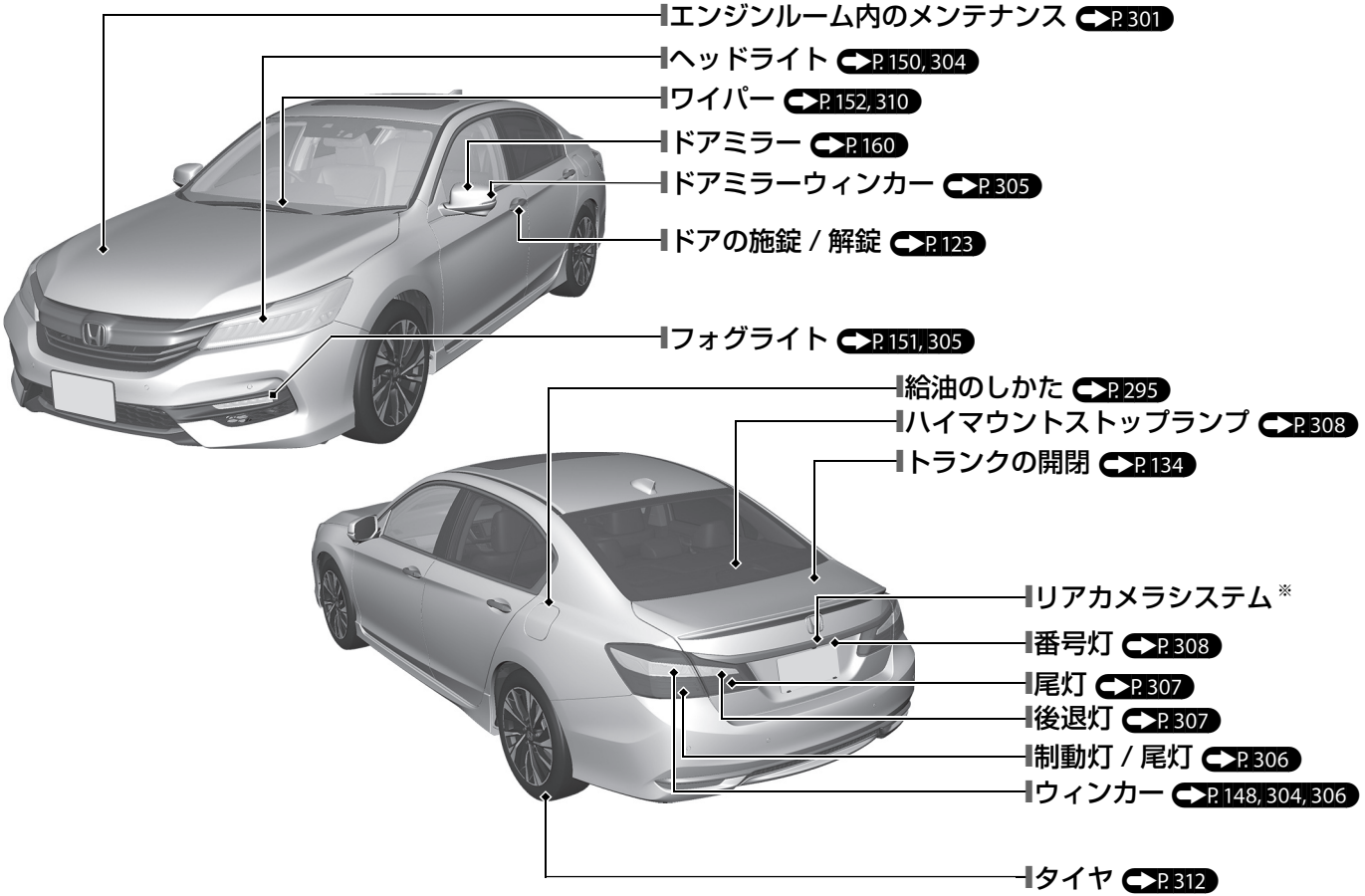
オートマチックブレーキホールドスイッチ P. 272

フロントシートヒータースイッチ❖ P. 179

グローブボックス P. 171

発炎筒 P. 328

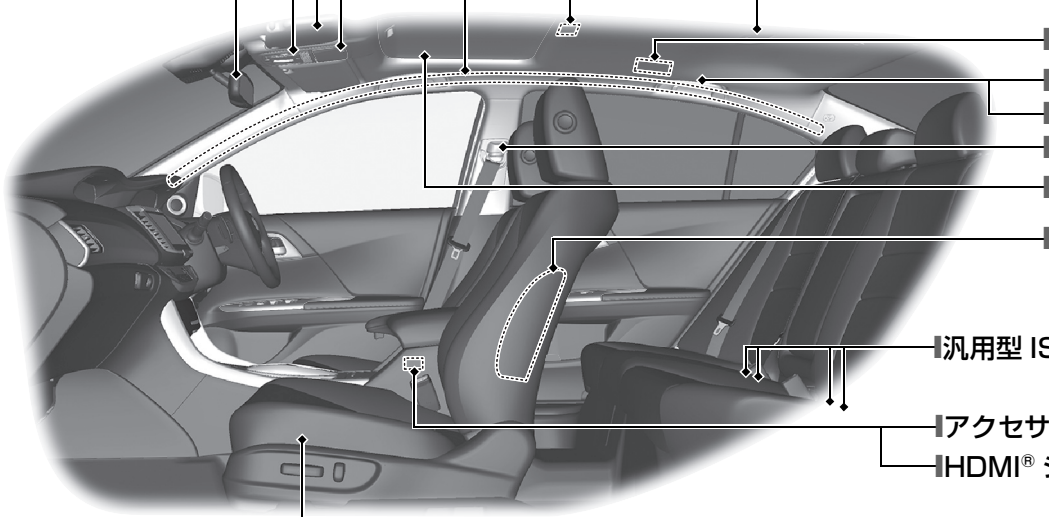
※：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。



※：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次



ルームミラー P. 159
室内灯 / マップランプ P. 169, 170
サンバイザー
バニティミラー
サングラスボックス P. 176
サイドカーテンエアバッグシステム P. 44
室内灯 P. 169
マップランプ* P. 170
グラブレール
コートフック P. 176
シートベルト P. 32
サンルーフ* P. 142
サイドエアバッグシステム P. 42
汎用型 ISOFIX 取付装置 P. 55
アクセサリーソケット P. 175
HDMI® ジャック※
フロントシート P. 163

※：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。

SPORT HYBRID i-MMD（インテリジェントマルチモードドライブ）

SPORT HYBRID i-MMD 車は、モーターとガソリンエンジンを搭載しており、その両方を動力源として使用します。そして、モーターは高電圧バッテリーやジェネレーター（発電機モーター）から供給された電気により駆動します。高電圧バッテリーは、エンジンとジェネレーターによる発電、または回生ブレーキにより充電されます。充電された程度に応じて、電力のみで走行することができます。

モーター、ガソリンエンジン、ハイブリッド（モーターとエンジン）による走行の、合計 3 種類の走行状態があります。どのような運転が適切かをシステムが判断し、走行状態を自動的に選択します。さらに EV スイッチを使って、手動で EV 走行に切り換えることができます。

- **エネルギー効率について**

通常のガソリンエンジン搭載車と同じように、この車の燃費や航続可能距離は、運転のしかたによって大きく左右されます。急加速や高速で走行すると、動力源がエンジンへ切り換わりやすくなります。また暖房負荷や冷房負荷が高いとき、航続可能距離が短くなります。いずれの場合も高電圧バッテリーの残量は早く低下します。

- **バッテリーのタイプ**

2種類のバッテリーが装備されています。エアバッグ、ライト類や電気アクセサリーを使用するための12Vバッテリーと、モーターの駆動と12Vバッテリーを充電する高電圧バッテリーです。

■ハイブリッド車について

高電圧部位や高電圧配線部は電磁シールド構造になっています。
従来の車や家電製品と比べて電磁波が多いということはありません。

SPORT HYBRID i-MMD システムの構成部品

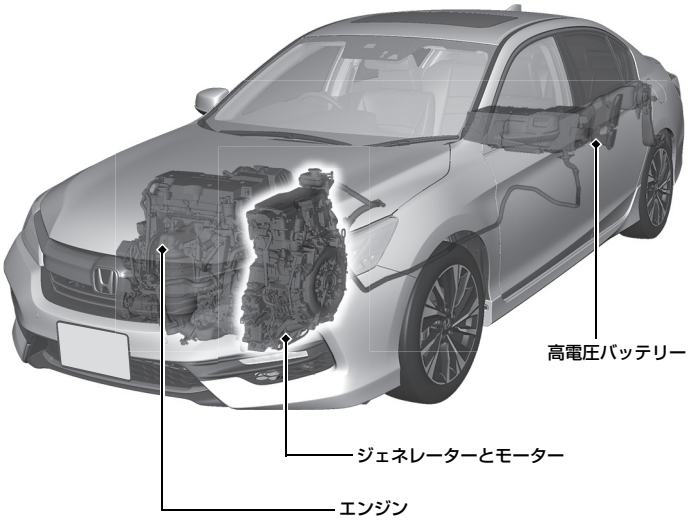
エンジン – ジェネレーターを回します。状況によっては車軸を直接駆動することもあります。

ジェネレーター – エンジンを始動します。エンジンが作動中はジェネレーターで発電してモーターに電力を供給したり、高電圧バッテリーを充電します。

モーター – 車軸を直接駆動します(状況によってはエンジンと連動します)。また回生ブレーキで得た電気を高電圧バッテリーへ供給します。

高電圧バッテリー – 電気をためておき、モーターに電気を供給します。
高電圧バッテリーの特性を理解しておくことが、EV 走行の距離を伸ばすことにつながります。P. 269

高電圧バッテリー残量計 – 高電圧バッテリー内の充電量を表示します。
- 残量計の目盛りが 2 以下のとき：EV モードを選択することはできません。
- 残量計の目盛りが 8 のとき：満充電の状態です。





走行モード	EV 走行	ハイブリッド走行	エンジン走行（直接駆動）	回生
走行状態	停車中または低速走行中 • モーターの動力のみで走行	走行中かつ強い負荷がかかっているとき（加速中や登坂中など） • モーターの動力で走行 • エンジンが作動してジェネレーターを回し、電気を供給することでモーター駆動を補助、または高電圧バッテリーを充電します。	高速走行中かつ負荷が少ないとき • 主にエンジンの動力で走行 • 高電圧バッテリーからの電力供給によりモーターアシストします。また、モーターを発電機として作動させ高電圧バッテリーを充電します。	減速中かつアクセルペダルも操作していないとき • モーターが回生ブレーキで得た電気を高電圧バッテリーへ供給します。
パワーフローモニター				
モーター	停止 / 作動	作動	発電 / 作動	回生
ジェネレーター	停止	発電	出力なし	停止 / 出力なし
エンジン	停止	作動	作動	停止 / 出力なし
高電圧バッテリー	放電	充電 / 放電	充電 / 放電	充電

EV スイッチ

セレクトスイッチ前側にあるEVスイッチを押すと、EV走行モードを選択でき、EV走行中は、EV表示灯が点灯し続けます。
もう一度、EVスイッチを押すと、EV走行モードの選択は解除されます。
EVスイッチを押しても、EVモードを選択できない場合があります。このとき、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーが鳴ります。

走行状態や車両状態によっては、EV 走行モードが自動的に解除されることがあります。

➔ **マルチインフォメーションディスプレイ** ➔P. 99

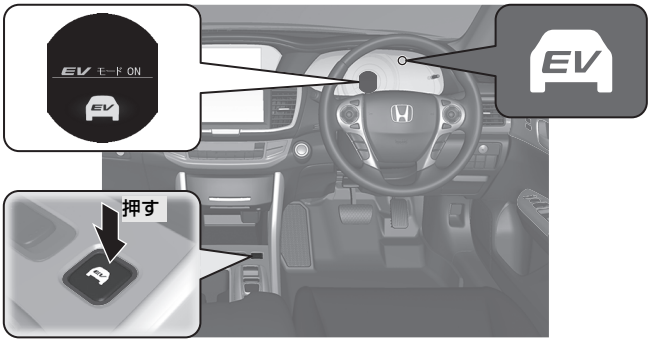
次の場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、EV走行モードが自動的に解除されることがあります。

➔ **マルチインフォメーションディスプレイ** ➔P. 99

- 高電圧バッテリーの残量が少ないとき
- 車速が高いとき
- エンジン暖機が終わる前に、車速が 40km/h をこえたとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき
- 坂道など

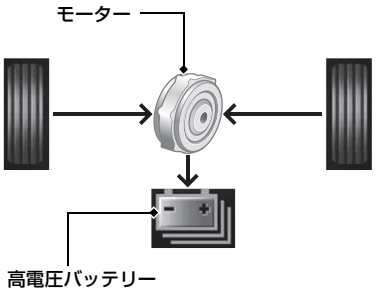
EVモードでの走行時、車両接近通報はONとなっています。

➔ **車両接近通報装置** ➔P. 208



●回生エネルギーと回生ブレーキ

回生ブレーキが作動しているとき



減速時または下り坂では、モーターは発電機として働き、加速時に使った電気を取り戻します。
この回生ブレーキ機能は、エンジンブレーキと同じような働きをし、減速セレクターを操作して、減速の強さを変更できます。

- **エンジンは自動で停止 / 始動します**

エンジンが自動的に始動や停止します。そのため、停車時にエンジンが停止状態から始動することがあります。特に、次のようなときは、エンジンが自動的に停止しないことがあります。

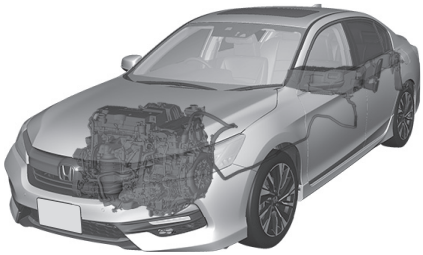
- 急加速、登坂、高速走行時など、瞬間的に駆動力が足りず補助が必要なとき
- 暖房負荷や冷房負荷が高いとき
- 高電圧バッテリーの温度が高いとき、または低いとき

- **ハイブリッド車特有の音について**

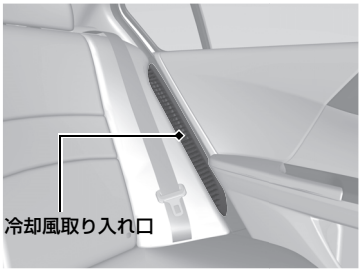
パワーシステム起動時や走行中に、次のような音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

聞こえるとき	状況
エンジンの始動・停止時	トランスミッションの作動音が車両前方から聞こえます。
加速時	モーター作動音、エンジン作動音がエンジンルーム内から聞こえます。
減速時	エネルギーを回生するために、モーター回生動作音がエンジンルーム内から聞こえます。 また、低速走行でブレーキを踏んだときやブレーキシステムが切り換わるときにブレーキ装置から、音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
エアコン、ヒーター作動時	コンプレッサーやヒーターシステムの作動音がエンジンルーム内から聞こえます。

ご使用時の注意



冷却風取り入れ口をふさがない



冷却風取り入れ口がふさがれると高電圧バッテリーの温度が上昇するおそれがあります。高電圧バッテリーを保護するために出力が制限され、パワーシステム警告灯や 12V バッテリー充電警告灯が点灯することがあります。

高電圧システムには触れない

高電圧システムを分解や配線取り外しなどを行うと感電するおそれがあります。点検・修理は、必ず Honda 販売店にご相談ください。

事故が起きたとき

●感電に注意する

▶ 車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときは、感電するおそれがあります。高電圧部位やそれらを接続する配線（オレンジ色）には、絶対に触れないでください。

●高電圧バッテリー液に触れない

▶ 高電圧バッテリー液がもれているときは、バッテリー液が目や皮膚に付くとその部分が侵されますので、十分に注意してください。万一付着したときは、すぐに清浄な水で数分間洗浄した後、ただちに医師の診察を受けてください。

●火災が発生したら電気火災用消火器を使用する

▶ 少量の水での消火は、かえって危険な場合がありますので、水はかけないでください。

●Honda 販売店で修理を受ける。

▶ 車体が損傷を受けたときは、必ず Honda 販売店で修理を受けてください。

高電圧遮断システム

事故などにより車体が衝撃を受けたときに、高電圧遮断システムが作動する場合があります。システムが作動すると、高電圧システムが自動的に OFF になり、走行可能状態になりません。高電圧システムを再始動するには、指定の Honda 販売店にご連絡ください。

高電圧バッテリーは、リチウムイオンバッテリーを使用しています。廃棄処分については特別な取り扱いが必要です。廃車するときは、必ず下記にご相談ください。

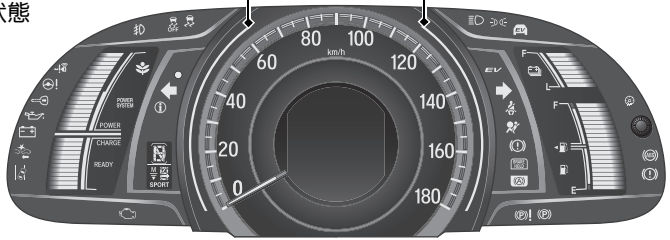
（株）ホンダトレーディング 0120-910574（フリーダイヤル）

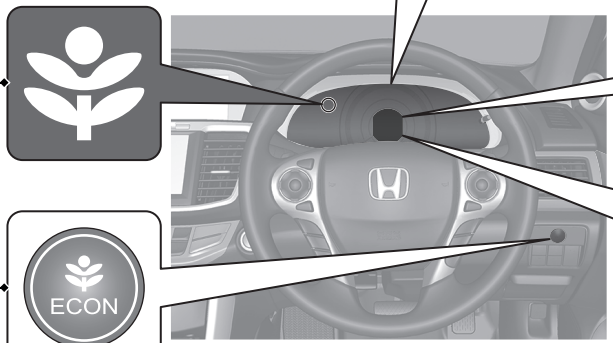
エコアシストシステム

アンビエントメーター

- 運転の状態を表示します。運転操作の状態に応じて、メーターの色が変化します。
- メーターの色
  緑色：省燃費状態
  青緑色：ゆるやかな加減速状態
  青色：急加減速状態

ブレーキペダル、アクセルペダルの操作方法により、メーターの色が変化します。







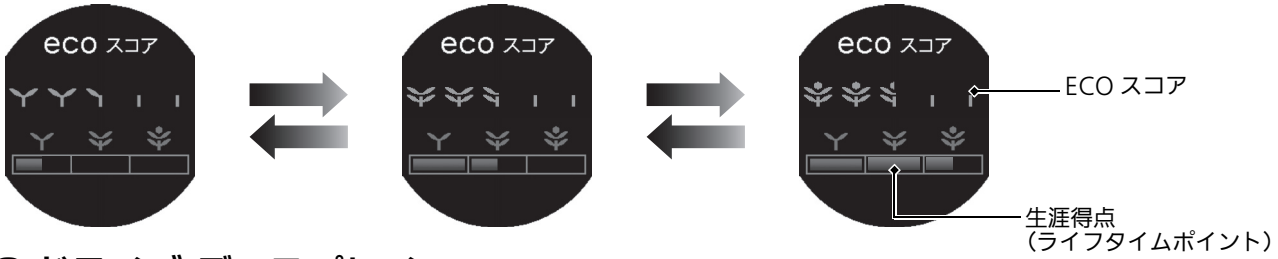
ECON スイッチ P. 207
省エネ運転をしやすくするように制御します。

ECON スイッチを押すと、メッセージを数秒間表示します。

ECON 表示灯 P. 75
ECON スイッチを押して、ECON モードにすると点灯します。

ECO スコア P.104

●パワーモードを OFF モードにしたときに表示します。



ECO ドライブ ディスプレイ P.104

●運転操作の状態に応じて車両のアイコンが前後に動きます。
急な加速を行うほど車両アイコンが前側に動き、急な減速を行うほど車両アイコンが後側に動きます。
車両アイコンが前後に動かないように運転することで、スムーズな省燃費運転となります。



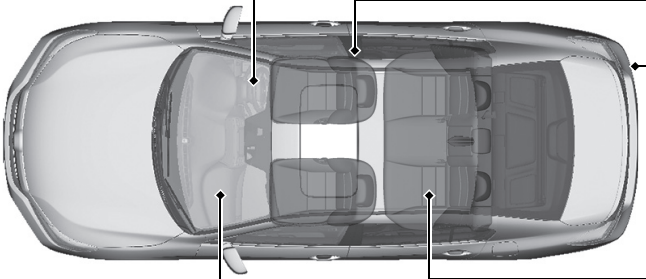
安全なドライブ P. 30



●正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
●同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
●妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

運転を始める前の確認 P. 31

●運転前にフロントシートの位置、ヘッドレスト、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。



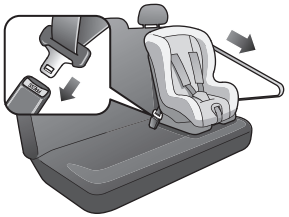
シートベルト P. 32

排気ガスについて P. 59

●車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではパワーシステムを起動しないでください。

お子さまの安全 P. 47

●シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。



エアバッグ P. 39

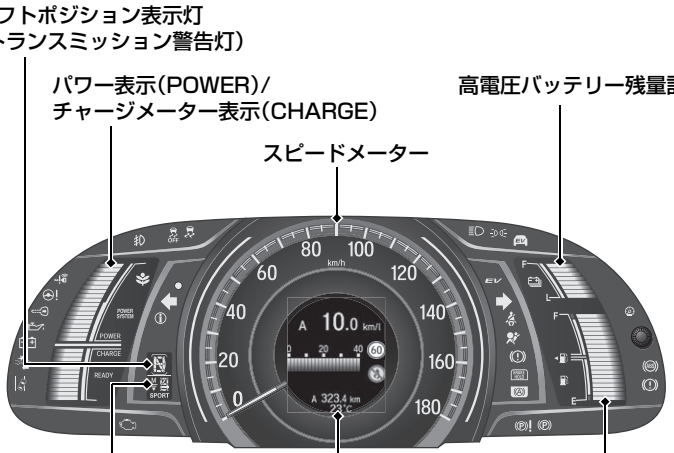
●万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

計器の見かた P. 60

警告灯 P. 61/ 表示灯 P. 73/ メーター P. 98/ マルチインフォメーションディスプレイ P. 99

警告灯 / 表示灯

- ライト点灯表示灯
- 方向指示器表示灯
- フォグライト点灯表示灯
- ハイビーム表示灯
- ABS 警告灯
- VSA 警告灯
- VSA OFF 警告灯
- ブレーキ警告灯(レッド)
- ブレーキシステム 警告灯(オレンジ)
- PGM-FI 警告灯
- EPS 警告灯
- 12V バッテリー 充電警告灯
- 油圧警告灯
- セキュリティアラーム システム作動表示灯
- オートマチックブレーキ ホールドシステム表示灯
- オートマチックブレーキ ホールド表示灯
- 路外逸脱抑制機能警告灯
- SPORT モード表示灯



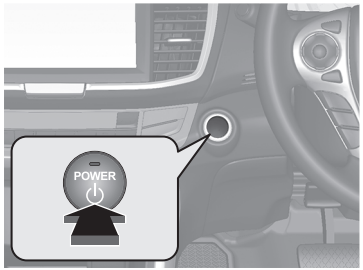
警告灯 / 表示灯

- インフォメーション 表示灯
- ACC 渋滞追従機能付 ACC 警告灯 / 表示灯
- LKAS LKAS 警告灯 / 表示灯
- CMBS 警告灯
- EV モード表示灯
- READY READY 表示灯
- EV 表示灯
- POWER SYSTEM パワーシステム警告灯
- ECON 表示灯
- エアバッグシステム 警告灯
- Honda スマートキー システム警告灯
- イモビライザー システム表示灯
- シートベルト 非着用警告灯
- 燃料残量警告灯
- 電子制御パーキングブレーキシステム警告灯
- 電子制御パーキングブレーキ作動警告灯

各部の操作 P.121

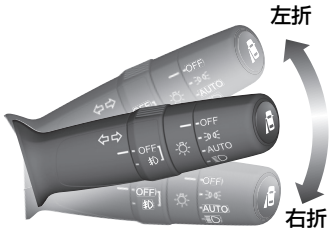
POWER スイッチ P.145

スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



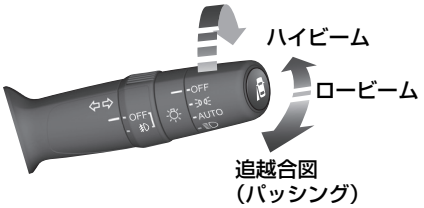
ウィンカー P.148

方向指示器(ウィンカー)スイッチ



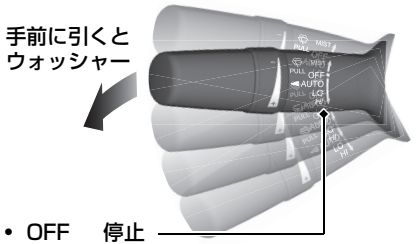
ライト P.150

ライトスイッチ



ワイパー P.152

ワイパー/ ウォッシャースイッチ

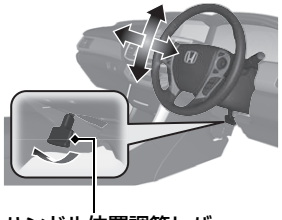


- OFF　停止
- AUTO　自動作動
- LO　低速
- HI　高速

ハンドル位置の調節

P. 158

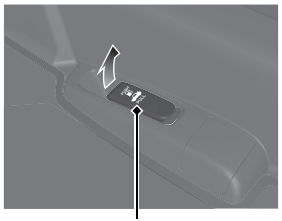
●ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルの位置を調節します。



ハンドル位置調節レバー

トランク P. 134

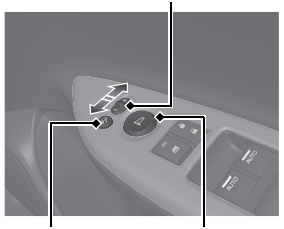
●トランクは、運転席右下にあるトランクオープナーを引くか、キーレスエントリーのトランク解錠ボタン、トランクオープンスイッチを押して開きます。



トランクオープナー

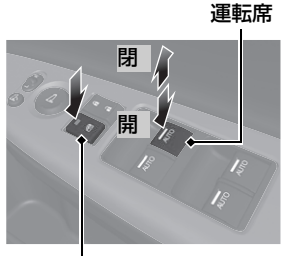
ドアミラー P. 160

●パワーモードが ON モードのとき、左右のドアミラーの格納または角度の調節ができます。



パワーウィンドー P. 139

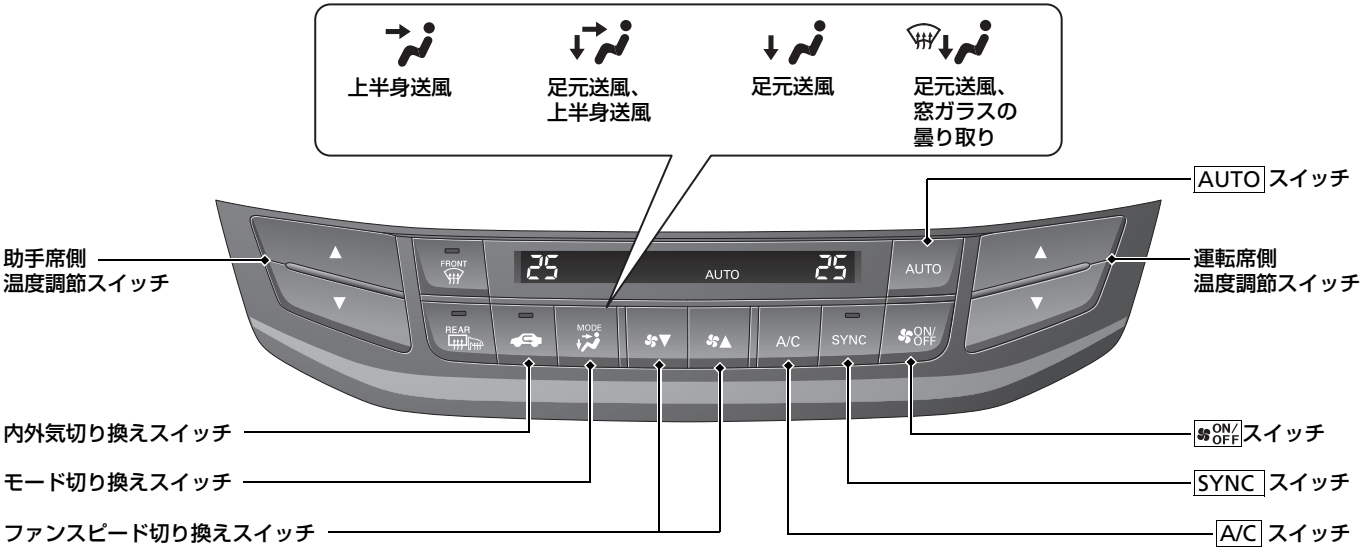
●パワーモードが ON モードのとき、ウィンドーの開閉ができます。



パワーウィンドーロックボタン
- ON　運転席以外のウィンドーが非作動
- OFF　全てのウィンドーが作動

エアコン P.181

●AUTO を押すと、オートエアコンが作動します。
●ON/OFFを押すと、止まります。
●前面ガラスの曇りを取るには、FRONTを押します。



運転 P.189

電子制御シフトポジションスイッチ P.200

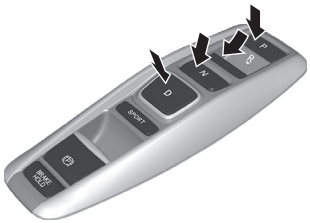
●パーキングスイッチを押し、ブレーキを踏みながらパワーシステムを起動します。
●シフトポジションの選択





シフトポジション表示灯
選択されたシフトポジションと現在のギアポジションが表示されます。





P パーキング
駐車またはパワーシステムを起動するとき

R リバース
車を後退

N ニュートラル
駆動力が伝達されない状態

D ドライブ
- 通常走行
- 一時的に減速セレクタ ― を使用するとき
- 減速セレクタ ― を使用するとき （SPORT モード走行時）

減速セレクター

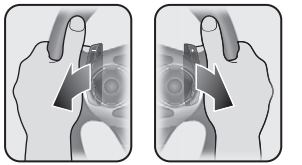
ハンドルにあるセレクターで、アクセルペダルを離したときの減速の強さをハンドルから手を離さずに、4 段階で変更できます。
解除したいときは[+]のセレクターを数秒間引き続けます

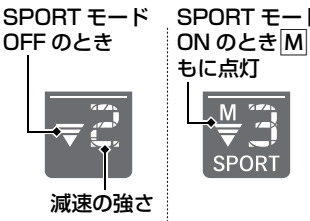
SPORT モードスイッチが OFF のとき

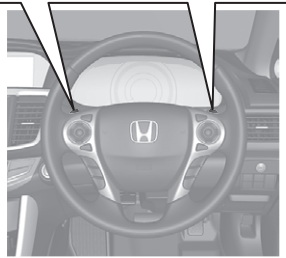
●ハンドルにあるセレクターを引くと、一時的に減速の強さが変更され、メーター内に減速の強さを表示します。

SPORT モードスイッチが ON のとき

●ハンドルにあるセレクターを引くと、減速の強さが変更され、メーター内に減速の強さと[M]が表示されます。







CMBS OFF スイッチ

P. 283

- CMBS は、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり追突の衝撃を軽減する装置です。
- CMBS を停止(OFF)状態にするには、CMBS OFF を「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)にするには CMBS OFF を「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。

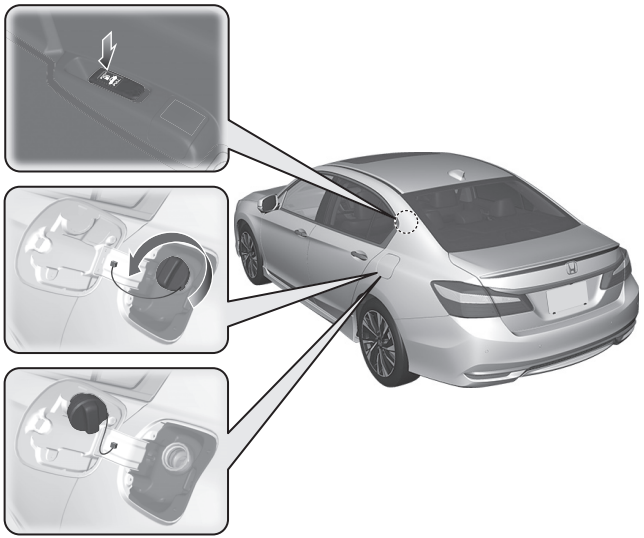
VSA P. 249

- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- VSA を停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)するにはを「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。
- パワーシステムを起動すると自動的に VSA は ON になります。

ガソリンを入れる P. 294

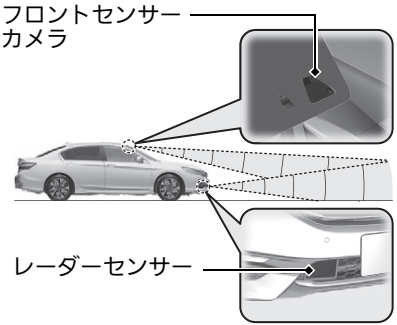
指定燃料：
無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)
タンク容量：60 リットル

1. 運転席右下にあるフューエルリッドオープナーを押す。
2. ツマミをゆっくり回してキャップを開ける。
3. キャップをホルダーにかける。



ホンダセンシング

フロントバンパー内に設置したレーダーセンサーと、フロントウインドウ内上部に設置したフロントセンサーカメラの、特性の異なる2種類のセンサーで構成された運転支援システムです。



渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール) P. 216

先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。

LKAS(車線維持支援システム) P. 230

左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

路外逸脱抑制機能 P. 255

車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

標識認識機能 P. 242

走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。

先行車発進お知らせ機能 P. 251

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。

歩行者事故低減ステアリング P. 261

歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

衝突軽減ブレーキ(CMBS) P. 278

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるときおよび歩行者に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝撃を軽減するシステムです。

誤発進抑制機能 P. 285

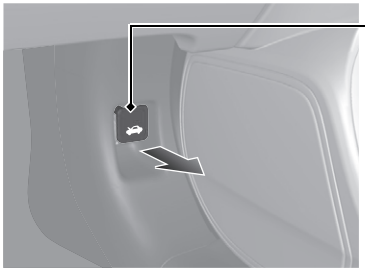
停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、パワーシステム出力を抑制し、急な発進を防止して衝突時の衝撃を軽減する機能です。

メンテナンス P. 298

エンジンルーム P. 301

●冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。
●12V バッテリーを点検します。

❶ 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。

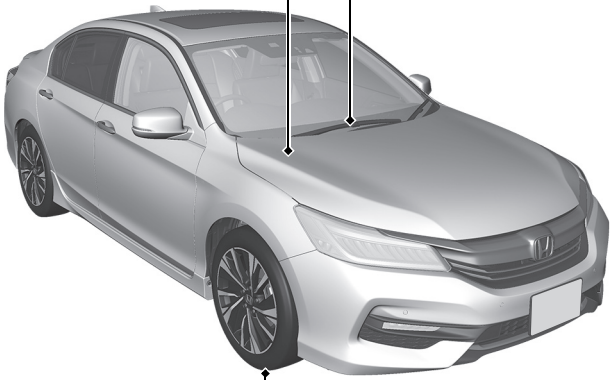


❷ レバーを上げボンネットを開ける。



ワイパーブレード P. 310

●拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。



タイヤ P. 312

●タイヤ、ホイールを点検します。
●降雪地域では、スノータイヤ、タイヤチェーンが必要です。



ライト P. 304

●後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯、後退灯電球などの点検または交換を行います。
●電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
●ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。

万一の場合には P. 327

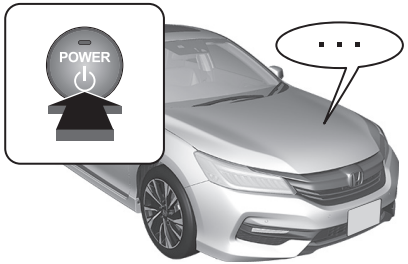
パンクした P. 330

●安全な場所に停車し、パンク修理キットで応急修理します。



パワーシステムが起動しない P. 342

●バッテリーあがりが考えられます。救援車のバッテリーを利用してパワーシステムを起動します。



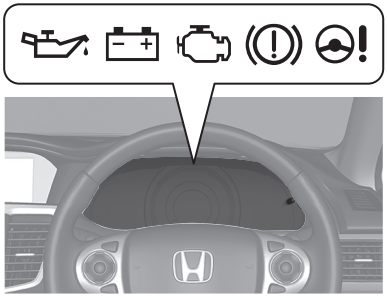
オーバーヒートした P. 348

●安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。



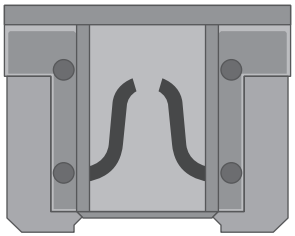
警告灯が点灯した P. 351

●詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



ヒューズが切れた P. 356

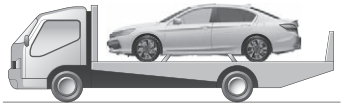
●運転席の足元とエンジンルーム内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



けん引してもらいたい

P. 360

●必ず専門業者に依頼してください。



こんなときは

Q ブレーキペダルを踏んだら ガタガタと振動した

A

- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

Q 後席ドアが車内から開けられない

A

- チャイルドプルーフが施錠の位置になっていませんか？
後席ドアを外から開け、チャイルドプルーフのツマミを解錠の位置にしてください。



Q キーレスエントリーでドアを解錠したはずなのに施錠されている

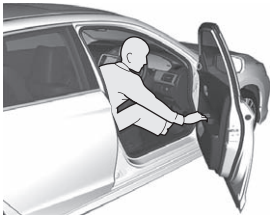
A

- キーレスエントリー、Honda スマートキーで解錠してから、約 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



Q **運転席ドアを開けるとブザーが鳴る**

A
- パワーモードをアクセサリー モードにしていませんか？
- ライトを消し忘れていませんか？



Q **走行するとブザーが鳴る**

A
- 運転席または助手席シートベルトを着用していますか？

Q **走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする**

A
- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。

Q **パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない**

A
- ブレーキペダルを踏んでスイッチを操作していますか？

Q アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない

A
- 運転席シートベルトを着用していますか？
- シフトポジションが、 P 、 N 以外になっていますか？

Q 車を後退させるとき、後方を確認するために運転席ドアを開けるとシフトポジションが P になって車が停止した

A
- 運転席シートベルトを着用していますか？
  運転席ドアを閉めて、改めてシフト操作を行ってください。
  ▶ ドア Open 自動パーキング選択制御 P. 202

Q レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか？

A
- プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの
⚠警告	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
⚠注意	指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

HondaおよびHondaが委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。
なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

HondaおよびHondaが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

目次

安全なドライブ P.30

安全なドライブのために 31　シートベルト 32　エアバッグ 39　お子さまの安全 47
排気ガスの危険性 59

計器の見かた P.60

警告灯と表示灯 61　メーターとマルチインフォメーションディスプレイ 98

各部の操作 P.121

時刻の設定 122　ドアロック 123　トランク 134
セキュリティシステム 137　ウィンドー 139　サンルーフ 142　ハンドルまわりのスイッチ 145
ミラー類 159　シート 163　室内灯 / 室内装備品 169　エアコン 181

オーディオ P.187

オーディオ装置 188

運転 P.189

運転の前に 190　運転 192　ブレーキ 270　駐停車 287
リアカメラシステム 293　給油 294

メンテナンス P.298

メンテナンスの前に 299　エンジンルーム内 301　電球 304　ワイパー 310
タイヤ 312　Honda スマートキー 317　エアコンのお手入れ 319　清掃 321
アクセサリーと改造 325

万一の場合には P.327

工具、発炎筒 328　パンク 330　ジャッキ 340
パワーシステムが起動しない 342　ジャンプスタート 346　オーバーヒート 348
警告灯が点灯 / 点滅した 351　ヒューズ 356　けん引 360

資料 P.361

仕様 362

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。



安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を
確保してください。

安全なドライブのために 31
シートベルト
シートベルトについて 32
シートベルトの着用 35
シートベルトの点検 38
シートベルトのアンカーポイント 38
エアバッグ
エアバッグの種類 39
SRS エアバッグ 39
サイドエアバッグ 42
サイドカーテンエアバッグ 44
エアバッグシステム警告灯 46
エアバッグのお手入れ 46
お子さまの安全 47
乳幼児の安全 48
大きなお子さまの安全 57
排気ガスの危険性
一酸化炭素について 59

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、トランクは完全に閉まっているか？
  ▶すべてのドア、トランクが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
  ➔ **車内での施錠 / 解錠** P.130
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
  ▶正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
  ➔ **フロントシート** P.163
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
  ▶ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
  ➔ **フロントシート** P.163
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
  ▶運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
  ➔ **シートベルトの着用** P.35
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
  ▶エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
  ➔ **エアバッグ** P.39
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
  ▶お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  ➔ **お子さまの安全** P.47
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを P にしているか？
  ▶さらにタイヤに輪止めをすると効果があります。
  ➔ **シフト操作** P.200

安全のための確認事項

ドアやトランクが開いていたり、完全に閉まっていないと警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

ドア、トランクをもう一度正しく閉め直してください。警告表示は消灯し、正常な状態に戻ります。

➔ **ドア / トランク開閉警告** P.82

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

シートベルトについて

⚠警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

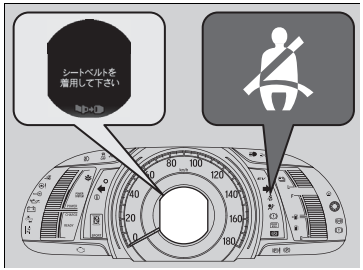
乗車中は正しい姿勢を保つ。

正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

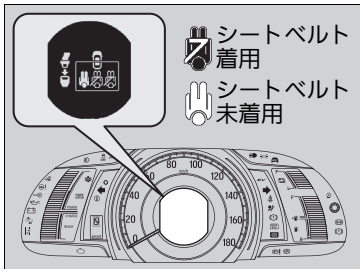
シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

■シートベルトリマインダー



■フロントシート

パワーモードをONモードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。



■リヤシート

リヤシートのシートベルト使用状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押して画面を表示します。

シートベルトリマインダー

- 運転席または助手席シートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- セレクトレバーを R に入れたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。
- 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。

次ページに続く

■シートベルトプリテンショナー

フロントシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。



▶シートベルトプリテンショナー

⚠注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。
衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

側面からの衝突により、シートベルトプリテンショナーが作動します。

SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

シートベルトの着用

■三点式シートベルト



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。

シートベルトの着用

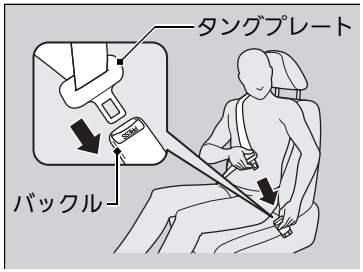
⚠警告

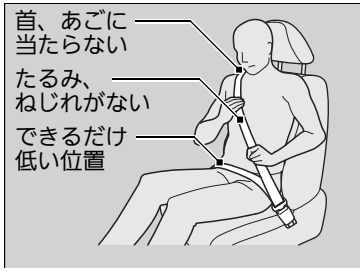
シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

次ページに続く





3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。

4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
▶ 肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
▶ 腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
▶ ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。

5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

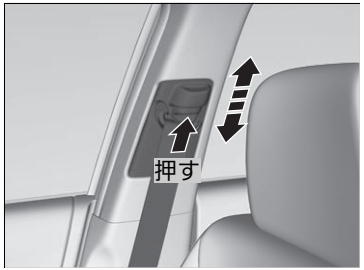
シートベルトの着用

シートベルトを外すには、バックルの赤色の PRESS を押してください。
そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

■ショルダーアンカーの高さ調節

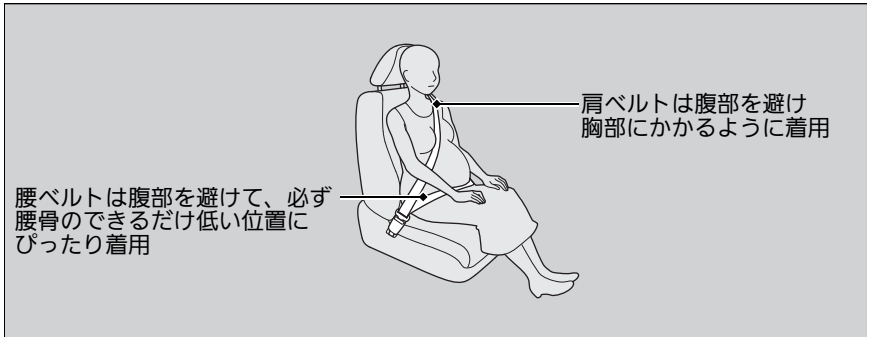


フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダーアンカーの解除ボタンを押しながら、アンカーを上下に動かす。
2. ちょうどよい高さで解除ボタンを離し、ショルダーアンカーを固定する。

■妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



⊠ショルダーアンカーの高さ調節

⚠注意

調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されているか確認する。

安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかっていることを確認してください。

ベルトが首やあごに当たるときは、下げて調節してください。

⊠妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

⚠注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。
万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

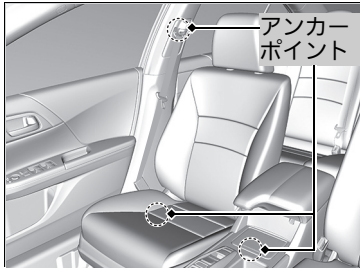
シートベルトの点検

シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。

点検の確認ポイントは下記のとおりです。

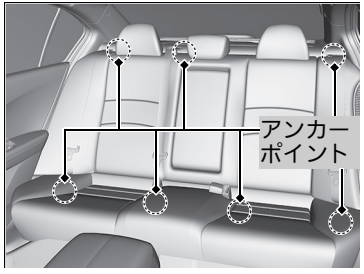
- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。

フロントシートには三点式シートベルトが使われています。



リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

▶シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。

ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードがONモードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。
エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**：フロントシートの前方向エアバッグ
- **サイドエアバッグ**：フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ**：窓側の天井部両側についたエアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストレイントシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

次ページに続く

エアバッグの種類

⚠警告

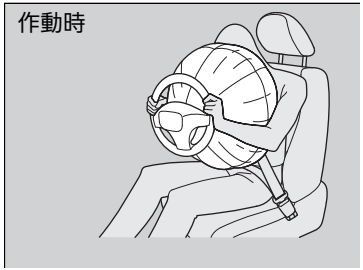
エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。
エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

■ SRS エアバッグの作動



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

SRS エアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

エアバッグの作動は、衝突状況とシートベルト着用の有無により異なります。
そのため、運転席または助手席のエアバッグが片側のみ作動することがあります。

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。
- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

SRS エアバッグの作動

⚠注意

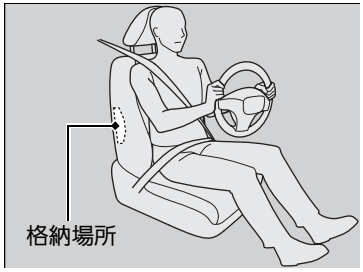
SRS エアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

サイドエアバッグ

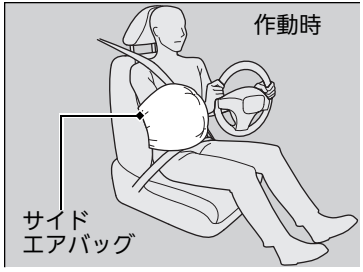
フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

■格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。
どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ



サイドエアバッグは、約 30km/h 以上の速度で自車と同等の車が真横から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたときに運転席または助手席のサイドエアバッグが膨らみます。

車両側面に斜めから衝突された場合、サイドエアバッグが作動するときの車速は高くなります。

▶サイドエアバッグ

⚠注意

ドアやその周辺にアクセサリーなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。
正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

サイドエアバッグ

⚠注意

ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。
後席の同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。
サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

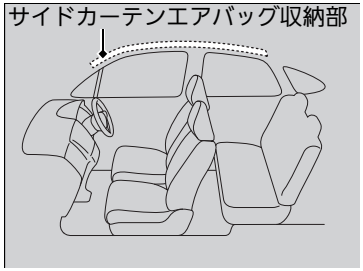
サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

サイドカーテンエアバッグ

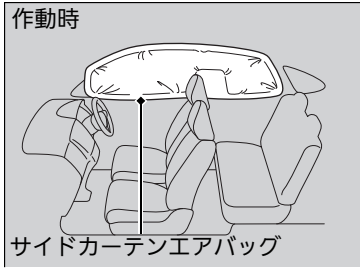
窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

■格納場所



運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。
どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ



サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

作動条件 P.43

▶サイドカーテンエアバッグ

⚠注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない
- コートフックに重いものやとがったものをかけない

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。

サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

■前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

サイドカーテンエアバッグ

⚠注意

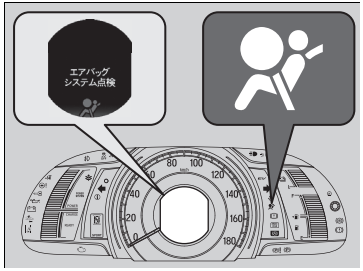
サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。
収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

■エアバッグシステム警告灯



■パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■異常が発生したとき

エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。 ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

≫エアバッグシステム警告灯

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。
パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

≫エアバッグが作動し、膨らんだとき

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはリヤシートに乗せる
  ▶お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
  また、SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  ▶お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。 正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
  ▶乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
  ▶走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  ▶思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  ▶お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠警告

チャイルドシートは後席に設置する。
助手席に設置するとSRSエアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

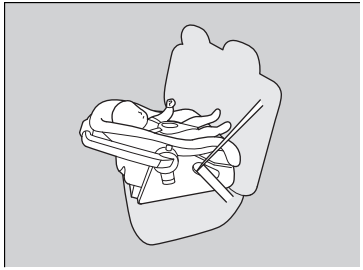
お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置することができます。
推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。

≫乳児のチャイルドシート

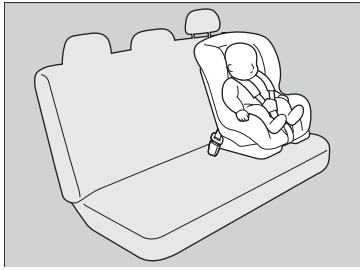
⚠警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。
前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。
助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

■幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■前向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートへの設置を推奨します。

幼児のチャイルドシート

⚠警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

次ページに続く

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは汎用型 ISOFIX チャイルドシートをお選びください。
シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。
汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に付属しているロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の3つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること。
  UN-ECE R44 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

≫チャイルドシートの選びかた

汎用型ISOFIXチャイルドシートは取り付けが簡単です。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きる傷害を減らすために開発されたものです。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

■シートベルトで固定するチャイルドシートについて

この車には様々なタイプのチャイルドシートが利用可能ですが、すべてのタイプが適当であるというわけではありません。
次の表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ベルト固定タイプ チャイルドシート 重量区分	座席位置 前席 助手席	後席 外側席	後席 中央席
グループ 0 ～ 10kg	X	U	U
グループ 0＋ ～ 13kg	X	U	U
グループ I 9kg ～ 18kg	UF※	U	U
グループ II 15kg ～ 25kg	UF※	U	U
グループ III 22kg ～ 36kg	UF※	U	U

記号の説明

U　：汎用(ユニバーサル)チャイルドシートを備えることができることを示す。
UF　：汎用(ユニバーサル)チャイルドシートを前向きに備えることができることを示す。
※　：チャイルドシートを前向きに取り付ける場合はシートバックを最も前のロック位置に調節すること。
X　：チャイルドシートを装備できないことを示す。

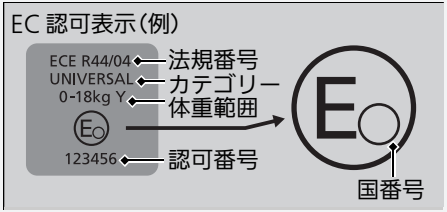
次ページに続く

シートベルトで固定するチャイルドシートについて

チャイルドシートに関する国連の安全基準であるUN-ECE R44に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。

チャイルドシートをご購入する際は、質量グループに一致したものをお選びください。

U と UF のチャイルドシートには、UN-ECE R44 認可表示と取扱説明書に UNIVERSAL (汎用)と案内されているものもあります。



汎用型ISOFIX チャイルドシート以外のチャイルドシートを使用するときは、シートの種類や取り付けの向きにより固定金具(ロッキングクリップ)が必要になる場合があります。

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

■汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

この車のリヤシートの外側 2 座席には汎用型 ISOFIX チャイルドシートを取付けるためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジを装備しています。
次ページの表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

▶汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシート 重量区分	サイズ等級	固定具	ISOFIX 位置		
			前席	後席	
			助手席	外側席	中央席
キャリコット	F	ISO/L1	—	X	—
	G	ISO/L2	—	X	—
グループ 0 ～ 10kg	E	ISO/R1	—	IL	—
グループ 0＋ ～ 13kg	E	ISO/R1	—	IL	—
	D	ISO/R2	—	X	—
	C	ISO/R3	—	X	—
グループ I 9kg ～ 18kg	D	ISO/R2	—	X	—
	C	ISO/R3	—	X	—
	B	ISO/F2	—	IUF	—
	B1	ISO/F2X	—	IUF	—
	A	ISO/F3	—	IUF	—
グループ II 15kg ～ 25kg	—	—	—	X	—
グループ III 22kg ～ 36kg	—	—	—	X	—

記号の説明

IUF ：汎用(ユニバーサル)ISOFIX チャイルドシートを前向きに備えることができることを示す。

IL ：Honda Baby ISOFIX チャイルドシートまたは Honda ISOFIX Neo チャイルドシートを備えることができることを示す。

X ：ISOFIX チャイルドシートを装備できないことを示す。

次ページに続く

汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

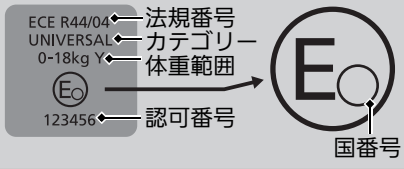
チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高

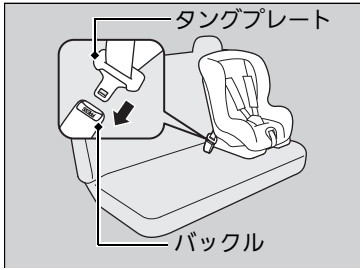
Honda 純正 Honda Baby ISOFIX または Honda ISOFIX NEO のご購入は Honda 販売店にご相談ください。

IUF のチャイルドシートには、UN-ECE R44 認可表示と取扱説明書に UNIVERSAL ISOFIX(汎用)と案内があります。

EC 認可表示(例)



■シートベルトでの取り付け



1. チャイルドシートを座席に置く。

2. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。

▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。



3. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。

4. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

■チャイルドシートの取り外し

バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

シートベルトでの取り付け

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

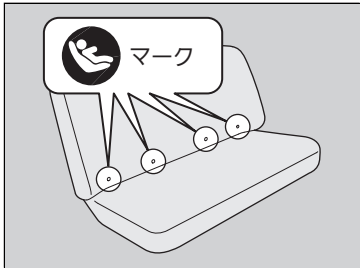
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

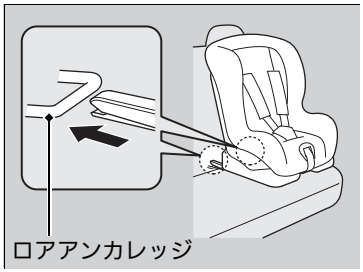
チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

■汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に設置できます。チャイルドシートは、ロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定します。



1. マークの下にあるシートのすき間からロアアンカレッジを確認する。



2. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがってロアアンカレッジに取り付ける。

▶取り付けの際に、異物やシートベルトなどがロアアンカレッジにかみ込まないようにしてください。

⩙汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

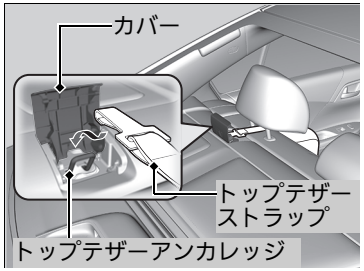
⚠注意

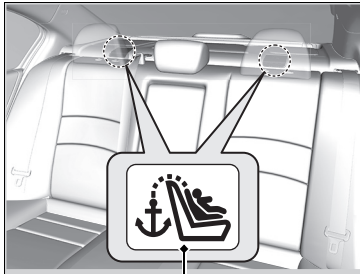
ロアアンカレッジ周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。
異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

汎用型ISOFIXチャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

次ページに続く





3. ヘッドレストの後ろにあるカバーを開ける。

4. ヘッドレストを調節して最上段で固定し、トップテザーストラップをヘッドレストの下に通す。

▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。

5. トップテザーストラップをトップテザーアンカレッジに引っかけ、ストラップを締める。

6. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

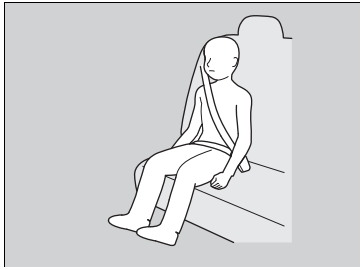
⚠注意

トップテザーアンカレッジシンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。

大きなお子さまの安全

■シートの使用について

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

大きなお子さまの安全

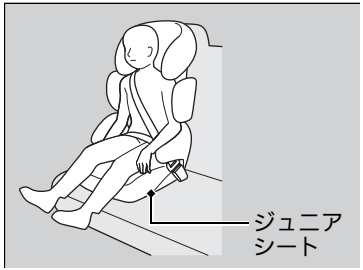
⚠警告

お子さまは助手席に乗せない。
お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。
やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

やむをえずお子さまを助手席に乗せる場合は、次ページの注意事項を厳守してください。

次ページに続く

■ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。
安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

■やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- この取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

▶ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。
ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。
以下の場合は、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

一酸化炭素について

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。
ガレージのドアを閉めたままパワーシステムを起動させないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にパワーシステムを起動するようにしてください。

計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、
メーター類に関する情報を記載しています。



警告灯と表示灯
警告灯 61
表示灯 73
マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ..... 78
メーターとマルチインフォメーションディスプレイ
メーター..... 98
マルチインフォメーションディスプレイ..... 99

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキ警告灯（レッド）	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ブレーキフルード量が低下したときに点灯 • ブレーキシステムが異常のときに点灯	• 走行中に点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • ABS警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 **➡ ブレーキ警告灯（レッド）が点灯した** P.352 • ブレーキシステム警告灯（オレンジ）と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店で点検を受けてください。 このとき、ブレーキペダルの操作が重くなることがありますので、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。	

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • オートマチックブレーキホールドシステムが異常のときに点灯 • 回生ブレーキシステム、電動サーボブレーキシステム、ヒルスタートアシストシステムのいずれかが異常のときに点灯 • ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、高速走行や急停止を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
(P)	電子制御パーキングブレーキ作動警告灯	• パワーモードをON モードにすると数秒点灯したあと、消灯(パーキングブレーキをかけているときは点灯)	• 電子制御パーキングブレーキが異常のとき、電子制御パーキングブレーキシステム警告灯の点灯と同時に点滅することがあります。この場合、パーキングブレーキが作動しないことがあります。	—
		• 走行中、パーキングスイッチを引き続けたとき	• パーキングブレーキを解除してください。 ➡ **電子制御パーキングブレーキ** P.270	
		• ブレーキペダルを踏まずにパーキングブレーキスイッチを押したとき点灯	• ブレーキペダルを踏んでパーキングブレーキスイッチを押してください。 ➡ **電子制御パーキングブレーキ** P.270	
		• パワーモードが OFF モードのとき、パーキングブレーキスイッチを引くと約 15 秒間点灯し消灯 • パーキングブレーキがかかっていると、パワーモードを OFF モードにしたとき、約 15 秒間点灯し消灯	—	—
(P)!	電子制御パーキングブレーキシステム警告灯	• パワーモードをON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 電子制御パーキングブレーキが異常のときに点灯	• 点灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ➡ **電子制御パーキングブレーキシステム警告灯が点灯した** P.354	

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
POWER SYSTEM	パワーシステム警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • パワーシステムが異常のときに点灯	• **走行中に点灯**＝ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
	油圧警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯	• **走行中に点灯**＝ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 ➡ **油圧警告灯が点灯した** P.351	
	PGM-FI 警告灯	• パワーモードをONモードにすると点灯し、パワーシステムが起動したときまたは、数秒後にパワーシステムが起動しなかったときは消灯 • エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 • エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	• **走行中に点灯**＝高速走行を避けてただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • **走行中に点滅**＝枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上パワーモードをOFFモードにして冷えるのをお待ちください。 ➡ **PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した** P.352	
	12V バッテリー充電警告灯	• パワーモードをONモードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 • 12Vバッテリーが充電されていないと点灯	• **走行中に点灯**＝電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどを OFF にし、対処してください。 ➡ **12V バッテリー充電警告灯が点灯した** P.351	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	トランスミッション警告灯	• トランスミッションが異常のときに選択しているシフトポジションが点滅	• 点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
		• トランスミッションの異常が発生し、シフトポジションを[P]にできないとき、選択しているシフトポジションもしくは全てのシフトポジションが同時に点滅	• 停車するときはパーキングブレーキをかけてください。 • ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
	シートベルト非着用警告灯	• 運転席または助手席のシートベルトを着用しないと点灯 • パワーモードをONモードにしたときに、運転席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅 • 走行中に運転席または助手席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	• シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 • シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ➔ **シートベルトリマインダー** P.33	

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	Honda スマートキーシステム警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • Honda スマートキーシステムが異常のときに点灯	• 下記のような場合、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • 運転中に点灯した • パワーシステム起動後も消灯しない • パワーモードがOFFモードのときに数秒間点灯した • パワーモードをOFFモードにしたときに数秒間点灯した	
	燃料残量警告灯	• 燃料の残量が少なくなると点灯 • 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ 8 リットルになったときです。 • 燃料計に異常があるときは点滅	• 点灯したら早めに給油してください。 • 点滅したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	 
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ABS が異常のときに点灯	• 点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABS は作動しません。 **➔ ABS(アンチロックブレーキシステム)** P.275	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
ACC	渋滞追従機能付ACC(アダプティブクルーズコントロール)警告灯(オレンジ)	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 渋滞追従機能付 ACC システムが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下るとシステムは復帰します。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。	
		• フロントバンパーが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 安全な場所に停車してフロントバンパーの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 **➔ ホンダセンシング** P.22	

次ページに続く

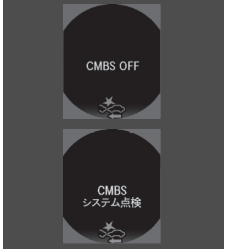
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
LKAS	LKAS（車線維持支援システム）警告灯（オレンジ）	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • LKASが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下るとシステムは復帰します。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ

	エアバッグシステム警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯
		• 下記のとき点灯
		  • エアバッグシステムの異常
		  • プリテンショナーシステムの異常
			• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。	

	VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • VSA が作動しているときは点滅 • ブレーキアシストシステム、VSA システムのいずれかが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 **➔ VSA(ビークルスタビリティアシスト)** P.249	
	VSA OFF 警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • VSA を OFF にすると点灯	**➔ VSA(ビークルスタビリティアシスト)** P.249	—
	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	• パワーモードをONモードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 • EPSシステムの機能に異常があると点灯	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 **➔ EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した** P.353	

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	CMBS（衝突軽減ブレーキ）警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • CMBS を OFF にしているとき点灯 • CMBS に異常があるとき点灯	• OFFにしていないのに点灯する場合は、いくつかの理由が考えられます。 ➔ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.278	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	CMBS（衝突軽減ブレーキ）警告灯	• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下るとシステムは復帰します。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。	
		• フロントバンパーが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 安全な場所に停車してフロントバンパーの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 **➡ ホンダセンシング** P.22	

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	路外逸脱抑制機能警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 路外逸脱抑制システムに異常があるとき点灯	• 点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。	
		• フロントバンパーが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 安全な場所に停車してフロントバンパーの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **ホンダセンシング** P.22	

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	方向指示器表示灯	• 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 • 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅 • 高速で走行中に急ブレーキをかけると、左右同時に点滅	• 点滅しない/点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 ➔ **電球の交換** P.304, 305, 306 ➔ **エマージェンシーストップシグナル** P.277	—
	ハイビーム表示灯	• ヘッドライトを上向きにしたときに点灯	—	—
	ライト点灯表示灯	• ライトスイッチが OFF 以外のときに点灯(AUTO のときは車幅灯点灯時に点灯)	• ライトを点灯したままパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。	—
	フォグライト点灯表示灯	• フォグライトを点灯させると点灯	—	—
	シフトポジション表示灯	• 現在のポジションで点灯	➔ **シフト操作** P.200	—
	減速セレクター表示灯	• 減速セレクター作動時に減速の強さを表示 • 減速セレクターを操作しても減速の強さが変わらないと点滅 • SPORT モードのときに減速セレクターを作動させるとMが点灯	➔ **減速セレクター** P.204	—

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	イモビライザーシステム表示灯	• パワーモードをONモードにすると一瞬点灯し、すぐに消灯 • イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	• 一瞬の点灯は異常ではありません。 • 点滅しているときは、パワーシステムを起動することはできません。パワーモードをいったんOFFモードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 販売店で点検を受けてください。 • POWER スイッチのそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。	—
	インフォメーション表示灯	• 異常を検知すると警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に点灯	• メッセージが表示されたときは、表示灯、警告灯の該当ページを参照して、必要な処置を行ってください。 • メッセージは、警告が解除されるか、インフォメーション(🛈)スイッチ(▲/▼)を押すまで通常表示に戻りません。 • 点灯しているときにインフォメーション(🛈)スイッチ(▲/▼)を押すと、メッセージを再表示させる事ができます。	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	セキュリティアラームシステム作動表示灯	• セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	**セキュリティアラームシステム** P.137	—
ACC	渋滞追従機能付ACC(アダプティブクルーズコントロール)表示灯(グリーン)	• MAINスイッチを押して、渋滞追従機能付 ACC を ON にするとマルチインフォメーションディスプレイ内で点灯	**渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.216	—
LKAS	LKAS(レーンキープアシストシステム)表示灯(グリーン)	• MAIN スイッチを押して、LKAS を ON にするとマルチインフォメーションディスプレイ内で点灯	**LKAS(車線維持支援システム)** P.230	—
	ECON 表示灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ECONスイッチを押して、ECONモードにすると点灯	**ECON スイッチ** P.207	

次ページに続く

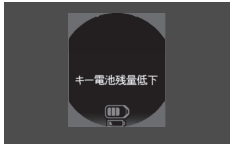
表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
READY	READY 表示灯	• パワーシステム起動後、走行が可能な状態のときに点灯	• 故障が発生したときには消灯することがあります。 ➔ **パワーシステムの起動** P.192	
EV	EV 表示灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • モーターだけでの走行になると点灯します。	—	—
EV	EV モード表示灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • EV モードのときに点灯	➔ **SPORT HYBRID i-MMD（インテリジェントマルチモードドライブ）** P.5	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
SPORT	SPORT モード表示灯	• パワーモードが ON モードのとき、SPORT モードスイッチを押すと点灯	**SPORT モードスイッチ** P.206	
BRAKE HOLD	オートマチックブレーキホールドシステム表示灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • オートマチックブレーキホールドシステムが ON のとき点灯	**オートマチックブレーキホールド** P.272	
(Ⓐ)	オートマチックブレーキホールド表示灯	• パワーモードをON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • オートマチックブレーキホールドが作動しているとき点灯	**オートマチックブレーキホールド** P.272	—

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ

下記のメッセージはマルチインフォメーションディスプレイにのみ表示されます。
再表示させるときはインフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パワーモードが ON モードのときに、外気温が 3 ℃以下になると 1 回のみ表示	—
	• エンジン冷却水の温度が異常に上がると表示	• ゆっくり走行してください。
	• エンジン冷却水の温度が上限近くまで上がると表示	• ただちに安全な場所に停車し、エンジンを冷やしてください。 ➔ **オーバーヒート** P.348
	• オートライトコントロールシステムに異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、Honda販売店で点検を受けてください。 ➔ **ライトスイッチ** P.150
	• パワーモードがアクセサリーモードのときに運転席のドアを開けると表示	• ブレーキペダルを踏まずに POWER を2回押して、パワーモードを OFF モードにしてください。 ➔ **POWER スイッチ** P.145

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パワーモードがアクセサリーモードのときに表示	—
	• パワーモードがONモードで、Hondaスマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示 **➡ Honda スマートキー持ち去り警告** P.147	• パワーモード ON の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。
	• Hondaスマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に表示	**➡ Honda スマートキーの取り扱いと電池交換** P.317

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 以下のとき、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ設定をすると表示 • セレクトレバーが P 以外のとき	➔ **カスタマイズのしかた** P.111
	• ロービームヘッドライトの機能に異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。
	• オーディオ/インフォメーション画面でカスタマイズ中に、マルチインフォメーションディスプレイでカスタマイズ操作をすると表示	• オーディオ / インフォメーション画面とマルチインフォメーションディスプレイの両方で同時にカスタマイズ設定は行えません。 ➔ **カスタマイズ機能** P.109
	• パワーモードがアクセサリーモードまたは ON モードのときに表示	➔ **パワーシステムの起動** P.192

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときや Honda スマートキーが車内にないときに、 POWER スイッチを押すと、警告音と同時に表示	➔ **Honda スマートキーの微弱電波** P.125 ➔ **POWER スイッチ** P.145 ➔ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.344
	• 「キーでスイッチに触れてください」と表示された後、Honda スマートキーを POWER に接触させた数秒後に表示 ▶ その後、「システム起動：ブレーキを踏みスイッチを押す」と表示されます。	➔ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.344
	• バッテリーセンサーの機能に異常があると表示 • バッテリーが充電されていないと表示	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • **バッテリー充電警告灯が同時に点灯しているとき**＝電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどを OFF にし、対処してください。 ➔ **12V バッテリー充電警告灯が点灯した** P.351

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• ドア / トランクが完全に閉まっていないときに表示	• ドア / トランクを完全に閉めてください。
	• パワーシステムの温度が高いときに表示	• 加速しにくくなります。また、上り坂などでの発進が困難になる場合があります。 • 安全な場所に車を止め、冷却してください。 ➔ **オーバーヒート** P.348
	• パワーシステムの温度が低いときに表示	• 加速しにくくなります。また、上り坂などでの発進が困難になる場合があります。 • メッセージを表示させないようにするためには、車両を車庫に保管するか、事前に走行して高電圧バッテリーを温めておきます。
	• 高電圧バッテリーの温度が極度に低いとき(− 40 ℃以下)	• バッテリー温度が上がるまでお待ちください。または温度の高い所へ移動してください。 • 必要に応じてHonda販売店に相談してください。
	• 外気温の影響により高電圧バッテリーの温度が著しく低いとき(− 30 ℃以下)	• 高電圧バッテリーの温度が上昇するまで走行できません。 • 車内を暖房すると高電圧バッテリーが暖まり、走行可能になるまでの時間を短縮できます。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パワーシステムが自己診断モードになると表示	• 車速を維持できない場合があります。また、減速する場合があります。 ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • 自己診断の結果によっては、パワーシステム警告灯も点灯する場合があります。 **パワーシステム警告灯** P.64
	• 車両接近通報システムに異常があると表示	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• EV スイッチを押したとき、加速などでエンジン駆動していると表示	• EV モードは低速で一定な走行中に利用できます。
	• EV スイッチを押したとき、高速走行でエンジン駆動していると表示	• 高速走行中はEVモードの走行はできません。
	• 12V バッテリー充電警告灯点灯後に表示	• 加速しにくくなります。また、上り坂などでの発進が困難になる場合があります。 • ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• EV スイッチを押したとき、暖房のためエンジン駆動していると表示	• エアコンの設定温度に達するまでEVモードの走行はできません。
	• EV スイッチを押したとき、エンジン暖機中に表示	• エンジンが温まったあと、再度EVスイッチを押してください。
	• EV スイッチを押したとき、高電圧バッテリーの残量が少ないと表示	• 高電圧バッテリーが充電されたあと、再度EVスイッチを押してください。
	• EV スイッチを押したとき、高電圧バッテリーの温度が低いと表示	• しばらく走行し高電圧バッテリーが温まってから、再度 EV スイッチを押してください。
	• EV スイッチを押したとき、エンジン駆動が必要なときに表示	—

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• シートベルトを着用しないで、パワーモードをONモードにすると表示	• 運転するときは、シートベルトを正しく着用してください。
	• ドアオープン自動パーキング選択制御により自動で[P]になった後、ドアを閉めずにシートベルトを装着しないままシフト操作し、ブレーキペダルを離すと表示	➔ **自動パーキング選択制御** P.202
	• パワーモードがONモードのときに、リヤシートベルトの使用状況を表示	➔ **シートベルトリマインダー** P.33
	• エンジンの冷却システムが異常のときに表示	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

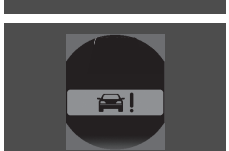
次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• ブレーキペダルを踏まずに、シフトポジションの P N から他のシフトポジションを選択したときに表示	• ブレーキペダルを踏んで、シフトポジションの操作を行ってください。
	• アクセルペダルから足を離さずに、シフトポジションの P N から他のシフトポジションを選択したときに表示	• アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んで、シフトポジションの操作を行ってください。
	• 停車させずにパーキングスイッチを押したとき • 走行中、停車させずに進行方向と反対のシフトポジションを選択したときに表示	• シフトポジションを操作する時は、はじめに停車させてください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 電気系統に失陥の可能性があると表示 • 走行中にパワーモードを OFF モードにすると表示	• ただちに安全な場所に車を停車してパーキングブレーキをかけてください。 • メッセージが消えれば異常はありません。 • 異常があるとトランスミッション警告灯が点灯 / 点滅します。 ➡ **トランスミッション警告灯** P.65
	• 停車後にシフトポジションを N にし、5 秒以内に POWER スイッチを押したときに表示	• シフトポジションは N で保持されますが、保持制御開始直後に POWER スイッチを押すか約 15 分経過すると自動的に P になります。 ➡ **アクセサリーモード時の N ポジション保持制御** P.202
	• 車両が停止中に運転者がシートベルトを外し、車両が動く可能性があるときに表示	• 停車中や車外に出るときは、ブレーキペダルから足をはなす前にパーキングスイッチを押してください。
	• パーキングセンサーシステムが異常のときに表示	• センサー周辺に泥、氷、雪などの付着物がないか確認してください。付着物を取り除いても表示される場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。
	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、自動的にオートマチックブレーキホールドが停止したときに表示 • 警報音が鳴ることがあります	• ただちにブレーキペダルを踏んでください。

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• オートマチックブレーキホールドスイッチを押して、オートマチックブレーキホールドシステムを OFF にすると表示	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.272
	• 運転席のシートベルトを着用せずに、オートマチックブレーキホールドスイッチを押すと表示	• 運転席のシートベルトを着用してください。 ➔ **オートマチックブレーキホールド** P.272
	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、ブレーキペダルを踏まずにオートマチックブレーキホールドスイッチを押すと表示	• ブレーキペダルを踏みながらオートマチックブレーキホールドスイッチを押してください。 ➔ **オートマチックブレーキホールド** P.272
	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、自動的にパーキングブレーキがかかったときに表示	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.272 ➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.270

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 車速が高すぎて渋滞追従機能付 ACC がセットできないときに表示	• 車速を下げてから渋滞追従機能付ACCをセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.216
	• 車速が高すぎて渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 車速を下げてから渋滞追従機能付ACCを再度セットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.216
	• 渋滞追従機能付 ACC の作動が自動的に解除されたときに表示	• 渋滞追従機能付ACCが自動解除になった原因が解決された場合、 RES+ を押すことにより、元の設定速度に戻すことができます。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.216
	• 衝突の可能性があるときブザーが断続的に鳴り警告が点滅	➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.216 ➔ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)** P.278

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 停車中に先行車が発進し、レーダーセンサーの検知範囲からいなくなって渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 先行車がいる状態または車速30km/h以上で走行して渋滞追従機能付ACCをセットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.216
	• 車速 30km/h 未満で先行車がいなくてセットできないときに表示	• 先行車がいる状態または車速30km/h以上で走行して渋滞追従機能付ACCを再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.216
	• 先行車との車間距離が接近しすぎて渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 先行車との車間距離をとってから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.216
	• 先行車との車間距離が接近しすぎてセットできないときに表示	• 先行車との車間距離をとってから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.216

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 運転席のシートベルトが着用されておらずセットできないときに表示	• 運転席のシートベルトを着用してから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.216
	• シフトポジションがDを以外でセットできないときに表示	• シフトポジションをDにしてから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.216
	• 急な坂道で停車して渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 坂道が緩やかになってから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.216

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 急な坂道で停車していてセットできないときに表示	• 坂道が緩やかになってから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.216
	• パーキングブレーキがかかっていてセットできないときに表示	• パーキングブレーキを解除してから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.216 ➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.270
	• 走行中にブレーキペダルを操作していてセットできないときに表示	• ブレーキペダルを操作していない状態で渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.216
	• 渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停止しているとき、渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• ただちにブレーキペダルを踏んでください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.216

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停止しているとき、先行車が発進したときに表示	• RES/+ スイッチか -/SET スイッチを押す、またはアクセルペダルを踏むと発進できます。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.216
	• 先行車発進お知らせ機能が作動すると表示	➡ **先行車発進お知らせ機能** P.251
	• 渋滞追従機能付 ACC が作動しているときにスリップやホイールスピンなどが発生したときに表示	• 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)を使用するときは再度、設定しなおしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.216

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 車線を越えそうになると、ハンドルの振動による警告と同時に表示	• ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、メッセージが消えます。 ➡ **LKAS(車線維持支援システム)** P.230 ➡ **路外逸脱抑制機能** P.255
	• ハンドルから手を放したまま走行すると、警告音と同時に点滅	• ハンドル操作をすると、メッセージが消えます。 ➡ **路外逸脱抑制機能** P.255
	• LKAS システムに異常が起こり LKAS の作動が解除されたとき、または LKAS システムに異常がある場合に LKAS スイッチを押したときに警告音と同時に表示	• VSA 警告灯、ABS 警告灯、ブレーキシステム警告灯と同時に点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ➡ **LKAS(車線維持支援システム)** P.230

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 光ビーコンアンテナの機能に異常があると表示	• Honda 販売店で点検を受けてください。
	• 信号情報活用運転支援/走行情報送信をカスタマイズ設定で機能 OFF にしているときに表示	➔ **カスタマイズのしかた** P.111 ➔ **信号情報活用運転支援システム** P.210

次ページに続く

エンジンスタートボタン付 Honda スマートキーシステム装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• Honda スマートキーで車外からパワーシステムの起動をしているときに運転席ドアを開けると表示	エンジンスタートボタン付の Honda スマートキーでのパワーシステムの起動* P.194

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• ブレーキシステムの異常により、オートマチックブレーキホールドシステムが作動しないときに表示	• ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

	• 下記の場合、EV 走行モードが自動的に解除されると表示
	  • 高電圧バッテリーの残量が少ないとき
	  • 車速が高いとき
	  • エンジン暖機が終わる前に、車速が 40km/h をこえたとき
	  • アクセルペダルを大きく踏み込んだとき
	  • 坂道などを走行しているとき
		—

	• シフトポジションがNのときにアクセルペダルを踏むと表示	• アクセルペダルから足を離してください。 走行するときは、ブレーキペダルを踏んで、シフトポジションの操作を行ってください。
	• シフトポジションのPとそれ以外のポジション切り換え操作を短時間のあいだに繰り返すと表示	• しばらく時間をおいてからシフトポジションを切り換えてください。

メーター

メーターには、スピードメーター、燃料計などの種類があります。

■スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。

■パワー表示(POWER)/ チャージメーター表示(CHARGE)

モーター出力と高電圧バッテリーへの充電の状態をバーグラフで表示します。

■高電圧バッテリー残量計

高電圧バッテリー内の充電量を表示します。

≫燃料計

燃料計が E に近づいたら、早めに給油してください。
燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

≫高電圧バッテリー残量計

次のような場合は、高電圧バッテリー残量表示が下がることがあります。

- 12V バッテリーを交換したとき
- 12V バッテリーの端子を外したとき
- 高電圧バッテリー制御システムが残量の誤差を補正したとき

高電圧バッテリーの温度が変化すると、充電容量が上下することがあります。そのため充電量が変わらなくても、高電圧バッテリー残量計の表示が変化することがあります。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示、燃費情報などが表示されます。
また、異常を検知するとメッセージが表示されます。

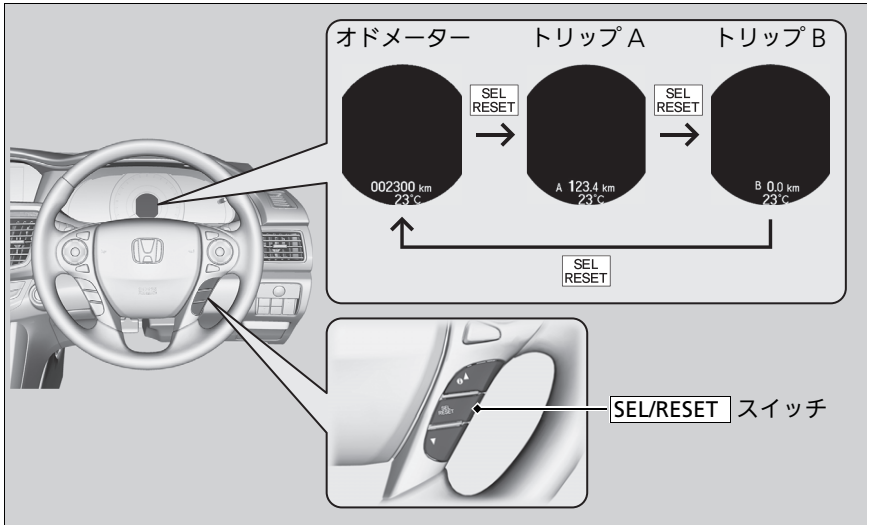
■表示の切り換えかた

インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲ / ▼)を押すごとに画面が切り換わります。



次ページに続く

SEL/RESET を押すごとに画面が切り換わります。



■オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■トリップメーターをリセットするには

リセットしたいトリップメーターが表示されている状態で、 SEL/RESET または セレクト / リセットノブを押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

■瞬間燃費表示

瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

■平均燃費表示

トリップメーターA、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/l で表示します。
トリップメーターA、B をリセットすると、平均燃費表示 A、B、平均車速表示 A、B、経過時間表示 A、B も同時にリセットされます。

トリップメーター

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

トリップメーターA とトリップメーターB は、 SEL/RESET またはセレクト / リセットノブを押して切り換えられます。

平均燃費表示

表示される平均燃費は、実際に走行した燃費とは異なる場合があります。

トリップメーターA、B と平均燃費表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。
➔ カスタマイズ機能 P.109

次ページに続く

■航続可能距離表示

高電圧バッテリーの残量と燃料、平均燃費をもとに推定航続可能距離をkmで表示します。

■経過時間表示

トリップメーターA、Bをリセットしてからの経過時間を表示します。

■平均車速表示

トリップメーターA、Bをリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

■外気温表示

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、±3℃の範囲で補正することができます。
補正するには、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能を使用します。

➔ **カスタマイズ機能** P.109

航続可能距離表示

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。
車両停止状態でもEV航続可能距離が変動する場合があります。

経過時間表示

経過時間表示は99時間59分まで表示できます。

トリップメーターA、Bと経過時間表示A、Bを給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。
➔ **カスタマイズ機能** P.109

平均車速表示

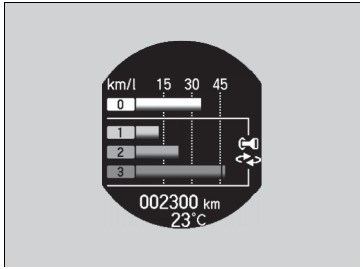
トリップメーターA、Bと平均車速表示A、Bを給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。
➔ **カスタマイズ機能** P.109

外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。
速度がおよそ30km/h以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。
また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。

■平均燃費履歴表示



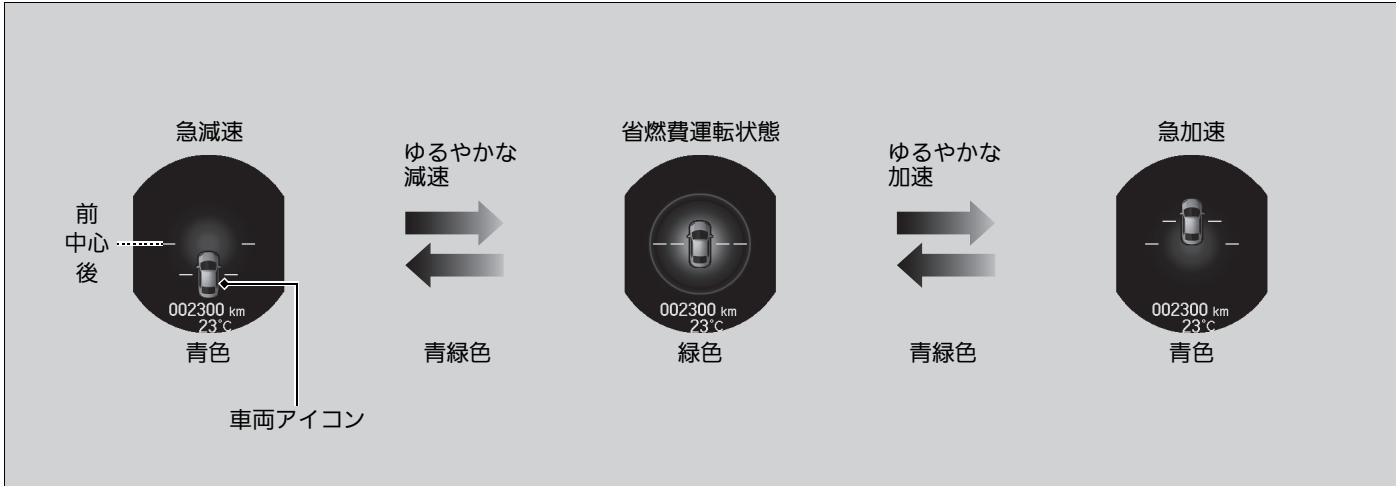
走行時の平均燃費履歴を過去3 回分表示します。
パワーモードを ON モードにすると更新され、最も古い履歴が消去されます。

次ページに続く

■ ECO ドライブディスプレイ /ECO スコア

■ECO ドライブディスプレイ

運転操作の状態に応じて車両アイコンが前後に移動します。
急な加速を行うほど車両アイコンが前側に動き、急な減速を行うほど車両アイコンが後側に動きます。
車両が中心からずれないように運転することで、スムーズな省燃費運転となります。



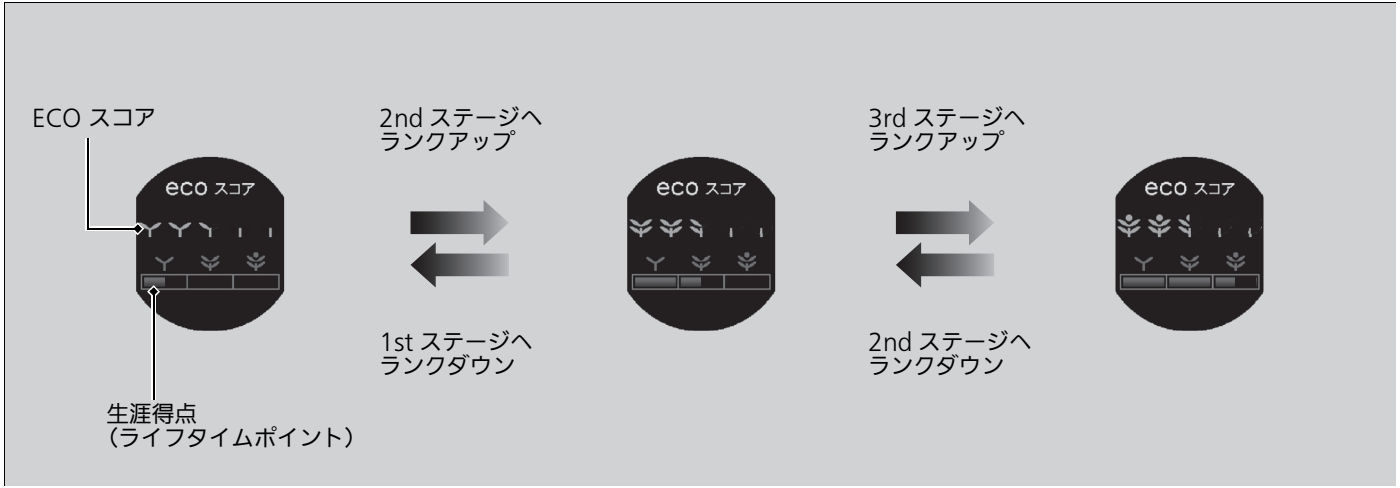
運転操作の状態に応じて車両アイコンの周囲の色が変化します。
緑色：省燃費状態
青緑色：緩やかな加減速状態
青色：急加減速状態

»ECO ドライブディスプレイ

ECO ドライブディスプレイの表示は、アンビエントメーターの色と連動しています。

■ECO スコア

パワーモードを OFF にすると、数秒表示されます。
1st ステージから 3rd ステージまで 3 つのランクがあり、運転操作の状態に応じてリーフが増減し、ランクアップ(ダウン)します。



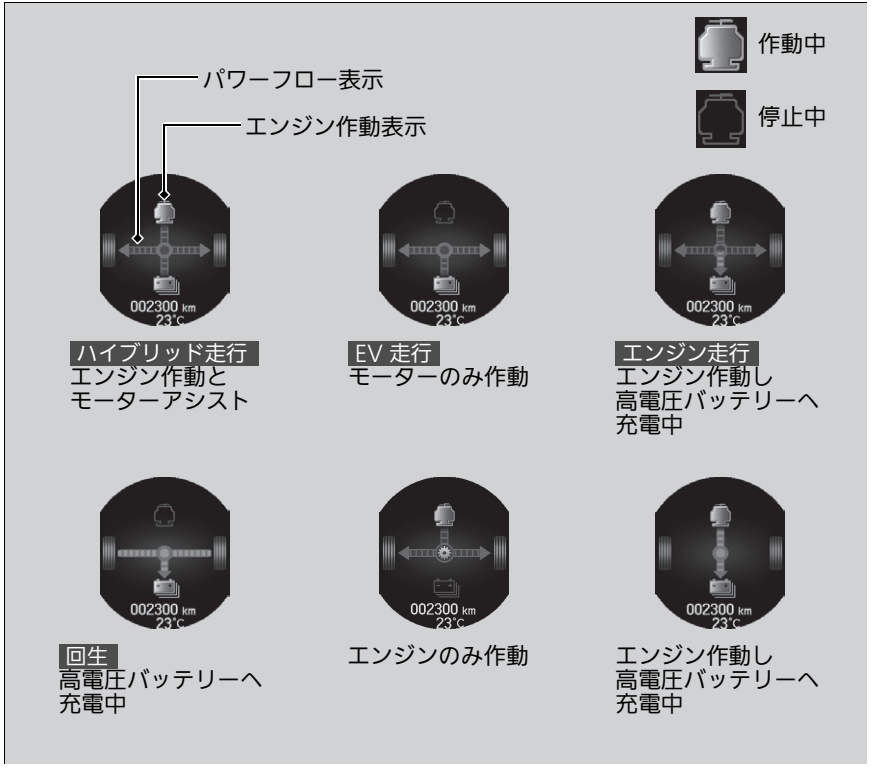
次ページに続く

■ECO スコアのリセット

1. シフトポジションが P であることを確認し、パワーモードを ON モードにする。
2. ECONモードがONのときは、ECONスイッチを押してECONモードをOFFにする。
3. パワーモードを OFF モードにする。
4. 再度パワーモードを ON モードにする。
▶ 手順 4 ～ 6 は、30 秒以内に行ってください。
5. ブレーキペダルを 2 回踏み込む。
▶ アンビエントメーターがブルーからグリーンに変わります。
▶ カスタマイズ設定で「アンビエントメーター照明色変化設定」を OFF に設定しているときは、ブルーのまま変化しません。
6. ECON スイッチを 2 回押す。
▶ アンビエントメーターがグリーンから消灯に変わります。
7. パワーモードを OFF モードにする。

■パワーフロー/ エンジン作動表示

高電圧バッテリーへの充電、アシスト状態を表示します。



パワーフロー/ エンジン作動表示

パワー表示(POWER)とチャージメーター表示(CHARGE)の動きとパワーフロー/ エンジン作動表示の動きは、状況により一致しない場合があります。

➡ **パワー表示(POWER)/ チャージメーター表示(CHARGE)** P.98

アイドリング中で、高電圧バッテリーを充電していないとき下記が表示されます。



次ページに続く

■信号情報活用運転支援システム

走行時に道路に設置された光ビーコン路側器より受信した複数の交差点の信号予定情報を基に、信号通過支援表示、赤信号減速支援表示、発進遅れ防止支援表示を表示します。

➔ **信号情報活用運転支援システム** P.210

■標識認識機能表示

走行中に認識した最高速度、はみ出し通行禁止、一時停止、車両進入禁止の道路標識情報を表示します。

➔ **標識認識機能** P.242

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイを使って、下表の機能をお好みに合わせてカスタマイズ(設定変更)することができます。

カスタマイズ機能		選択できる設定内容
運転支援システム設定	CMBS 警報距離	Far、Normal※、Near
	ヘッドアップワーニング	ON※、OFF
	ACC 先行車検知音	有り※、無し
	先行車発進お知らせ設定	標準※、早め、OFF
	路外逸脱抑制システム設定	アシストタイミング　標準※、 アシストタイミング　遅め、 操舵アシストなし　警報のみ
	レーンキープアシストシステム制御解除警報音	ON、OFF※
	標識認識機能	常駐表示 ON※、常駐表示 OFF
	信号情報活用運転支援 / 走行情報送信	割り込み表示有り / 青信号予告音有り※、 割り込み表示有り / 青信号予告音無し、 割り込み表示無し / 青信号予告音有り、 割り込み表示無し / 青信号予告音無し、 機能 OFF
メーター設定	外気温表示補正	−3 ℃ ～ ±0 ℃※ ～ +3 ℃
	TRIP A 自動リセットタイミング	給油連動、IGN OFF 連動、手動のみ※
	TRIP B 自動リセットタイミング	給油連動、IGN OFF 連動、手動のみ※
	アンビエントメーター照明色変化設定	ON※、OFF
ドライビングポジション設定	メモリーシート連動	連動※、非連動
Honda スマートキーシステム設定	アンサーバックブザー音量	大※、小
	ドアハンドル操作アンサーバックブザー	作動※、非作動

※：工場出荷時の設定

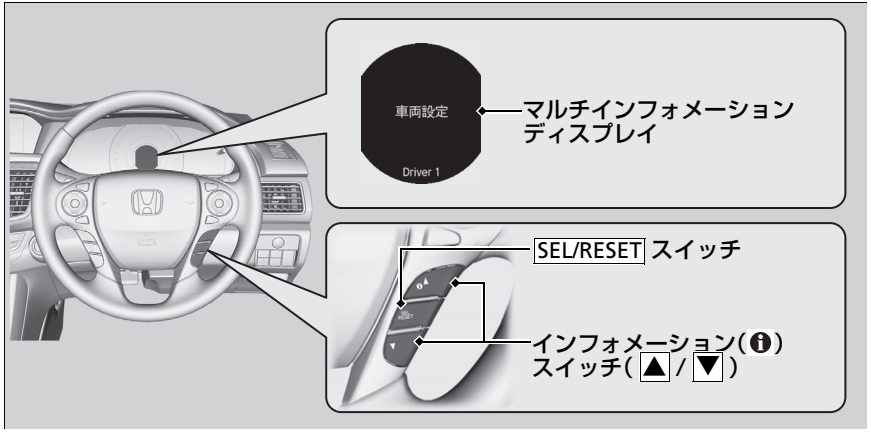
次ページに続く

カスタマイズ機能		選択できる設定内容
ライティング設定	インテリアライト点灯時間	60 秒、30 秒※、15 秒
	オートライト感度	MAX、HIGH、MID※、LOW、MIN
ドア設定	自動ドアロック連動機能	車速連動※、シフト連動、非連動
	自動ドアアンロック連動機能	シフト連動※、IGN OFF 連動、非連動
	キーレスアンサーバック	作動※、非作動
	キーレスリロック時間	90 秒、60 秒、30 秒※
	セキュリティー機能	作動※、非作動
	オートリトラミラー格納	キーレス連動※、手動のみ
工場出荷設定		中止、実行

※：工場出荷時の設定

■カスタマイズのしかた

パワーモードがONモードでセレクトレバーがPのときに、インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押して「車両設定」を選択します。そしてSEL/RESETを操作すると、カスタマイズを行うことのできる「カスタマイズグループ」画面に切り換わります。



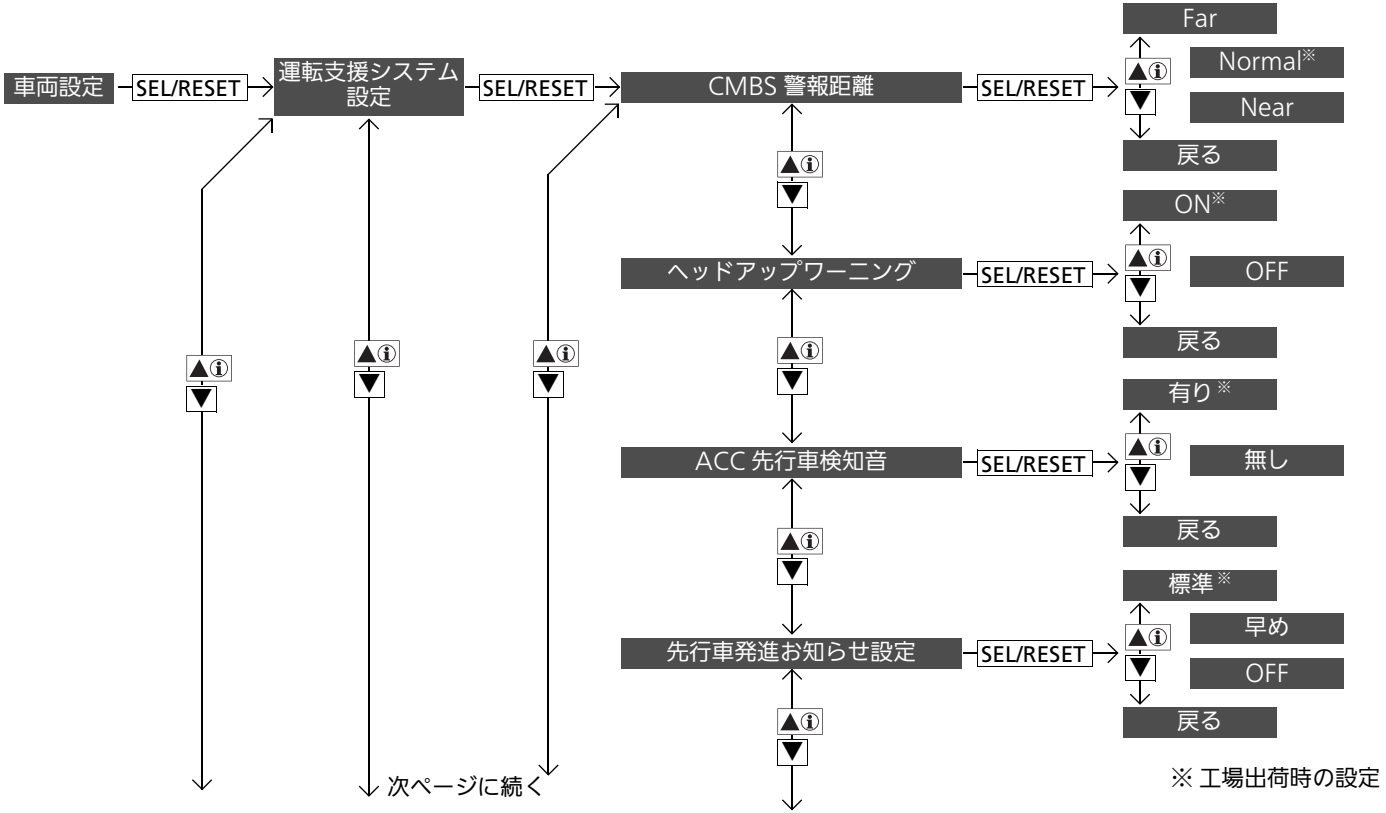
カスタマイズのしかた

➔ **カスタマイズ操作一覧** P.112
➔ **カスタマイズ設定の例** P.119

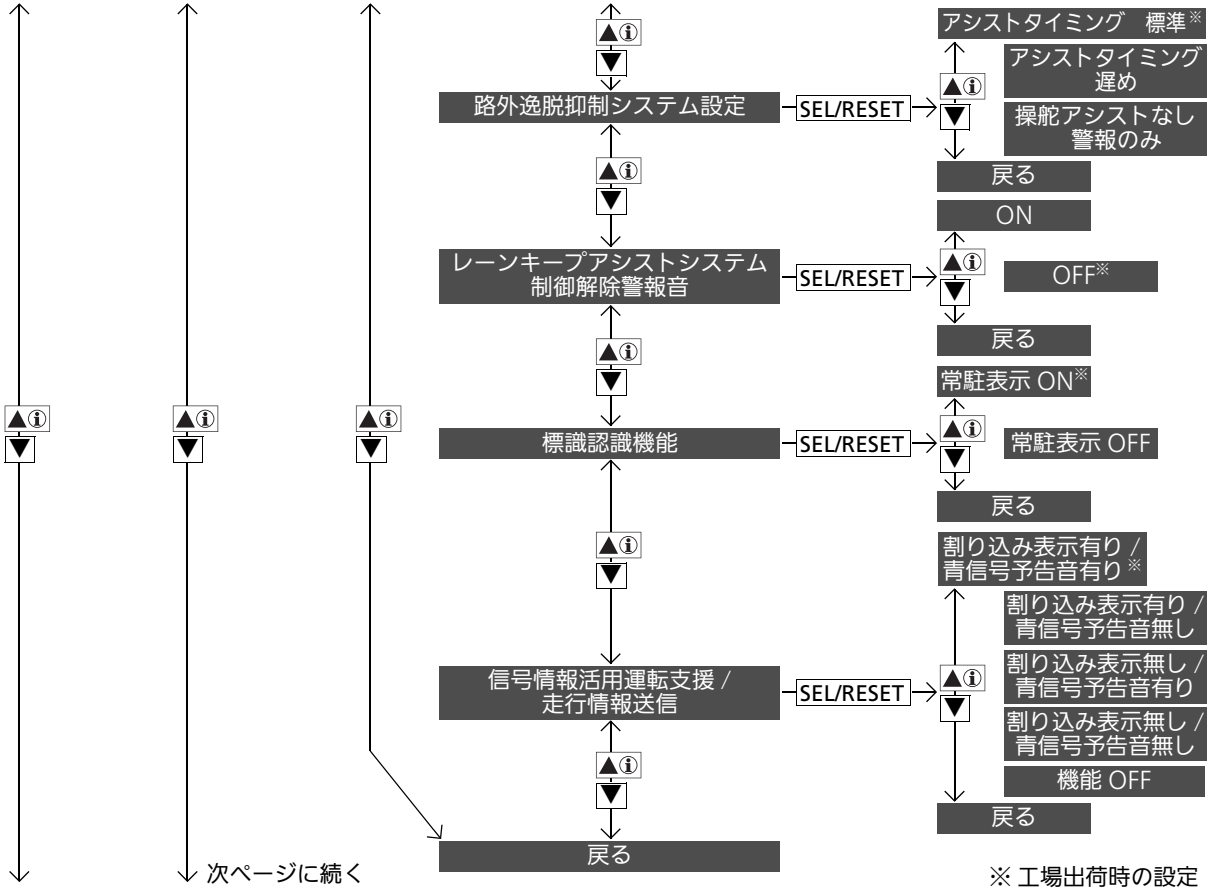
次ページに続く

■カスタマイズ操作一覧

インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)でメニューまたは設定値を切り換え、 SEL/RESET で決定します。

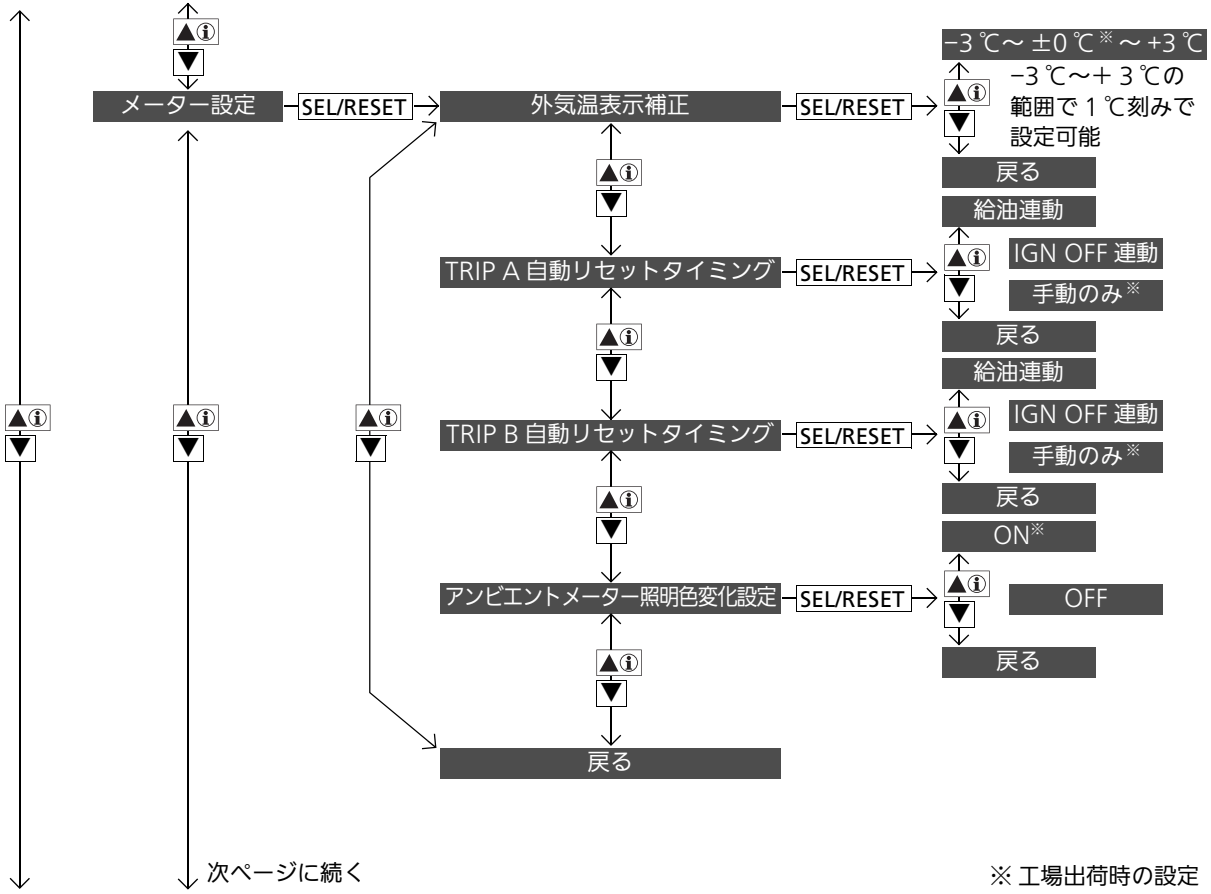


※ 工場出荷時の設定

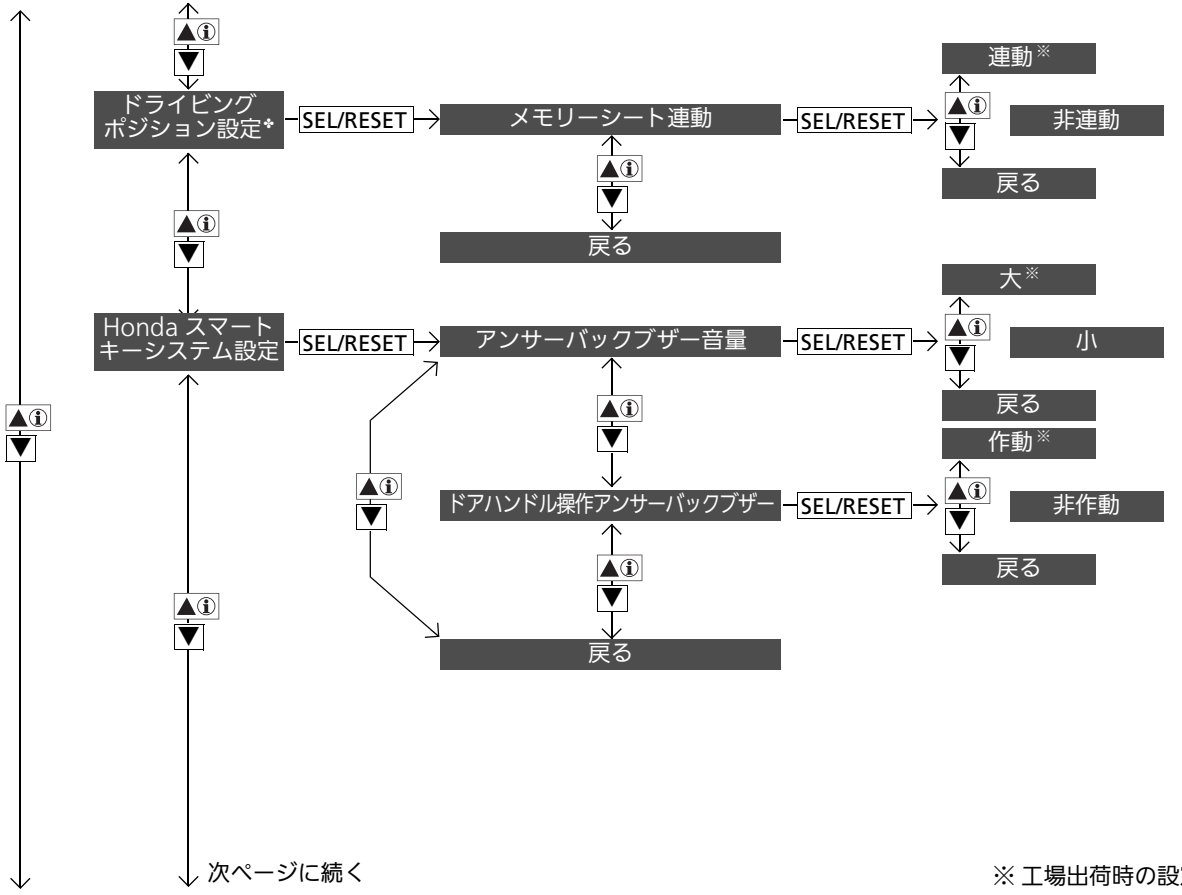


※ 工場出荷時の設定

次ページに続く


メーター設定
SEL/RESET
外気温表示補正
SEL/RESET
−3 ℃〜 ±0 ℃※ 〜 +3 ℃
−3 ℃〜＋ 3 ℃の
範囲で 1 ℃刻みで
設定可能
戻る
TRIP A 自動リセットタイミング
SEL/RESET
給油連動
IGN OFF 連動
手動のみ※
戻る
TRIP B 自動リセットタイミング
SEL/RESET
給油連動
IGN OFF 連動
手動のみ※
戻る
アンビエントメーター照明色変化設定
SEL/RESET
ON※
OFF
戻る
戻る
次ページに続く

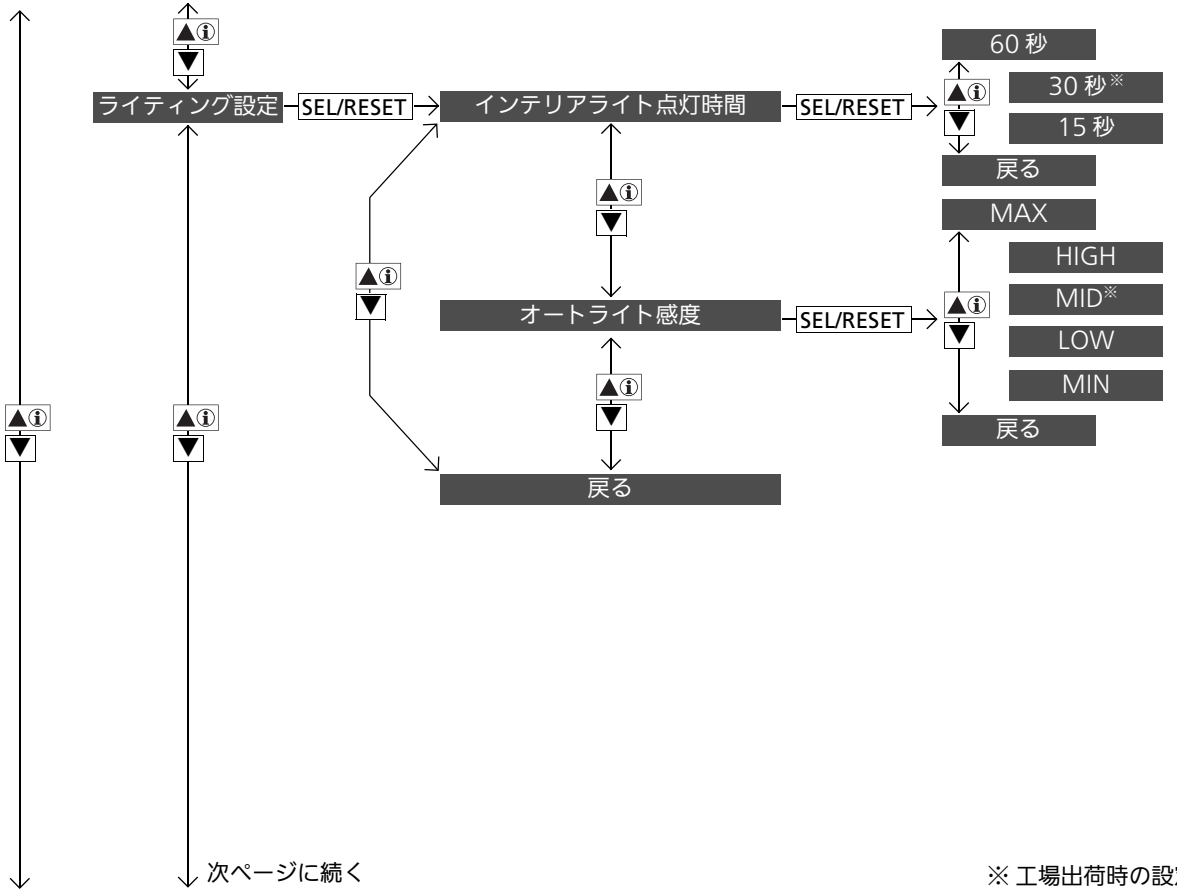
※ 工場出荷時の設定



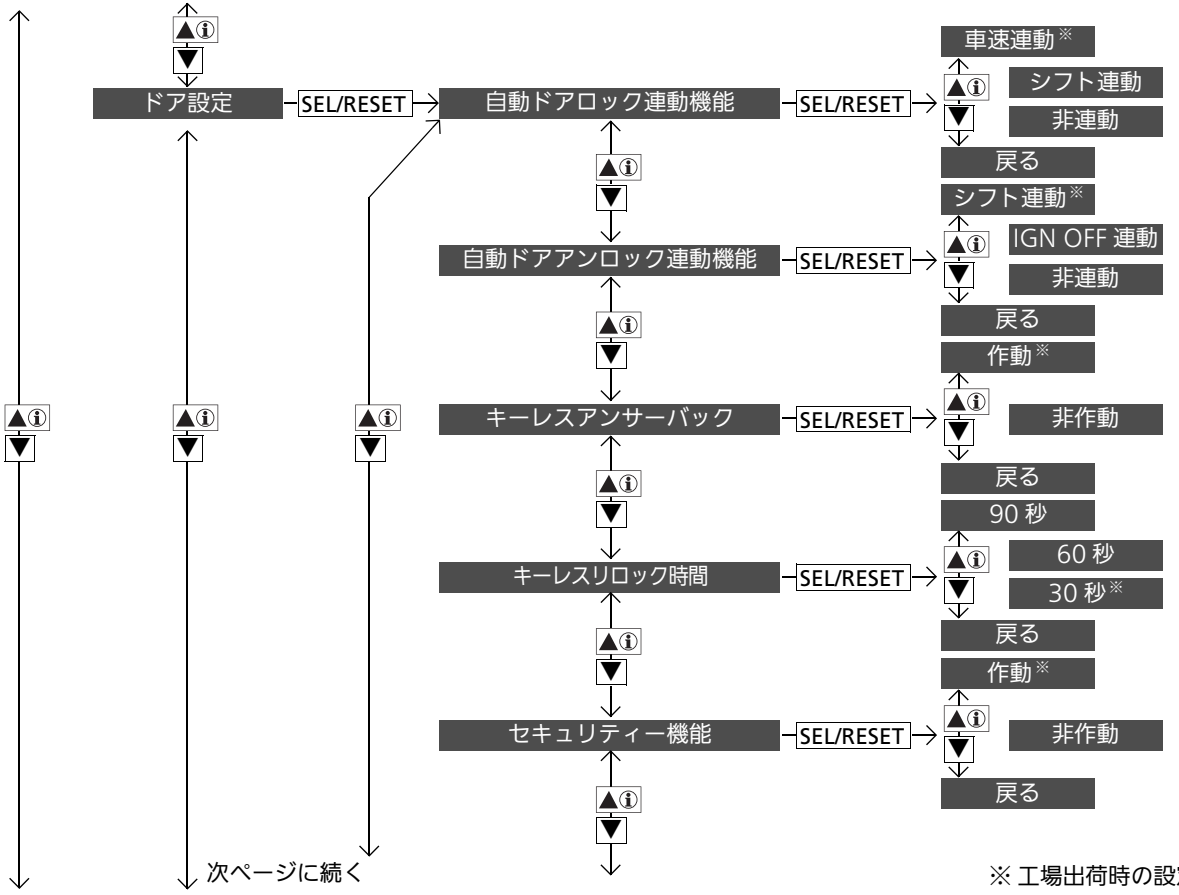
※ 工場出荷時の設定

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

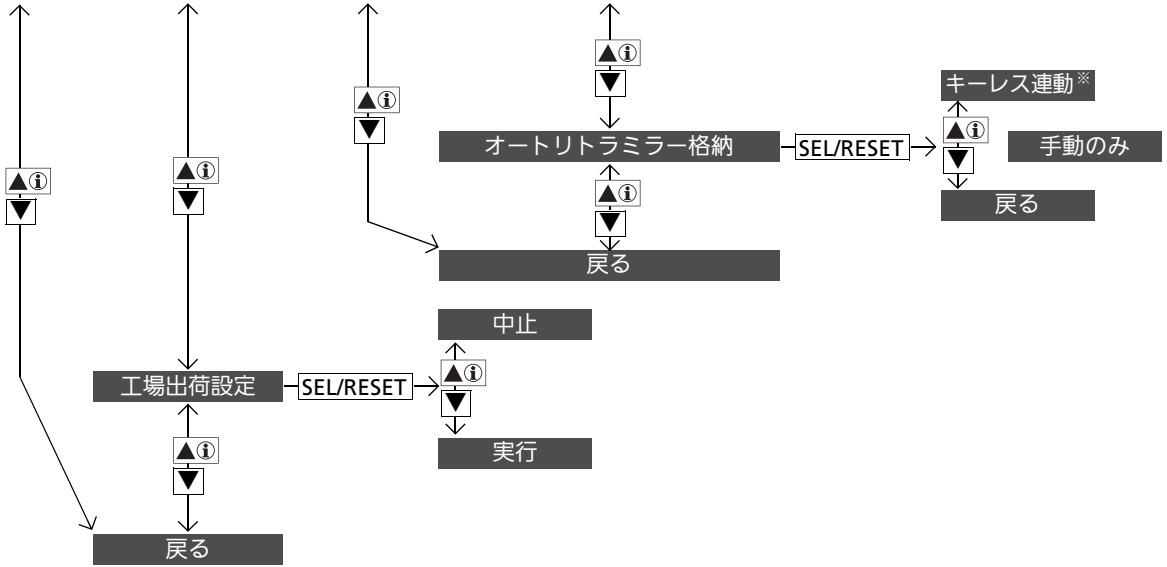

ライティング設定
SEL/RESET
インテリアライト点灯時間
SEL/RESET
60 秒
30 秒※
15 秒
戻る
オートライト感度
SEL/RESET
MAX
HIGH
MID※
LOW
MIN
戻る
戻る
次ページに続く

※ 工場出荷時の設定



※ 工場出荷時の設定

次ページに続く


キーレス連動※
オートリトラミラー格納
SEL/RESET
手動のみ
戻る
戻る
中止
工場出荷設定
SEL/RESET
実行
戻る

※ 工場出荷時の設定

■カスタマイズ設定の例

例えば「TRIP A　自動リセットタイミング」を「給油連動」にする場合、下記の手順で設定します。

「TRIP A　自動リセットタイミング」は工場出荷時の設定では「手動のみ」になっています。



1. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「車両設定」が表示されたら、SEL/RESETを操作する。

▶最初に「運転支援システム設定」が表示されますので、インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「メーター設定」を選択します。

2. SEL/RESETを操作する。

▶「カスタマイズメニュー」画面に切り換わり、最初に「外気温表示補正」が表示されます。

次ページに続く



3. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「TRIP A　自動リセットタイミング」が表示されたら、SEL/RESETを操作する。
▶「カスタマイズセットアップ」画面に切り換わり、「給油連動」、「IGN OFF 連動」、「手動のみ」が選択できます。



4. 「給油連動」が選択されていることを確認し、SEL/RESETを操作する。
▶「給油連動に設定しました」という画面が表示された後、「カスタマイズメニュー」画面に戻ります。



5. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「戻る」が表示されたら、SEL/RESETを操作する。

6. **手順 5** の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

各部の操作

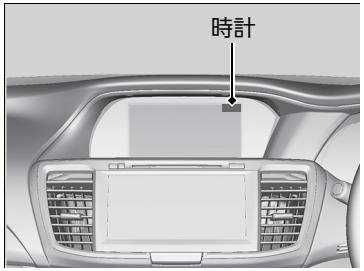
この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。



時刻の設定 122
ドアの施錠と解錠
キーの種類と機能 123
車外でのドアの施錠 / 解錠 126
車内での施錠 / 解錠 130
チャイルドプルーフ 132
トランクの開閉 134
セキュリティシステム
イモビライザーシステム 137
セキュリティアラームシステム 137
ウィンドーの開閉 139
サンルーフの開閉* 142
ハンドルまわりのスイッチ操作
POWER スイッチ 145
方向指示器(ウィンカースイッチ) 148
アクティブコーナリングライト 149
ライトスイッチ 150
フォグライトスイッチ 151
ワイパー/ ウォッシャー 152
イルミネーションコントロール 154
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ 155
ドライビングポジションシステム✤ 156
ハンドルの調節 158
ミラー類の調節 159
シートの調節 163
ヘッドレスト 166
アームレスト 168
室内灯 / 室内装備品 169
エアコン
エアコンの吹き出し口 181
オートエアコンの使いかた 182

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

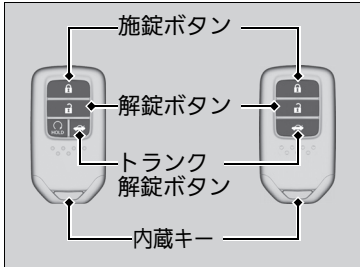
時刻の設定



時計は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

キーの種類と機能

この車には、以下のキーが付いています。



パワーシステムの起動、停止のほかに、すべてのドア、トランクの施錠・解錠に使用できます。
また、キーについているボタンで、すべてのドア、トランクの施錠 / 解錠の操作ができます。

»キーの種類と機能

アドバイス

キーには、精密な電子部品が組み込まれています。
故障を防ぐため、下記の点をお守りください。
- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 分解をしない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

すべてのキーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。
➡ **イモビライザーシステム** P.137

キーの電子部品が故障すると、パワーシステムの起動やリモート発信が作動しなくなることがあります。
キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

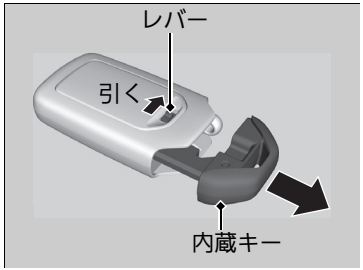
エンジンスタートボタン付 Honda スマートキーシステム装備車

Honda スマートキーを使って離れた場所からパワーシステムの起動ができます。
➡ **エンジンスタートボタン付の Honda スマートキーでのパワーシステムの起動*** P.194

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ Honda スマートキー

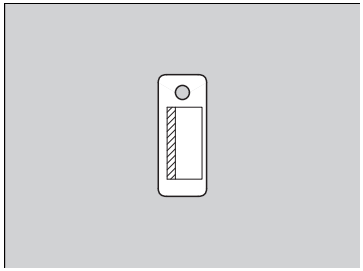


Honda スマートキーの電池が切れたときや車のバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。
内蔵キーは、レバーを引きながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーはHonda スマートキーに収納しておいてください。

■キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

キーの種類と機能

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.344

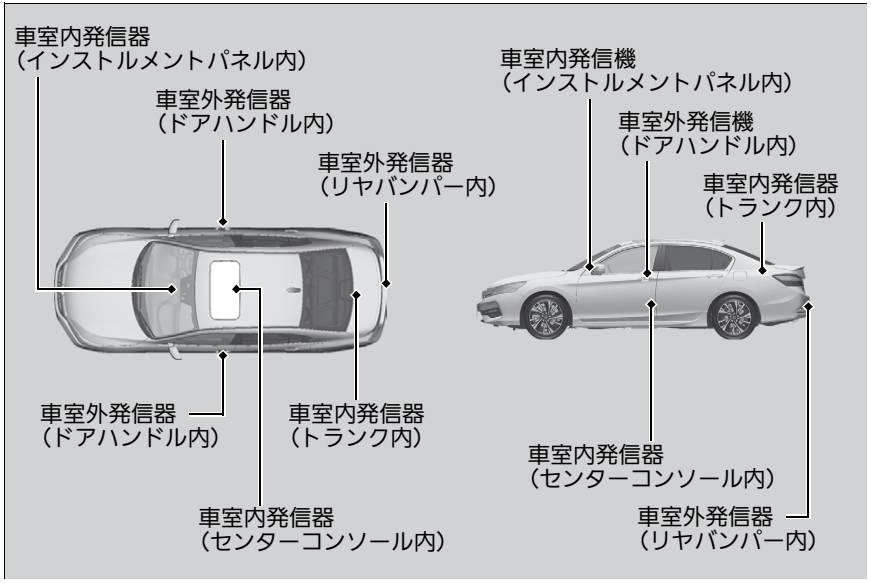
キーナンバータグ

キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。
キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、トランクの施錠 / 解錠操作をするときやパワーモードを ON モードにするとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。
そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



Honda スマートキーの微弱電波

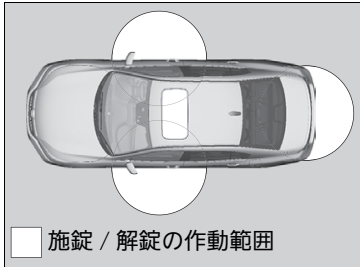
⚠注意

植え込み型心臓ペースメーカおよび植え込み型除細動器を使用しているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。
Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

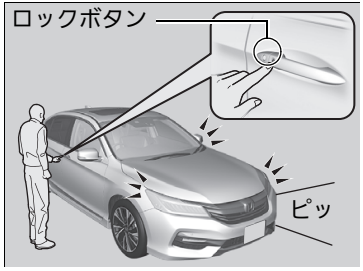
Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。
また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠



Honda スマートキーを携帯し、ロックボタン、ドアハンドルを操作することでドア、トランクの施錠や解錠を操作します。
ドア、トランクの施錠 / 解錠が作動するのは、運転席または助手席ドアハンドルから周囲約 80cm 以内です。



■施錠するには

運転席または助手席ドアハンドルのロックボタンを押します。

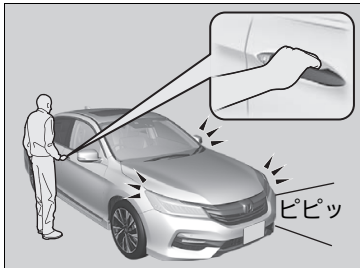
▶「ピッ」というアンサーバックブザーが鳴り非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドアとトランクが施錠されます。

車外でのドアの施錠 / 解錠

パワーモードが OFF モード以外のときは、キーレスエントリーシステムおよび Honda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもロックボタンやドアハンドルで施錠 / 解錠操作ができます。
- 革製やスキー用の手袋などを着用しているときは、ドアハンドルでの解錠操作が遅れたりできなかったりすることがあります。
- 作動範囲内に Honda スマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がドアハンドルにかかると、解錠されることがあります。
- 施錠後約 2 秒間は、ドアハンドルを握っても解錠操作はできません。
- ドアハンドルを握った直後に引くと、ドアが開かないことがあります。ドアハンドルを握りなおし、解錠されていることを確認してから引いてください。
- ドアハンドルより約80cm以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラスに近づきすぎていると作動しないことがあります。



■解錠するには

運転席または助手席ドアハンドルを握ります。

▶「ピピッ」というアンサーバックブザーが鳴り非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドアとトランクが解錠されます。

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

30 秒以内にドアを開けてください。

Honda スマートキーシステムでドアの解錠操作をした場合、30 秒以内にドアを開けないと、ドアは再び自動的に施錠されます。

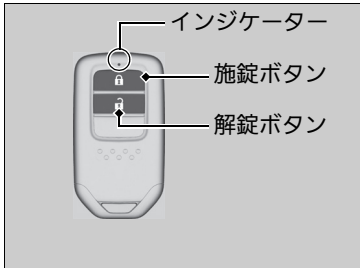
カスタマイズ機能について

施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、マルチインフォメーションディスプレイを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

➔ **カスタマイズ機能** P.109

次ページに続く

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠





■施錠

施錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドアとトランクが施錠されます。

■解錠

解錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドアとトランクが解錠されます。

キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠

30 秒以内にドアを開けてください。

キーレスエントリーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドアを開けないと、ドアは再び自動的に施錠されます。

解錠ボタンを押すと、室内灯が点灯します。

室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠ボタンを押すと室内灯が点灯します。

約30秒点灯し、徐々に暗くなります。30秒以内にキーレスエントリーシステムで施錠すると、室内灯はただちに消灯します。

➡ **室内灯** P.169

キーレスエントリーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

次の場合、キーレスエントリーシステムは作動しません。

• パワーモードが OFF モード以外のとき

ドアが開いているときは、キーレスエントリーシステムで施錠できません。

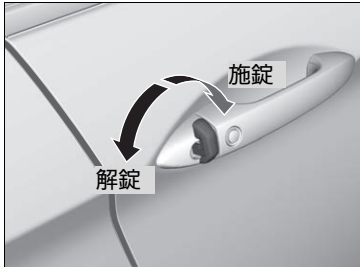
作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときに、インジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。

➡ **電池交換のしかた** P.317

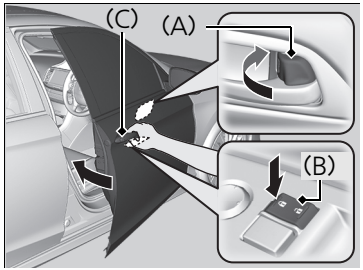
■内蔵キーを差し込んでの施錠 / 解錠

Honda スマートキーの電池がきれたときや車のバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。



内蔵キーを確実に差し込んで、回します。

■内蔵キーを使わないでの施錠



■運転席のドアの施錠

ノブ(A)を押し込むか、マスタードアロックスイッチ(B)を施錠のほうに押し、外側のドアハンドル(C)を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キー閉じ込み防止装置

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

»内蔵キーを差し込んでの施錠 / 解錠

運転席ドアに内蔵キーを差し込んで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドアとトランクも同時に施錠 / 解錠されます。

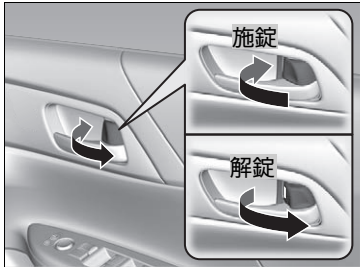
»内蔵キーを使わないでの施錠

運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドアとトランクも同時に施錠されます。

キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

車内での施錠 / 解錠

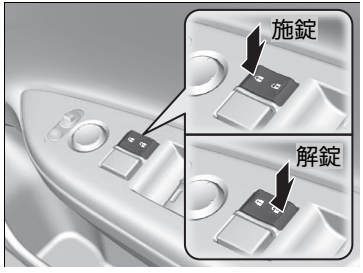
■ノブでの施錠 / 解錠



■施錠するには
ノブを押し込みます。

■解錠するには
ノブを引きます。

■マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠



マスタードアロックスイッチを施錠 / 解錠のほうに押します。

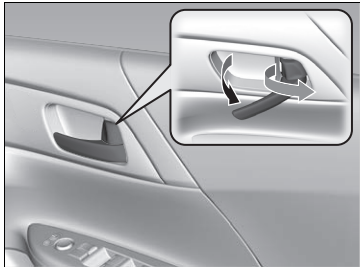
ノブでの施錠 / 解錠

運転席ドアのノブで施錠すると、ほかのすべてのドア、トランクも同時に施錠されます。
運転席ドアのノブで解錠したときは、運転席ドア、トランクのみ解錠されます。

マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠

運転席ドアのマスタードアロックスイッチで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、トランクも同時に施錠 / 解錠されます。

■運転席ドアハンドルでの解錠

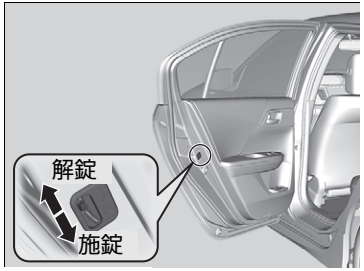


運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。
お子さまをリヤシートに乗せるときなどにお使いください。

■チャイルドプルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、トランクを解錠するシステムです。
作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグ / サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

オートドアロック / オートドアアンロック

■オートドアロック（車速連動）

オートドアロックとは、車速が約 15km/h 以上になるとすべてのドア、トランクが自動的に施錠される機能です。

■オートドアアンロック（シフトポジション連動）

ブレーキペダルを踏みシフトポジションを P に入れると、すべてのドア、トランクが自動的に解錠される機能です。

オートドアロック / オートドアアンロック

マルチインフォメーションディスプレイを使ってオートドアロック / オートドアアンロックの条件をカスタマイズすることができます。

➔ **カスタマイズ機能** P.109

トランク開閉時の注意

トランク開閉をするときは、下記の点に注意してください。

■トランクを開けているとき

- トランクは上までしっかりと開ける。
  ▶途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- トランクを開けたまま走行しない。
  ▶車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

■トランクを閉めるとき

- Honda スマートキーを、トランク内に置き忘れないように注意する。

トランク開閉時の注意

⚠注意

トランクを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないよう注意する。

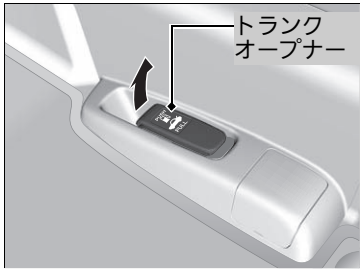
エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

トランクルーム内には、人を乗せない。
ブレーキや加速、衝突のときにけがをするおそれがあります。

トランク内にお子さまが入らないように注意する。
トランクは中から開けることはできません。

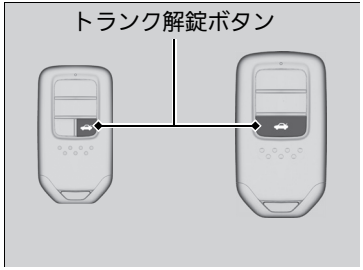
運転席ドアが施錠されているとき：
トランクを閉めると、トランクも施錠されます。
運転席ドアが解錠されているとき：
トランクを閉めても、施錠されません。

トランクオープナーで開ける



運転席右下にあるトランクオープナーを引くとトランクが解錠され浮き上がります。

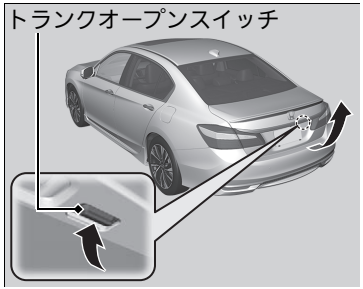
キーレスエントリーシステムで開ける



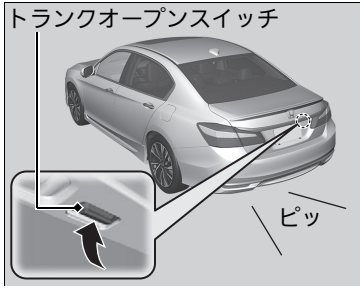
トランク解錠ボタンを約1秒押すと、トランクが解錠され浮き上がります。

パワーモードが OFF モード以外のときは、キーレスエントリーの解錠ボタンでは開けられません。

トランクオープンスイッチで開ける



運転席ドアを解錠し、トランクオープンスイッチを押すとトランクが浮き上がります。



Honda スマートキーを携帯して、トランクオープンスイッチを押すとトランクが解錠され浮き上がります。このときアンサーバックブザーが「ピッ」と1回鳴ります。トランクオープン機能が作動するのは、トランクオープンスイッチから周囲約80cm以内です。



トランクオープンスイッチで開ける

- 作動範囲内に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもトランクオープンスイッチでトランクを開けることができます。
- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- トランクオープンスイッチより約80cm以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- 運転席ドアが解錠されているときは、トランクを開けてもアンサーバックブザーは鳴りません。

カスタマイズ機能について

施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、マルチインフォメーションディスプレイを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

カスタマイズ機能 P.109

トランク内に Honda スマートキーを置いたままトランクを閉めると、ブザーが鳴りトランクが開きます。

Honda スマートキーを取り出してから、再度トランクを閉めてください。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれてあり、あらかじめ登録されたキーでないとモーターの駆動とエンジンの始動ができないようにしたシステムです。

イモビライザーシステムでは、車両とキーの電子照合を行うときに微弱な電波を使用します。パワーモードをアクセサリーモードにするときは、下記の点に注意してください。

- POWER の近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

» イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーを使わずにドア、トランク、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯がすべて点滅します。

■停止させるには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

» セキュリティアラームシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、約 5 分間作動します。
ホーンおよび非常点滅表示灯は、1 回の作動につき約 30 秒間作動し、その警報作動が 10 回行われます。
状況によっては、5 分以上作動する場合があります。

次ページに続く

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードが OFF モードになっている
- ボンネットが閉まっている
- Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーですべてのドアとトランクが施錠されている

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーで解錠するか、パワーモードをONモードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

≫セキュリティアラームシステム

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

セキュリティアラームシステムをセットした後に 12V バッテリーがあがり、12V バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

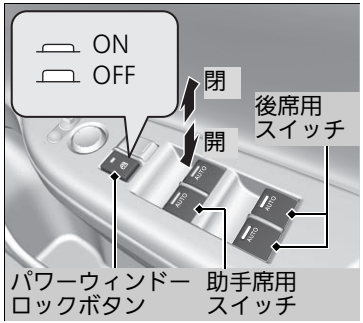
そのときは、Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

パワーウィンドーの開閉

パワーモードがONモードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。

運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンをOFF にしてから行います。パワーウィンドーロックボタンを OFF にすると、ボタンにある表示灯が消灯します。
パワーウィンドーロックボタンを ON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

■ウィンドーの開閉



■手動開閉

開けるとき：スイッチを軽く押す
閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉

開けるとき：スイッチを強く押す
閉めるとき：スイッチを強く引き上げる
自動的に全開 / 全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

次ページに続く

パワーウィンドーの開閉

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

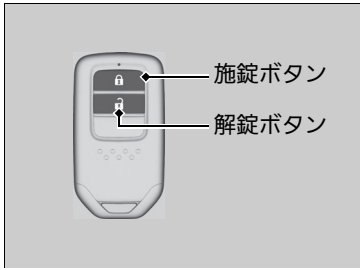
⚠注意

指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

お子さまだけを車内に残さない。
必ずHonda スマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。
パワーモードを OFF モードにしても、約 10 分間はキーオフオペレーションによりパワーウィンドーを開閉できます。
この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

パワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

■キーレスエントリーでのウィンドーの開閉



キーレスエントリーを使用してパワーウィンドーの開閉が行えます。

開けるとき：キーレスエントリーで解錠後、10 秒以内に再度、解錠ボタンを押し続ける

閉めるとき：キーレスエントリーで施錠後、10 秒以内に再度、施錠ボタンを押し続ける

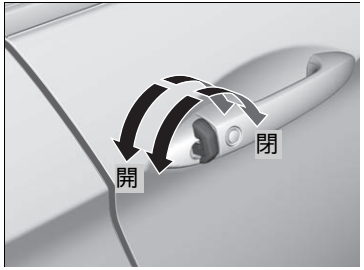
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。ウィンドーの開閉中に停止したときは、再度同じ操作を繰り返してください。

パワーウィンドーの開閉

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。

路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

■キーシリンダーでのウィンドーの開閉



運転席ドアのキーシリンダーを使用してパワーウィンドーの開閉が行えます。

開けるとき： 運転席ドアのキーシリンダーに内蔵キーを差し込んで解錠後、内蔵キーを戻してから 10 秒以内に再度、解錠側いっぱいに内蔵キーを回したままにする

閉めるとき： 運転席ドアのキーシリンダーに内蔵キーを差し込んで施錠後、内蔵キーを戻してから 10 秒以内に再度、施錠側いっぱいに内蔵キーを回したままにする

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。
ウィンドーの開閉中に停止したときは、再度同じ操作を繰り返してください。

サンルーフの開閉✤

■開閉

パワーモードがONモードのときに、サンルーフの開閉操作を行うことができます。
開閉は前席の天井にあるスイッチで行います。



■手動開閉

開けるとき：スイッチを後ろ側へ軽く引く
閉めるとき：スイッチを前側へ軽く押す
希望の位置で手を離すことで、サンルーフの開閉を調節します。

■自動開閉

開けるとき：スイッチを後ろ側へ強く引く
閉めるとき：スイッチを前側へ強く押す
自動的に全開 / 全閉します。途中で止めるには、スイッチを軽く操作します。

■チルトアップ

開けるとき：スイッチを上へ押す
閉めるとき：スイッチを前側へ強く押すと自動で全閉
スイッチを前側へ軽く押したときは離した位置で停止

⚠警告

サンルーフを開閉するときは、手や顔などをはさまないよう注意する。
サンルーフにはさまれて、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気を付けてください。

⚠注意

指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

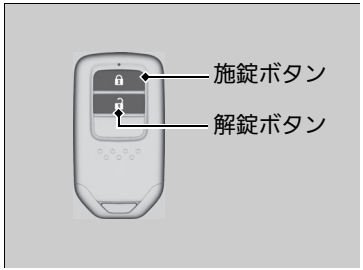
走行中や停車中にルーフ開口部から頭や手、ものなどを出さない。
障害物や急ブレーキなどで思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまだけを車内に残さない。
必ず Honda スマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

パワーモードをOFFモードにしても、10分間はキーオフオペレーションによりサンルーフを開閉できます。
この場合、運転席のドアを開閉すると、サンルーフの開閉はできなくなります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■キーレスエントリーでのサンルーフの開閉



キーレスエントリーを使用してサンルーフの開閉が行えます。

開けるとき：キーレスエントリーで解錠後、10 秒以内に再度、解錠ボタンを押し続ける

閉めるとき：キーレスエントリーで施錠後、10 秒以内に再度、施錠ボタンを押し続ける

希望の位置で手を離すことで、サンルーフの開閉を調節します。
サンルーフの開閉中に停止したときは、再度同じ操作を繰り返してください。

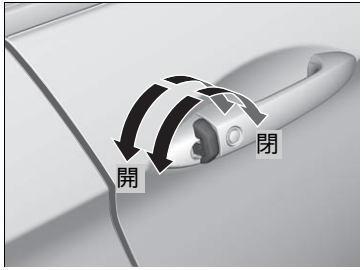
サンルーフの開閉✤

サンルーフを自動開閉中に障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりサンルーフの動きが逆転し止まります。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■キーシリンダーでのサンルーフの開閉



運転席ドアのキーシリンダーを使用してサンルーフの開閉が行えます。

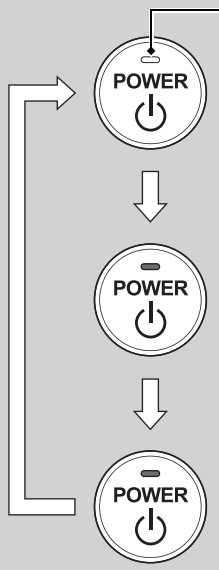
開けるとき： 運転席ドアのキーシリンダーに内蔵キーを差し込んで解錠後、内蔵キーを戻してから 10 秒以内に再度、解錠側いっぱいに内蔵キーを回したままにする

閉めるとき： 運転席ドアのキーシリンダーに内蔵キーを差し込んで施錠後、内蔵キーを戻してから 10 秒以内に再度、施錠側いっぱいに内蔵キーを回したままにする

希望の位置で手を離すことで、サンルーフの開閉を調節します。
サンルーフの開閉中に停止したときは、再度同じ操作を繰り返してください。

POWER スイッチ

■パワーモードの切り換えかた



OFF モード
- インジケーター消灯
- 全ての電源が OFF になります

アクセサリーモード
- インジケーター点灯
- パワーシステムを起動させずに、オーディオシステムなどのアクセサリーを使用するときの位置

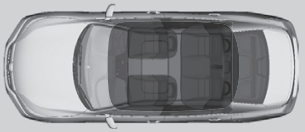
ON モード
- インジケーター点灯
- すべてのアクセサリーが使用可能

（ブレーキペダルを踏んでいない状態）

⇨ スイッチを押す

POWER スイッチ

Honda スマートキーが車内にある場合パワーモードをONモードにできます。パワーモードのON機能が作動する範囲は、インストルメントパネル上、カーゴスペースやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れを除く車内です。



■パワーモード ON の作動範囲

Honda スマートキーが車外にあっても、ドアやドアガラスに近づきすぎていると、パワーモードをONモードにできることがあります。

次ページに続く

■パワーモードオートオフ機能

シフトポジションが P でパワーモードがアクセサリーモードのときに 30 分～60 分経過すると、バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードになります。

■パワーモード警告ブザー

次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

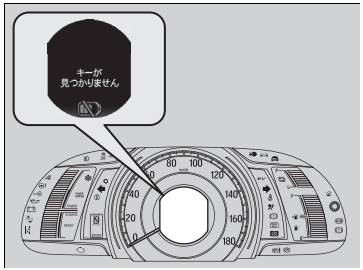
- パワーモードがアクセサリーモードのとき

POWER スイッチ

Honda スマートキーの電池が消耗したときは、ブザーとともにマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.344

■ Honda スマートキー持ち去り警告



警告ブザーには、車内警告ブザー(ピーッピーッピーッピーッピーッピーッ)と車外警告ブザー(ピピピピピピ)の 2 種類があります。
警告状態が続くときは、Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■パワーモードが ON モードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、メーター内に警告を表示するとともに、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードがアクセサリーモードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、車外警告ブザーが鳴ります。

Honda スマートキー持ち去り警告

パワーモード ON の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

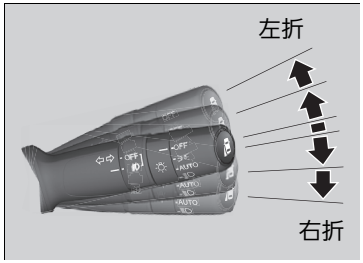
Honda スマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードを OFF モードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。
パワーモードを操作するときは、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

窓からの受け渡しでは、Honda スマートキー持ち去り警告は作動しません。

Honda スマートキーがパワーモード ON の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態により Honda スマートキー持ち去り警告が行われることがあります。
故障ではありませんので、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

方向指示器(ウィンカースイッチ)



パワーモードがONモードのときに使用できます。

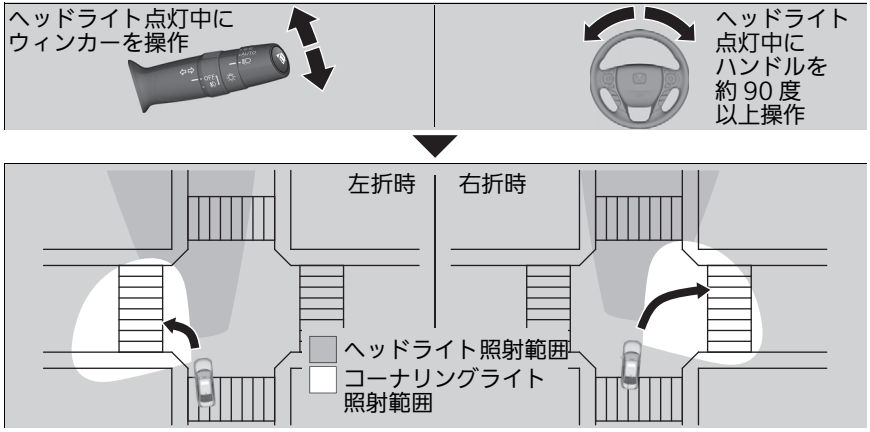
■ワンタッチターンシグナル

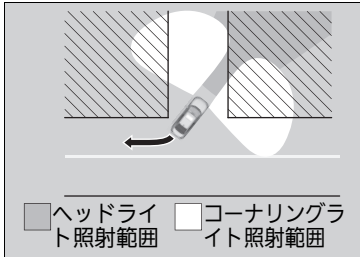
レバーを軽く押し下げ / 押し上げて離すと、方向指示器と方向指示器表示灯が3回点滅します。

アクティブコーナリングライト

パワーモードがONモードで、車速が35 km/h以下のときにヘッドライトが点灯していると、方向指示器やハンドル操作、シフトポジションを[R]にしたとき、アクティブコーナリングライトが点灯し、夜間走行時にコーナーでの視認性を向上させることができます。

■方向指示器、ハンドル操作による点灯





■シフトポジション操作による点灯

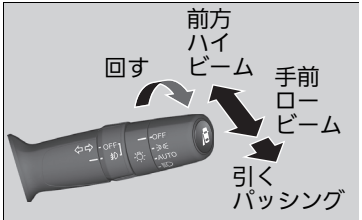
ヘッドライトが点灯しているときにシフトポジションを[R]にすると、左右のアクティブコーナリングライトが同時に点灯します。

アクティブコーナリングライト

アクティブコーナリングライトを5分以上連続点灯させると、自動的に消灯します。
消灯後に再度、方向指示器、ハンドル操作を行うか、シフトポジションを[R]に入れると点灯します。



ライトスイッチ



	車幅灯、尾灯、番号灯が点灯
	ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯
AUTO	パワーモードが ON モードのとき車外の明るさに応じて車幅灯、尾灯、番号灯、ヘッドライトが自動で点灯 / 消灯

スイッチを回すとパワーモードの状態に関係なく、点灯 / 消灯します。

■ハイビーム

「カチッ」と音がするまでレバーを前方に押します。

■ロービーム

ハイビームのときは、レバーを手前に引きます。

■追越合図(パッシング)

レバーを手前に引き、離します。

■ヘッドライトオートオフ機能

パワーモードを OFF モードにして、Honda スマートキーまたはキーレスエントリーですべてのドアを施錠すると、ヘッドライト、フォグライト、車幅灯、尾灯、番号灯やインストルメントパネルの照明が消灯します。

▶ 運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライトスイッチを AUTO にしているときはパワーモードを OFF モードにすると消灯します。

ライトスイッチ

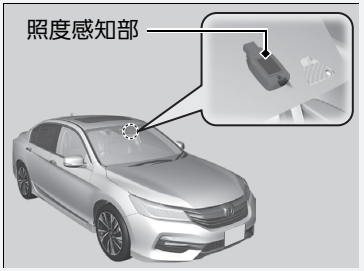
ライトを点灯したまま OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

➡ **表示灯** P.73

パワーシステムが停止しているときにライト類を点灯したままにしていると、12V バッテリーあがりの原因となります。

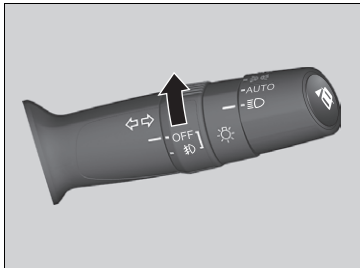
照度感知部は、図の位置にあります。感知部の上にものを置かないでください。



重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調節するオートレベリング機能が付いています。

ヘッドライト光軸の異常を感じたときは Honda 販売店で点検を受けてください。

フォグライトスイッチ



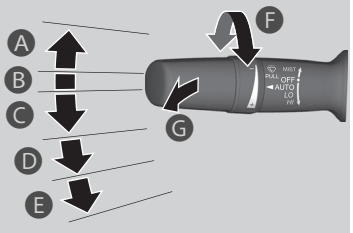
ライトスイッチが OFF 以外のとき(AUTO のときは、車幅灯が点灯しているとき)に、フォグライトスイッチを回して点灯することができます。

フォグライトスイッチ

フォグライトが点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

➔ **表示灯** P.73

ワイパー/ ウォッシャー



Ⓐ MIST：（レバーを操作している間作動）
Ⓑ OFF：停止
Ⓒ AUTO：自動作動
Ⓓ LO：低速（普通の雨量のとき）
Ⓔ HI：高速（雨量が多いとき）
Ⓕ センサー感度の調節
Ⓖ ウォッシャー

パワーモードがONモードのときに使用できます。

■MIST

レバーを押し上げている間、高速で作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ワイパースイッチ（OFF、LO、HI）

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■自動作動（AUTO）

➡ **オートワイパー** P.153

■ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを1秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

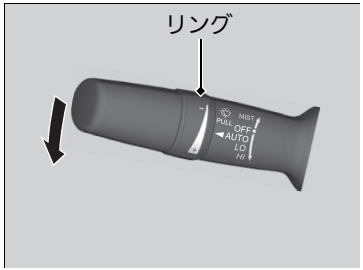
アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

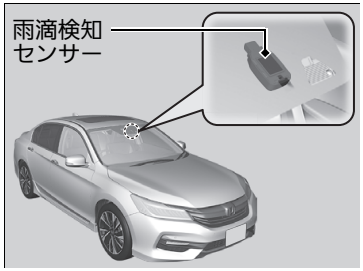
ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。
ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

■オートワイパー



レバーを AUTO の位置にするとワイパーが 1 回作動し、その後は自動作動に切り換わります。フロントガラス上部にある雨滴検知センサーが検出した雨滴量に応じて、停止、間欠作動、低速作動、高速作動のいずれかの作動をします。
ワイパー作動中に雪などがたまると雨滴検知をしていなくてもワイパーが作動し続けることがあります。
レバーをOFFの位置にすると、ワイパーを停止することができます。



■センサー感度の調節

リングを回して、雨滴検知センサーの感度を調節します。



鈍感： 雨滴に対して、より鈍感に反応してワイパーを作動します。

敏感： 雨滴に対して、より敏感に反応してワイパーを作動します。

ワイパー/ ウォッシャー

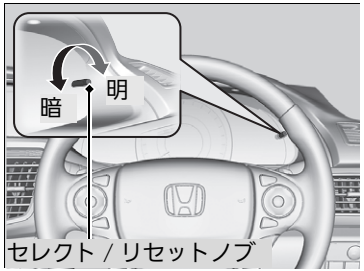
⚠注意

フロントガラスのお手入れをするときは、レバーを必ず OFF にしてください。
パワーモードが ON モードでレバーが AUTO のとき、雨滴センサー上部のガラス面に手で触れたり、布で拭き取ったりすると、ワイパーが作動することがあり、手をけがしたりワイパーが損傷するおそれがあります。

ワイパー作動中に雪などがたまり続け、ワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。
パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。
ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、ブレーカーが作動し一時的にワイパーが停止することがあります。
数分経過すると、ブレーカーが復帰し、通常通り使用できるようになります。

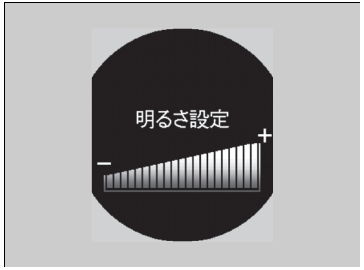
イルミネーションコントロール



パワーモードがONモードのとき、車外が暗くなるとセレクト / リセットノブでインストルメントパネルの明るさを調節することができます。

明るくする：ノブを右に回す
暗くする：ノブを左に回す

明るさが最大 / 最小になると電子音が鳴ります。また、明るさの調節後、数秒経過するとマルチインフォメーションディスプレイが元の表示に戻ります。



■明るさ調節表示

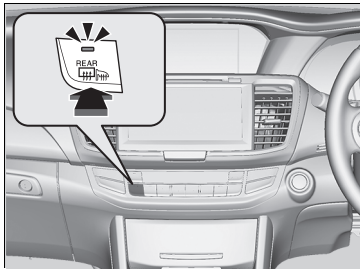
セレクト / リセットノブを回すとマルチインフォメーションディスプレイが明るさ調節表示に切り換わります。
目盛が右に増えていくほど、メーター照明が明るく表示されます。

▶イルミネーションコントロール

車外が暗いときと明るいときでは、メーター照明の明るさは異なります。
ライトスイッチを☼または≡D（AUTO のときは、車幅灯やヘッドライトが点灯しているとき）にすると、まぶしさを軽減するためにメーター照明が暗くなります。

- 明るさ調節中にセレクト / リセットノブまたはインフォメーション（ⓘ）スイッチ（▲/▼）を押すと、マルチインフォメーションディスプレイは元の表示になります。
- 車幅灯点灯時に目盛が全て表示されるまでノブを右に回すと、「ピッ」という音がして車幅灯消灯時の設定になります。

リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ



パワーモードがONモードのときにスイッチを押すと、リヤガラスとドアミラーを暖めて、曇りをとることができます。

外気温に応じて約 10 ～ 30 分経過すると、リヤデフロスターとヒーテッドドアミラーは自動的に停止します。ただし、外気温が 0 ℃以下のときは自動的に停止しません。

リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ

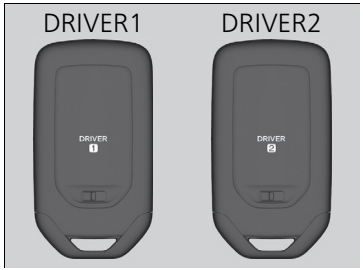
リヤガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷付けないよう注意してください。
必ず、デフロスターの電熱線とアンテナ線に沿って左右方向に拭いてください。

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。
また、パワーシステムが停止しているときに長時間使わないでください。12V バッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

ドライビングポジションシステム*

シートの位置(ランバーサポート以外)を2種類記憶させ、それぞれの位置に自動で調節させることができます。

Honda スマートキーで解錠して運転席ドアを開けると、DRIVER1 のキーとDRIVER2 のキーを判別して、記憶したシート位置に自動で調節されます。



DRIVER1 で解錠して運転席ドアを開けたとき：メモリーボタン[1]で記憶したシート位置に自動調節

DRIVER2 で解錠して運転席ドアを開けたとき：メモリーボタン[2]で記憶したシート位置に自動調節

▶ドライビングポジションシステム*

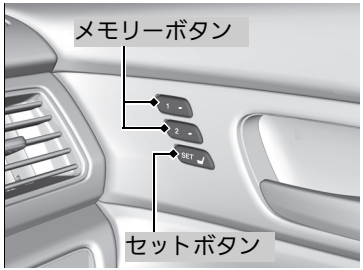
カスタマイズ機能について

マルチインフォメーションディスプレイを使って解錠時のシート連動機能を解除することができます。

➔ **カスタマイズ機能** P.109

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■記憶のさせかた



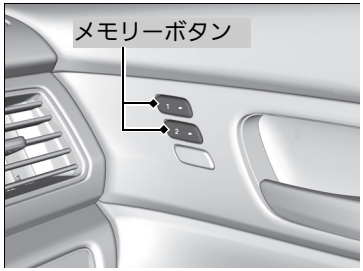
1. 運転席シートを希望の位置に調節し、パワーモードを ON モードにする。
2. セットボタンを押す。
▶「ピッ」と音が鳴り、メモリーボタンの表示灯が点滅します。
3. セットボタンを押してから5秒以内にメモリーボタンの[1]か[2]を「ピッピッ」と音が鳴るまで押す。
▶記憶されると押したボタンの表示灯が点灯します。

記憶のさせかた

セットボタンを押した後、以下のような状況になったときは記憶操作がキャンセルされます。

- 5 秒経過してもメモリーボタンを押さなかったとき
- シート位置を調節したとき
- パワーモードを ON モード以外にしたとき

■記憶の呼び出しかた



1. シフトポジションを[P]にする。
2. メモリーボタン([1]または[2])を押す。
▶「ピッ」と音が鳴り、表示灯が点滅します。

記憶させた位置までシートが自動的に移動し、移動が完了すると「ピッピッ」と音が鳴り、表示灯が点灯します。

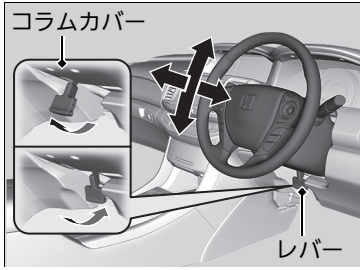
記憶の呼び出しかた

自動でシートが移動しているときに、以下のような操作を行うとシートの移動が止まります。

- セットボタン、またはメモリーボタン([1]または[2])を押したとき
- シート位置を調節したとき
- シフトポジションを[P]以外にしたとき

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを引き上げる。
▶ ハンドル位置調節レバーは、コラムカバーの下にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルを固定する。

ハンドルの調節

⚠注意

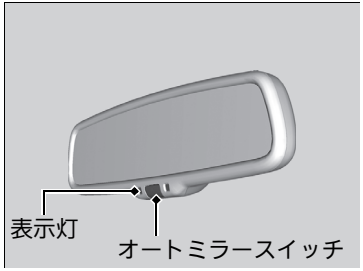
走行中にハンドル位置を調節しない。
走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

ルームミラー

ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

■自動式防眩ミラー



夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を自動的に弱くできます。

パワーモードがONモードで、オートミラースイッチがONのときに作動します。スイッチを押すごとに ON、OFF が切り換わります。
ONにすると表示灯が点灯します。

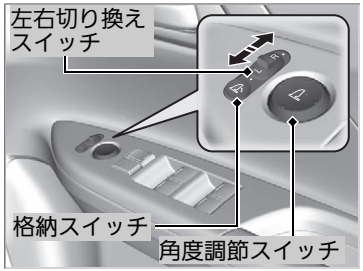
ミラー類の調節

ミラー類の調節は走行前に行ってください。

自動式防眩ミラー

シフトポジションをRに入れているときは、自動式防眩ミラーは解除されます。

ドアミラー



	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		

パワーモードがONモードのときに、ドアミラーの操作を行えます。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

■格納

格納スイッチを押すごとに ON と OFF が切り換わります。

ドアミラー

パワーモードが OFF モードまたはアクセサリーモードのときは、手動で格納、開放をすることもできます。

■リバース連動ドアミラー

後退時、車両の左側面の視界をよりよく確保するため、シフトポジションの R と連動して助手席側ドアミラーが自動的に下向きになります。



パワーモードがONモードで、ドアミラーの左右切り換えスイッチが左側にあることを確認します。

シフトポジションを R の位置にすると、助手席側ドアミラーが下向きになります。

シフトポジションを R 以外の位置にすると元の位置に戻ります。

リバース連動ドアミラー

次の場合にも、ミラーが元の位置に戻ります。

- 左右切り換えスイッチを左側以外の位置にしたとき
- パワーモードを ON モード以外にしたとき

リバース連動ドアミラーは、ドアミラーの左右切り換えスイッチが左側以外の位置にあるときは作動しません。作動させるには左右切り換えスイッチを左側にしてください。

次ページに続く

■オートリトラミラー✤

キーレスエントリーシステムや Honda スマートキーシステムでのドアの施錠や解錠に連動して、パワーモードが OFF モードの状態でも、ドアミラーの格納や元の状態への復帰が行えます。

格納するとき：

- キーレスエントリーの施錠ボタンを押す。
- Honda スマートキーを携帯し、ドアハンドルのロックボタンを押す。

元の位置に戻すとき：

- キーレスエントリーの解錠ボタンを押す。
- Honda スマートキーを携帯し、ドアハンドルを握って解錠する。
- パワーモードを ON モードにする。

オートリトラミラー✤

格納スイッチを押してドアミラーを格納した場合、オートリトラミラー機能ではドアミラーを元の位置に戻せません。

ドアミラーの格納 / 展開は、マルチインフォメーションディスプレイを使ってキーレス連動をカスタマイズすることができます。

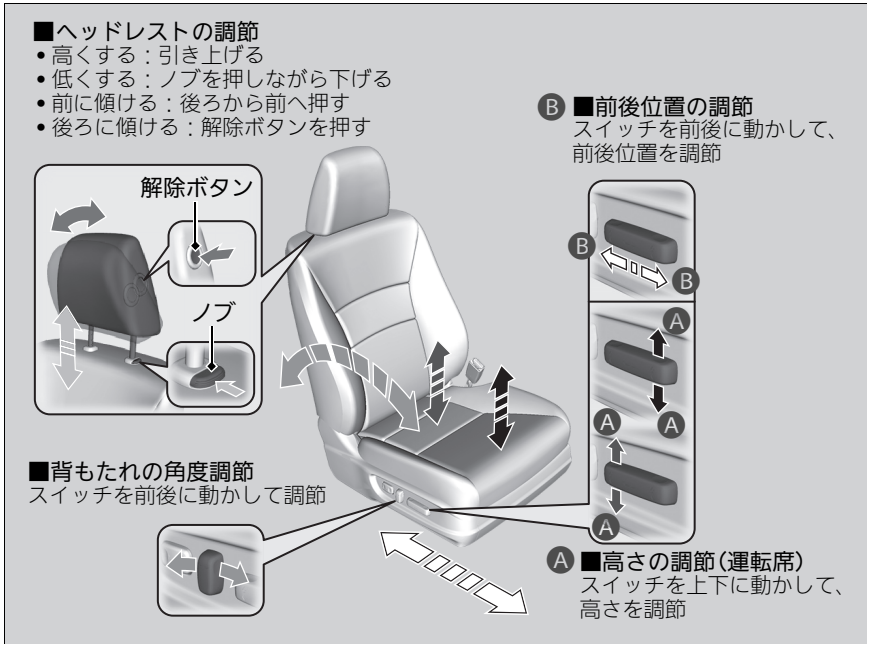
➡ **カスタマイズ機能** P.109

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■フロントパワーシート / ヘッドレストの動かしかた



フロントパワーシート/ヘッドレストの動かしかた

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節すると思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行ってください。

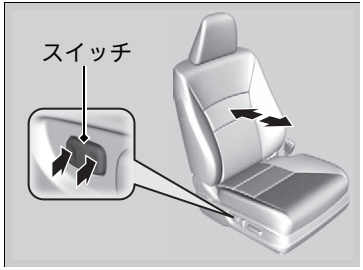
シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

次ページに続く

■運転席ランバーサポートの調節



シート腰部の固さを調節できます。

硬くする：スイッチを前側に押す。
やわらかくする：スイッチを後側に押す。

■フロントシートの調節



■シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。

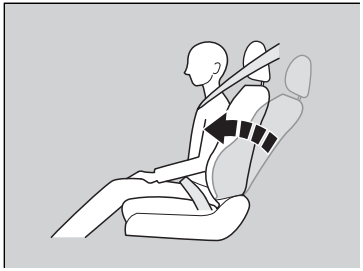
助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。

≫フロントシートの調節

⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。
ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。



■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。

助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

フロントシートの調節

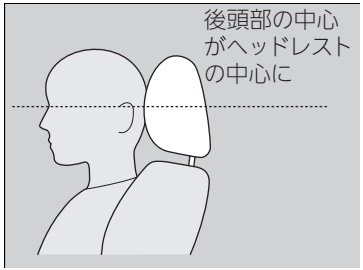
⚠警告

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。

正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

ヘッドレスト

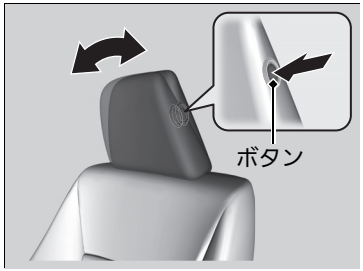
■フロントシート、リヤシート (外側) ヘッドレストの調節



後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき：ノブを押しながら下げます。

■ヘッドレストの傾き調節



フロントシートのヘッドレストは、姿勢に合わせ傾きを調節してください。

前方へ調節するとき：ヘッドレストを後から前へ押します。
後方へ調節するとき：ヘッドレストの後ろを手で支えながら解除ボタンを押します。

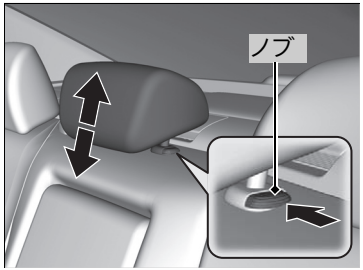
▶ヘッドレスト

⚠警告

ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。
ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

■リヤシート(中央)ヘッドレストの位置変更



乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき：ノブを押しながら下げます。

■ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し：
ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け：
ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

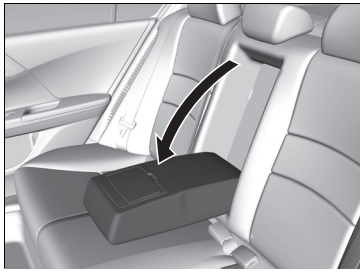
リヤシート (中央) ヘッドレストの位置変更

⚠警告

ヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

アームレスト

■リヤシートアームレストの操作



前に倒して使用します。

アームレスト

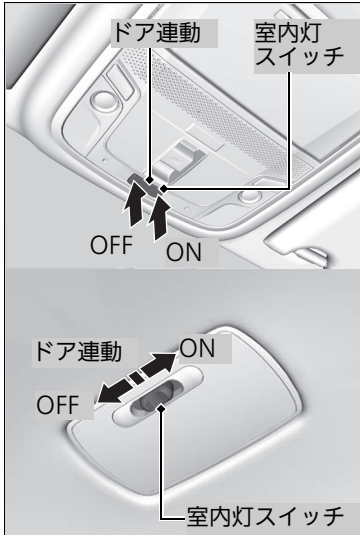
⚠注意

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できないことがあります。

アドバイス
アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。
アームレストが破損するおそれがあります。

室内灯

■室内灯スイッチ



■ON
ドアの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動
以下のときに室内灯が点灯。
- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

■OFF
ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

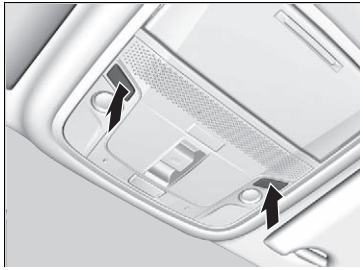
»室内灯

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約30 秒後に減光しながら消灯します。
また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。
- 運転席ドアを施錠したとき
- パワーモードがOFFモード以外で運転席ドアを閉めたとき
- パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードが OFF モードのときにいずれかのドアを開けたままにすると、約 15 分後に消灯します。

次ページに続く

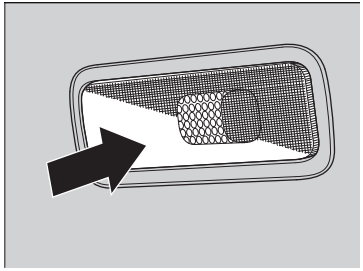
■マップランプ



■フロントシート用マップランプ

夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。



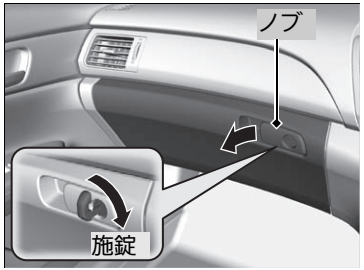
■リヤシート用マップランプ*

レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

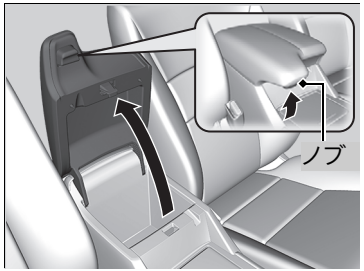
室内装備品

■グローブボックス



ノブを引くと開きます。
内蔵キーを差し込んで施錠することができます。

■コンソールボックス



ノブを引くと開きます。

グローブボックス

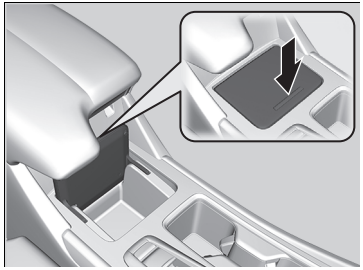
⚠警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

グローブボックスを開くと照明灯が点灯します。

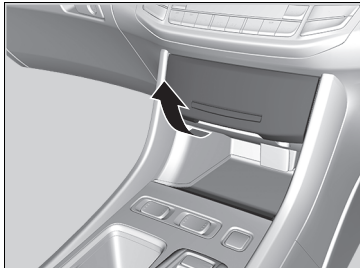
次ページに続く

■コンソールポケット



矢印部を押すとフタが開きます。

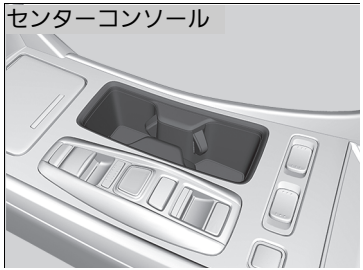
■センターポケット



下部を手前に引くと開きます。

■ドリンクホルダー

センターコンソール



ドア



■フロントシート用ドリンクホルダー

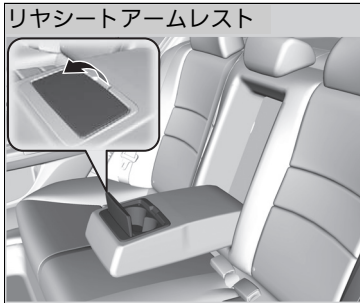
ドリンクホルダー

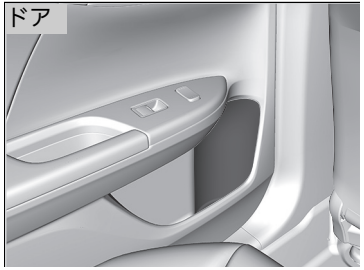
⚠注意

飲みものなどを電装品にこぼさないように注意する。

スイッチなどの電装品に飲みものがかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

次ページに続く

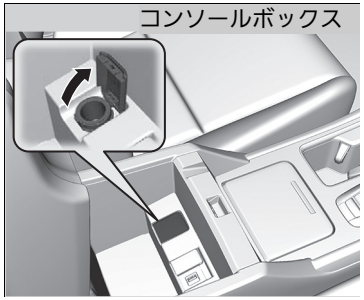


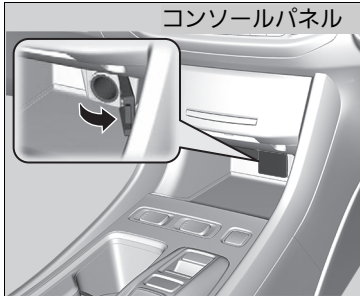


■リヤシート用ドリンクホルダー

アームレストを前に倒して使います。
フタを開きます。

■アクセサリーソケット





パワーモードがアクセサリーモードまたはON モードのときに使用できます。

■コンソールボックスのアクセサリーソケット

コンソールボックスの中にあります。
カバーを開けて使います。

■コンソールパネルのアクセサリーソケット

カバーを開けて使います。

アクセサリーソケット

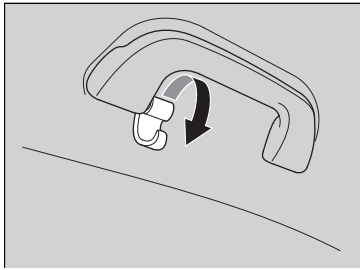
消費電力 180W(15A)以下のアクセサリーに、直流 12V の電源を供給します。

シガレットライターは差し込まないでください。
発熱するおそれがあります。

12V バッテリーあがりを防ぐため、パワーシステムが起動している状態でご使用ください。

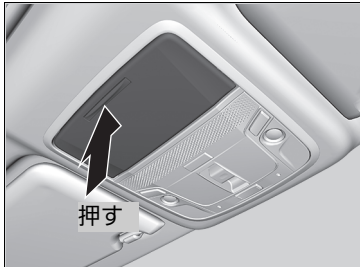
次ページに続く

■コートフック



リヤシート右側のグラブレールに付いています。
回転させて使います。

■サングラスボックス



矢印部を押すと開きます。
もう一度押すと格納されます。

サングラスなどを入れることができます。

コートフック

⚠注意

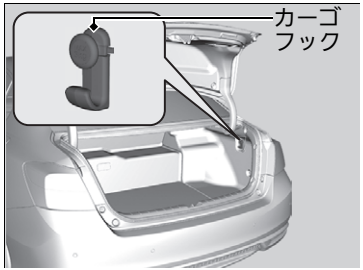
グラブレールにものをかけたり、コートフックに重いものやとがったものをかけたりしない。
サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

サングラスボックス

炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを入れたままにしないでください。
レンズやフレームが、変形やひび割れをおこすことがあります。

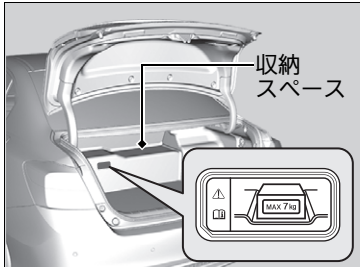
開閉は停車中に行い、走行中は必ず閉めておいてください。

■カーゴフック



軽い荷物をかけておくのに便利です。

■収納スペース



トランク内に収納スペースがあります。

≫カーゴフック

アドバイス

カーゴフックが破損するおそれがありますので、重いもの(約3kg以上)や大きなものをかけないでください。

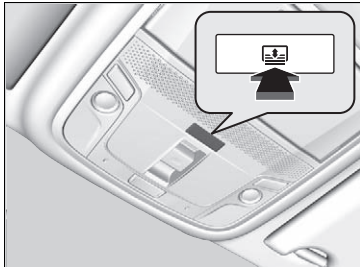
≫収納スペース

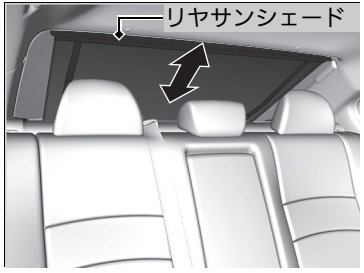
アドバイス

トランクフロアが破損するおそれがありますので、重いもの(約7kg以上)や転がりやすいものを置かないでください。

次ページに続く

■リヤサンシェード*





パワーモードが ON モードで R 以外のとき、スイッチを押すごとに上昇 / 下降します。

シフトポジションを R にすると自動的にリヤサンシェードが下降します。

リヤサンシェード*

⚠警告

リヤサンシェードに手をかけない。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。また、故障の原因となり、後方の視界を確保できなくなるおそれがあります。

アドバイス

リヤシェルフの上に荷物を置いたり、リヤサンシェードに無理な力を加えないでください。
故障の原因になります。

リヤサンシェードの操作中に、途中で止まった場合は、障害物の有無を確認してください。

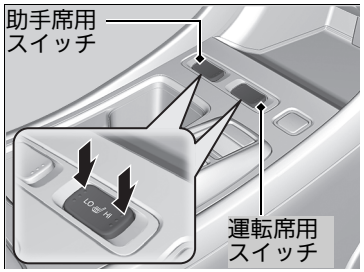
頻繁に上昇 / 下降を繰り返すと、一時的に作動が停止することがあります。
故障ではありませんので、数秒後にスイッチを押して操作を再開してください。

お手入れの際は、フレームやスクリーンを強く引っ張らないように汚れを落としてください。

リヤサンシェードが動かなくなった場合は Honda 販売で点検を受けてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■フロントシートヒーター*



パワーモードがONモードのときに使用できます。運転席、助手席のシートを暖めることができます。

スイッチのHI側かLO側を押します。作動中、押している側の表示灯が点灯します。

スイッチを切るときは、反対側を軽く押し、表示灯を消します。

フロントシートヒーター*

⚠注意

低温やけどに注意する。

次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

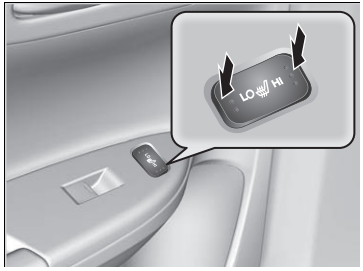
この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムが起動している状態で使用してください。

12V バッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

次ページに続く

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■リヤシートヒーター(左右席)*



パワーモードがONモードのときに使用できます。

中央のリヤシートにはヒーターが付いていません。

スイッチのHI側かLO側を押します。作動中、押している側の表示灯が点灯します。

スイッチを切るときは、反対側を軽く押し、表示灯を消します。

▶リヤシートヒーター(左右席)*

⚠注意

低温やけどに注意する。

次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

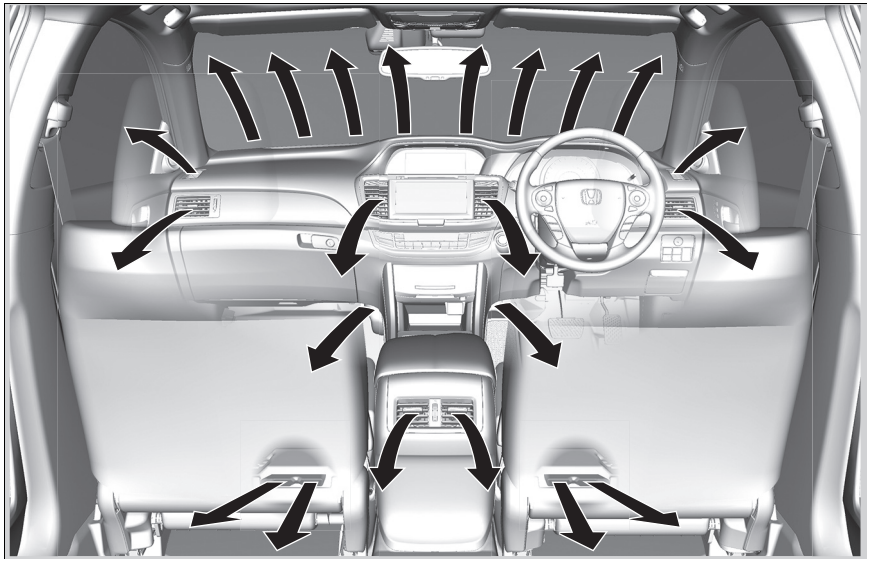
また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムが起動している状態で使用してください。

12V バッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

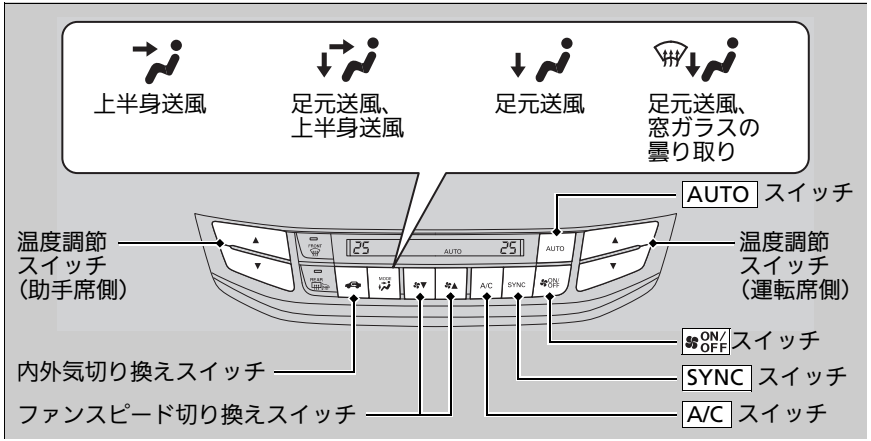
エアコンの吹き出し口



エアコン

音声操作の詳細は、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

オートエアコンの使いかた



パワーシステムを起動した状態で使用します。

1. AUTO を押す。

2. 運転席側 / 助手席側温度調節スイッチで室内の温度を設定する。

3. 停止するときは、ON/OFFを押す。

■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせて を押して、内気 / 外気を切り換えます。

- 内気(表示灯点灯):トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気(表示灯消灯):換気を行う場合

■除湿暖房

暖房中に A/C を押すと、除湿暖房となります。

オートエアコンの使いかた

オート(AUTO)で使用中いずれかのスイッチを押すと、押したスイッチの機能が優先されます。

このとき「AUTO」の表示灯は消灯しますが、押したスイッチ以外の機能は自動制御されます。

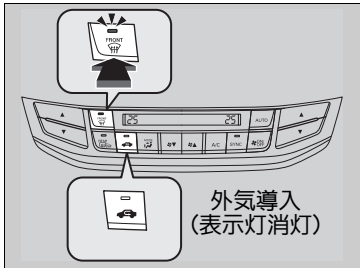
外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、 AUTO を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

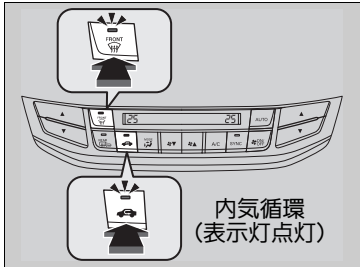
ON/OFFを押すたびに ON や OFF に切り換わります。ON すると OFF する前の状態に戻ります。

■前面・側面ガラスの曇り止め (デフロスター) の使いかた



FRONTを押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

FRONTをもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。



■急速に霜を取りたいとき

1. FRONTを押す。
2. を押す。

» 前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

設定温度を最大冷房付近にしないでください。
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

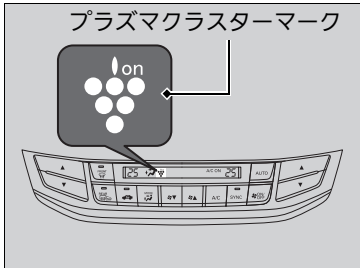
側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風が側面ガラスに当たるよう、側面吹き出し口を調節してください。

» 急速に霜を取りたいとき

霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。
内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

次ページに続く

■プラズマクラスター

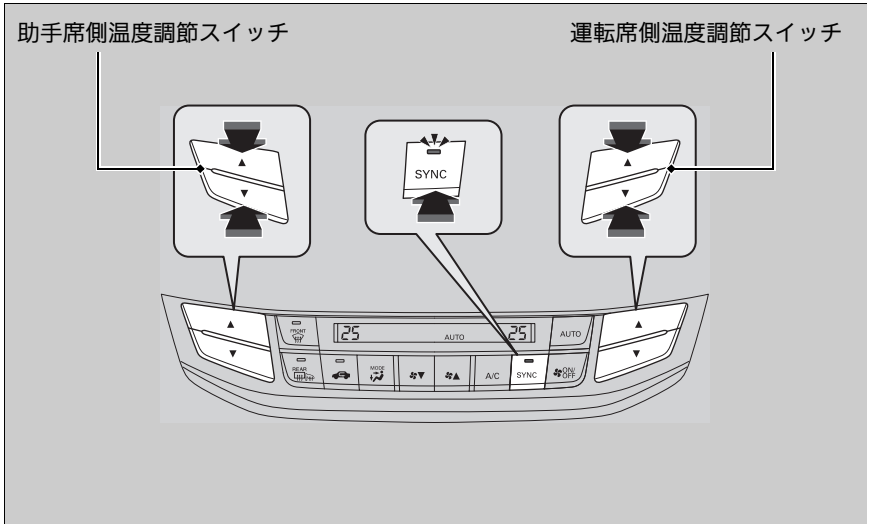


エアコンもしくは送風に連動してプラズマクラスターも作動し、マークが点灯します。

プラズマクラスター

プラズマクラスターマークおよびプラズマクラスター、Plasmaclusterはシャープ株式会社の登録商標です。

■連動作動(シンクロ)モード



エアコンの設定操作を独立モードから連動作動モードに切りかえます。
運転席側と助手席側の設定温度を連動させて設定することができます。

1. SYNC を押す。
▶ 連動作動モードに切り換わります。
2. 運転席の温度調節スイッチで室内の温度を設定する。

独立モードに戻すときは、 SYNC または助手席側の温度調節スイッチを押します。

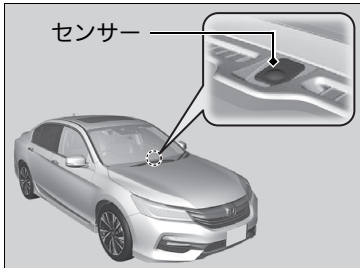
連動作動(シンクロ)モード

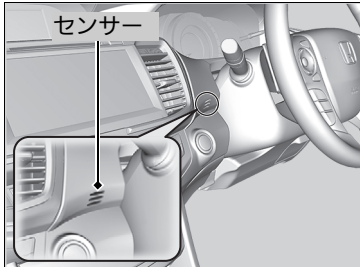
FRONT を押すと、連動作動モードに切り換わります。

独立モードの場合は、エアコンの設定温度を運転席側と助手席側で個別に設定できます。

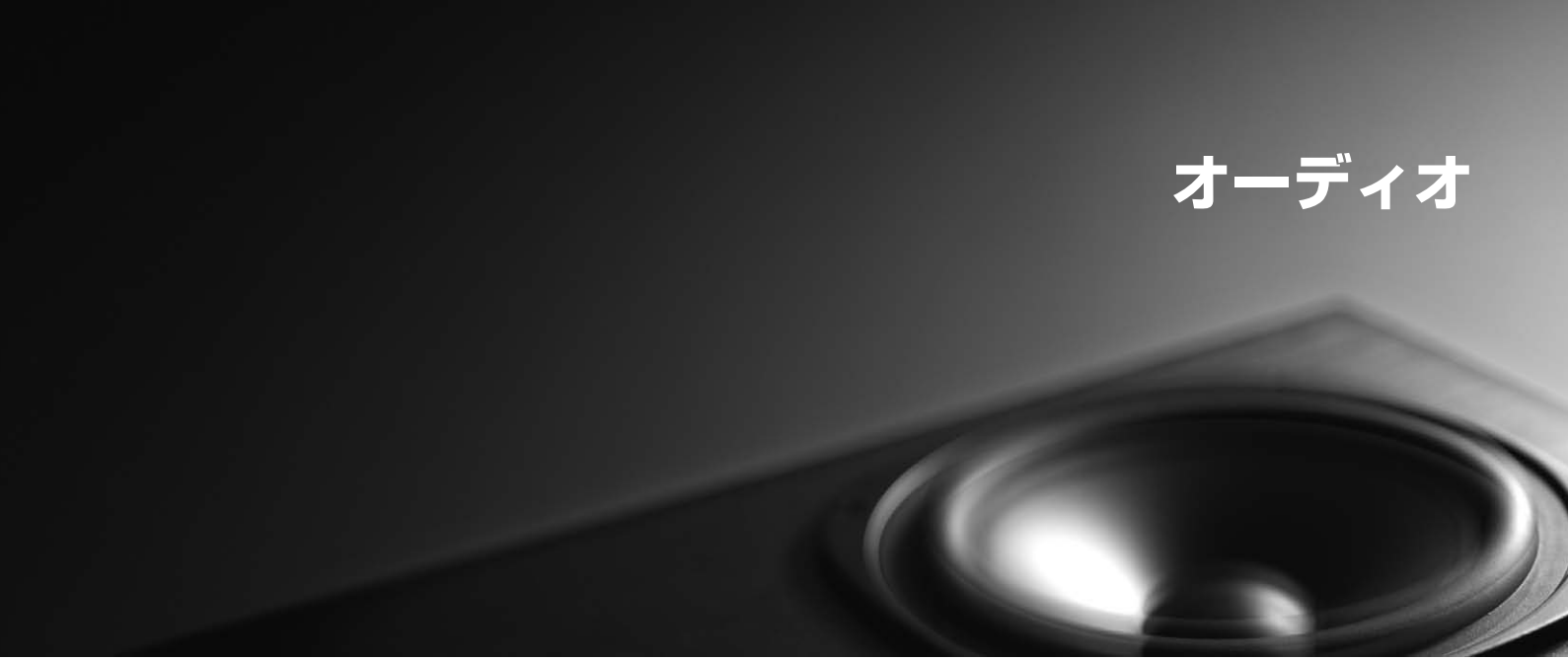
連動作動モードにすると、運転席側の設定温度に切り換わります。

オートエアコンのセンサー





オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。



オーディオ

オーディオ装置 188

オーディオ装置

オーディオ・テレビ・DVD の取り扱いについては、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。



運転

この章では、運転操作、給油、アクセサリーなどについて記載しています。

運転の前に 190
運転操作
パワーシステムの起動..... 192
走行時の注意点 197
オートマチックについて 199
シフト操作..... 200
減速セレクター 204
SPORT モードスイッチ 206
ECON スイッチ..... 207
車両接近通報装置..... 208
光ビーコンアンテナ 209
信号情報活用運転支援システム 210
フロントセンサーカメラ 214
渋滞追従機能付ACC(アダプティブクルーズコントロール) 216
LKAS(車線維持支援システム).....230
標識認識機能 242
VSA(ビークルスタビリティアシスト).....249
先行車発進お知らせ機能.....251
路外逸脱抑制機能.....255
歩行者事故低減ステアリング.....261
LaneWatch™.....267
高電圧バッテリーの特性.....269
ブレーキ操作
ブレーキシステム 270
ABS(アンチロックブレーキシステム) 275
電子制御ブレーキアシスト 276
エマージェンシーストップシグナル 277
衝突軽減ブレーキ(CMBS) 278
駐停車操作 287
パーキングセンサーシステム 289
リアカメラシステム 293
給油
指定燃料について 294
給油のしかた 295

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
  ▶霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
  ▶屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
  氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  ▶足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
  ▶走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
  ▶空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
  ➡ **タイヤの点検と整備** P.312
- 車の周囲に子供はいないか？
  車の周りに障害物はないか？
  ▶運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

■車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
  ▶ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。

≫車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。
無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。
凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。
車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

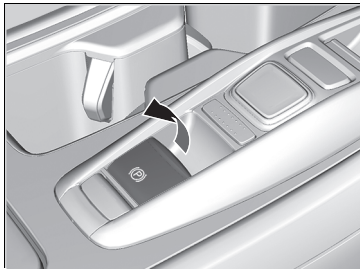
≫車内での確認項目

運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。
運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。 運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアマットをお使いください。

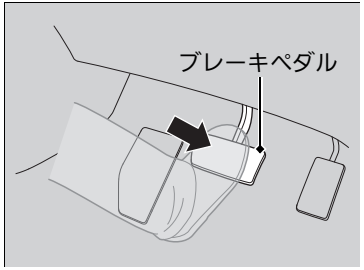
- フロントシートの足元にものを置いていないか？
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
  ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
  ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
  ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シート位置などが適切に調節されているか？
  ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
  ➔ **シートの調節** P.163
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
  ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
  ➔ **ミラー類の調節** P.159
  ➔ **ハンドルの調節** P.158
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
  ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
  ➔ **シートベルトの着用** P.35
- ドア、トランクが確実に閉まっているか？
  ▶ 走行前にすべてのドア、トランクが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
  ➔ **車内での施錠 / 解錠** P.130
- パワーシステムを起動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
  ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  ➔ **警告灯** P.61

パワーシステムの起動



1. パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。

▶パーキングブレーキがかかっていると、電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が約 15 秒間点灯します。



2. 右足でブレーキペダルを踏む。

パワーシステムの起動

⚠警告

12V バッテリー液が不足しているときは、パワーシステムを起動しない。
12V バッテリーが破裂するおそれがあります。

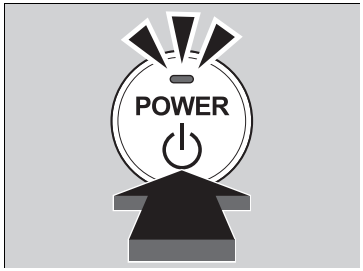
⚠注意

パワーシステムを起動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

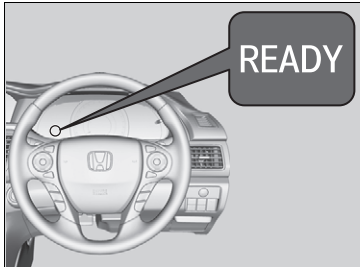
寒いときのパワーシステムの起動は、すべての電気アクセサリーをOFFにしてから行います。
寒いときのパワーシステムの起動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべて OFF にしてから行ってください。

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。そのため、あらかじめ登録されたキーでないとパワーシステムの起動とエンジンの始動ができません。
➡ **イモビライザーシステム** P.137

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで POWER に触れてください。
➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.344



3. アクセルペダルを踏まずに、 POWER を押す。



4. READY 表示灯の点灯を確認する。

▶ READY 表示灯が点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

▶ パワーシステムが起動すると、READY 表示灯が点灯し運転することができます。

▶ 外気温が極端に低いときは、条件が整うまで走行することができません。このとき、READY 表示灯が点灯せず、他のメッセージが表示されます。

➔ **マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ** P.78

■パワーシステムの停止

車が完全に停止しているとき、パワーシステムを停止することができます。

1. シフトポジションを P にする。

2. POWER を押す。

次ページに続く

パワーシステムの起動

パワーシステムが起動しない場合は、30 秒以上待ってから操作してください。

パワーモードを ON モードにしたとき、ブレーキペダルが押し込まれる感じを受けることがありますが、ブレーキ装置の作動によるものであり、異常ではありません。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。
Honda 販売店で点検を受けてください。

POWER は、エンジンが始動するまで押し続ける必要はありません。

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで POWER に触れてください。

➔ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.344

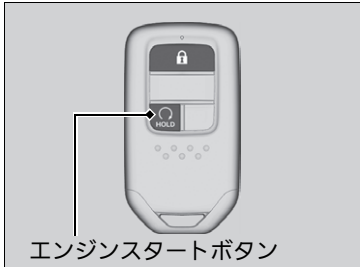
パワーシステムの停止

走行可能な状態でも、エンジンが始動しないことがあります。
READY 表示灯が点灯していれば走行可能です。
READY 表示灯が点灯している状態で、ブレーキペダルを踏んで POWER を押すとパワーモードが OFF になり、走行できなくなります。

➔ **READY 表示灯** P.76

■エンジンスタートボタン付の Honda スマートキーでのパワーシステムの起動*

Honda スマートキーで車外からパワーシステムの起動ができます。



■車外からパワーシステムの起動をするには

1. [🔒]ボタンを押す。
   ▶ 信号を受信すると非常点滅表示灯が1回点滅します。
2. 5 秒以内に[HOLD]ボタンを 1 秒間押す。
   ▶ 信号を受信すると非常点滅表示灯が1回点滅します。ただし、起動時間延長の場合は点滅が省略されます。
   ▶ パワーシステムが起動すると非常点滅表示灯が 6 回点滅します。

10分間パワーシステムが起動した状態になります。

■パワーシステムを起動できない条件

- シフトポジションが[P]以外のとき
- ボンネットが開いている、またはいずれかのドアまたはトランクが解錠されている
- 起動時間をすでに延長しているとき
- 別の登録された Honda スマートキーが車内にある
- 車両に異常があるとき

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

▩エンジンスタートボタン付の Honda スマートキーでのパワーシステムの起動*

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のあるガレージや密閉された場所でのパワーシステムの起動はしない。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

工場出荷時にはこの機能をOFFにしています。機能を ON にする場合は Honda 販売店にご相談ください。

一部の自治体では、アイドリングストップに関する条例に抵触するおそれがあります。関係する自治体に確認したうえで、適切に使用してください。

パワーシステムを起動中にもう一度起動操作を行なうと、さらに 10 分間起動時間が延長されます。
（繰り返し起動操作をしてもパワーシステムが起動していることを示すため、非常点滅表示灯が点滅しますが、起動時間延長は最長で 20 分間までです。）



■パワーシステムを停止するには

HOLDボタンを 1 秒間押してください。

▶ 信号を受信すると非常点滅表示灯が1回点滅します。

エンジンスタートボタン付の Honda スマートキーでのパワーシステムの起動✤

建物や障害物が Honda スマートキーと車両の間にある場合、また周囲の電波状況により、作動範囲が狭くなったり作動しないことがあります。

以下の場合、自動的にパワーシステムを停止します。

- Honda スマートキーのHOLDボタンを使用してパワーシステムを起動した後、10 分以内に走行しないとき
- 車内に Honda スマートキーがない状態で POWER スイッチを押したとき
- Honda スマートキーを使わずにドア開けたとき
- ボンネットを開けたとき
- シフトポジションがP以外のとき
- 車両に異常があるとき

パワーシステムが起動している間は外気温に応じて自動的にエアコンやデフロスターなどを作動させる機能があります。

外気温が高いとき：

- エアコンが作動し、設定温度 25 ℃で制御します。

外気温が低いとき：

- デフロスターとリヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラーが作動します。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■発進時の操作

車外からパワーシステムの起動をしたとき

1. 右足でブレーキペダルを踏み、 POWER を押す。

パワーシステムの起動共通手順

2. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、READY 表示灯の点灯を確認し、シフトポジションを D にする。

▶ 後退する場合は R にします。

3. パーキングブレーキをかけたまま、ブレーキペダルを離して、アクセルペダルをゆっくりと踏む。

▶ 電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が消灯したことを確認してください。

▶ 運転席シートベルトを装着していないと、発進時でも電子制御パーキングブレーキは自動解除されません。

➲ **電子制御パーキングブレーキ** P.270

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1 秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

≫発進時の操作

⚠注意

アクセルペダルを踏んだまま、シフトポジションを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

パーキングブレーキスイッチの操作で解除することもできます。
下り坂の場合、アクセルペダルを踏まずにパーキングブレーキを手動で解除すると、よりスムーズに発進することができます。

≫ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

ハイブリッド車は走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がでないことがあるため、走行可能な状態であることに気がつかない場合があります。
READY 表示灯が点灯しているかどうかを確認し、発進操作をしてください。

走行時の注意点

■霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

■風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。
トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

走行時の注意点

走行中はパワーシステムを停止しないでください。
下記のような状態になり危険です。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はシフトポジションを N にしないでください。
回生ブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずパワーシステムを起動してください。
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

次ページに続く

■雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。
わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンの破損や電装品の故障につながるおそれがあります。

■その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

≫雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。
ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

≫その他の注意点

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。
システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

オートマチックについて

■クリープ現象

パワーシステムが起動しているとき、シフトポジションが P N 以外になっているとオートマチック装備のガソリン車と同様に、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

■キックダウン

シフトポジションが D で走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、オートマチック車のキックダウンのように、力強い加速を得ることができます。

クリープ現象

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。
ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

キックダウン

上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、エンジン回転数が上がり、モーターの出力が大きくなることで速度が出すぎてしまうことがあります。
アクセルペダルは慎重に操作してください。滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

シフト操作

走行状態に応じてシフトポジションスイッチを押して切り換えます。

■シフトポジションの名称とはたらき



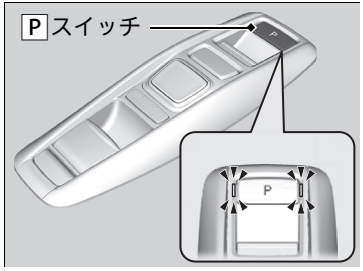
P パーキング
駐車またはパワーシステムを起動するとき

R リバース
車を後退

N ニュートラル
駆動力が伝達されない状態

D ドライブ
- 通常走行
- 一時的に減速セレクターを使用するとき
- 減速セレクターを使用するとき（SPORTモード走行時）

■パーキングスイッチ



パワーモードがONモードで車が停止しているとき、スイッチを押すとシフトポジションがPになり、スイッチのシフト操作表示が点灯します。

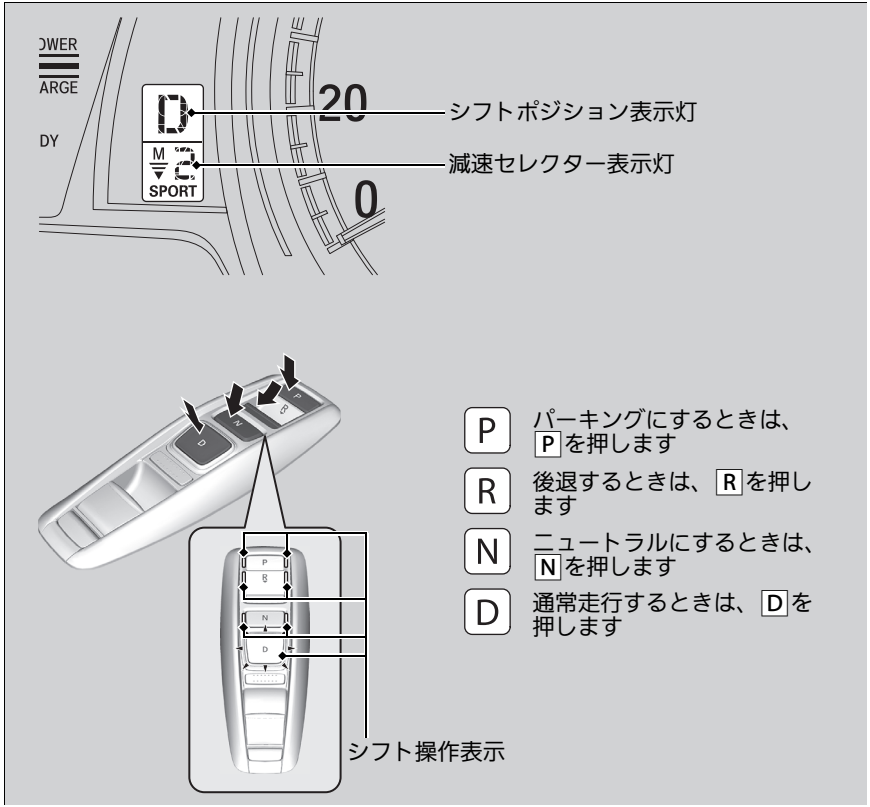
シフト操作

高電圧バッテリーの充電量が満充電に近い状態のとき、または高電圧バッテリーの温度が低いときは、回生ブレーキの効きが弱くなることがあります。

故障と予期しない作動を防止するため：
- シフトポジションスイッチに液体などをこぼさないでください。
- シフトポジションスイッチやまわりに、衝撃を与えたりものを落とさないでください。
- お子様や運転者以外の方がシフトポジションスイッチを操作しないようご注意ください。

高電圧バッテリ ー の充電状態が著しく低いとき、Rを選択すると、車両が動き出すまでに通常より時間がかかることがありますが、故障ではありません。

■シフトポジションの操作



シフトポジションの操作

車両を完全に停止させ、ブレーキペダルを踏んだままシフトポジションをDからRまたはRからDに切り換えてください。

シフト操作の前後に、シフトポジション表示灯とシフト操作表示を確認してください。

選択しているシフトポジションの表示灯が点滅しているときは急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。
全てのシフトポジションで、表示灯が点滅する場合は、ただちに安全な場所に車を停車してください。
異常なければ消灯しますが、Honda 販売店で点検を受けてください。

N、PまたはRを選択しているときに、エンジン回転数が高い状態が続くと、燃料供給が停止されることがあります。

次ページに続く

■自動パーキング選択制御

■ドア Open 自動パーキング選択制御

パワーモードが ON モードで車が停止、または、車速が 2 k m/h 以下のときに、P 以外のシフトポジションのまま、運転席のシートベルトをはずし運転席ドアを開けるとシフトポジションが自動で P になります。

■パワーモード Off 自動パーキング選択制御

停止中にシフトポジションが P 以外のまま、パワーモードを OFF モードにすると、シフトポジションが自動で P になります。

■アクセサリーモード時の N ポジション保持制御

シフトポジションを N にして、約 5 秒以内に POWER を押すと N の状態のままパワーモードはアクセサリーモードになります。

▶ アクセサリーモードを 15 分間保持した後、自動的に OFF モードになります。

この制御中に、シフトポジションを P にすると、この制御は解除され、OFF モードになり、このとき数秒間 P が点灯します。

自動パーキング選択制御

駐車をするときは、安全のために、運転席ドアを開ける前にシフトポジションを P にし、適切な方法により行ってください。

駐停車操作 P.287

この制御により P になった後、発進する場合は、ドアを閉めてシートベルトを装着し、シフト操作をしてください。

ドア Open 自動パーキング選択制御

この制御により P になったときは、ドアを閉めて、改めてシフトポジションを選択してください。

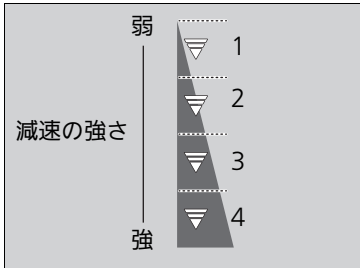
■シフトポジションの選択制限

不正な操作をすると、安全のため、シフトポジションの選択が制限されます。

操作前のシフトポジション	1. 操作・走行状態	2. パーキングスイッチ・シフトポジションの操作	3. 操作後のシフトポジション	対処のしかた
P	ブレーキペダルを踏んでいない	他のシフトポジションを選択する	P	アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏む
	アクセルペダルを踏んでいる			
N	低速走行中で、ブレーキペダルを踏んでいない		N	
	低速走行中で、アクセルペダルを踏んでいる			
N D	前進している	R		停車する
R N	後退している	D		
R N D	走行中	P		
P N	READY 表示灯が点灯していない	P N以外を選択する	P N	READY 表示灯の点灯を確認する

減速セレクター

ハンドルにあるセレクターで、アクセルペダルを離したときの減速の強さをハンドルから手を離さずに、4段階で変更できます。前走車との車間調整や坂道などで減速の強さを変更したいときに使用してください。

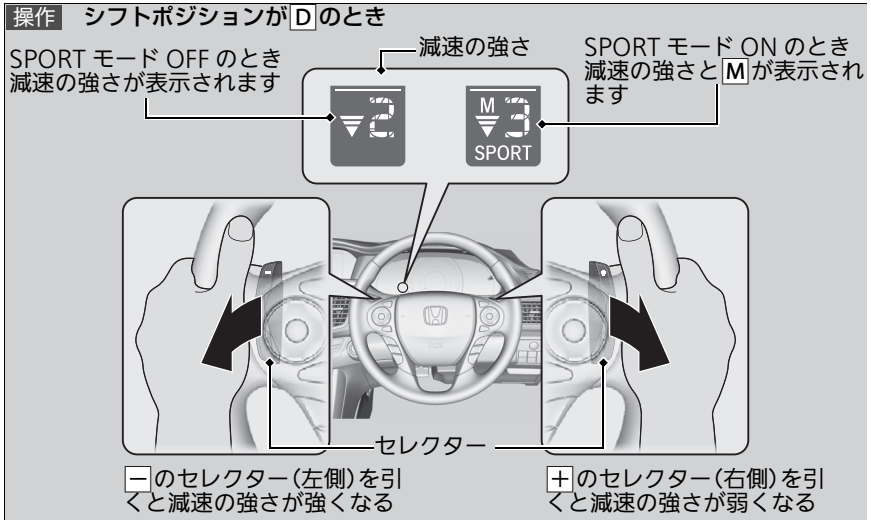


1回のセレクター操作で、減速の強さは1段強さが変更します。

▶ セレクターを引き続けても連続では変更しません。

解除したいときは＋のセレクター(右側)を数秒間引き続けることで解除することができます。

操作 シフトポジションがDのとき



▶▶減速セレクター

⚠注意

減速する際の車速には、十分注意する。

滑りやすい路面では、急激な減速がタイヤのスリップを招くことがあります。

はじめに＋のセレクター(右側)を引くと減速の強さは「1」が選択され、－のセレクター(左側)を引くと減速の強さは「2」が選択されます。降坂中は「3」が選択される場合があります。

左右のセレクターを同時に操作すると、変更しないことがあります。

以下の状態のときはセレクターを引いても減速の強さが変更されずに数字が点滅します。また、自動的に減速の強さが弱くなったり解除することがあります。

- 高電圧バッテリーが満充電時、低温時、高温時
- 車速が減速の強さの許容範囲外のとき
- ハイブリッドシステムの保護が必要なとき
- 渋滞追従機能付 ACC 作動により停車してセレクターの操作をしたとき

セレクター操作を行うと渋滞追従機能付 ACC 作動は解除されます。

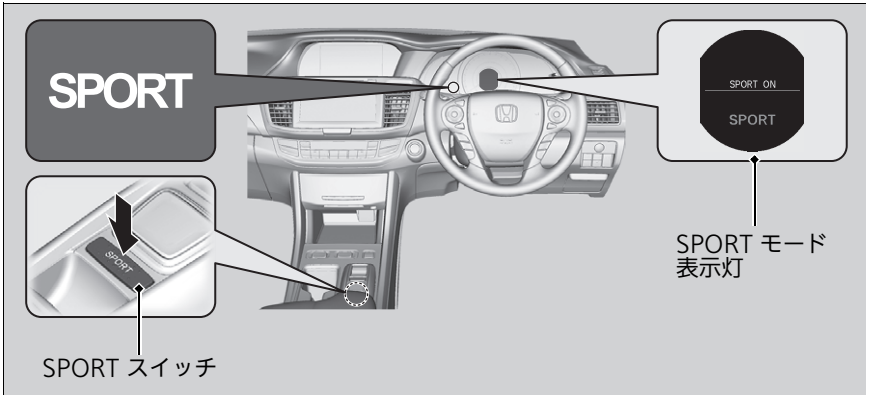
■SPORT モードスイッチが OFF のとき

セレクターを引くと一時的に減速の強さが変更され、メーター内に減速の強さが表示されます。一定速度の走行や加速の状態、停止間際まで減速すると減速の強さは自動的に解除され表示は消灯します。

■SPORT モードスイッチが ON のとき

セレクターを引くと減速の強さが変更され、メーター内に減速の強さと M が表示されます。SPORT モード中は自動解除されません。解除する場合は、SPORT モードスイッチを OFF にするか、＋のセレクター(右側)を数秒間引き続けます。解除されると表示は消灯します。

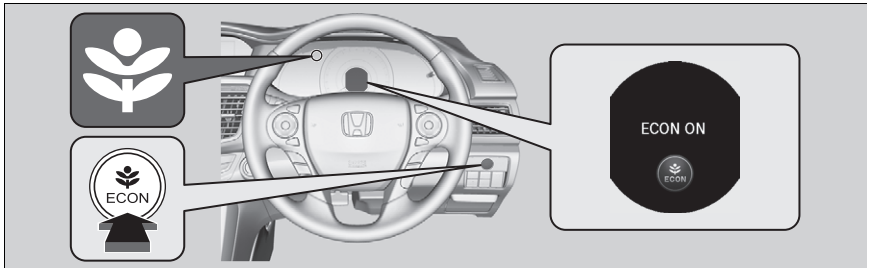
SPORT モードスイッチ



スイッチを押すとエンジン、トランスミッション、モーターの作動を制御して、素早い発進加速や力強く伸びのある走行を可能にします。

パワーモードが ON モード のときにスイッチを押すと、SPORT モードが ON になります。

ECON スイッチ



スイッチを押すとモーター、エンジン、トランスミッション、エアコン、クルーズコントロールの作動を制御して、省燃費運転をしやすくするように制御します。

パワーモードが ON モードのときに ECON スイッチを押して、ECON モードの ON と OFF を切り換えてください。

▶ ECONモードがONのときは、メーター内の表示灯が点灯し、運転の状況に応じて省燃費制御に切り換わります。

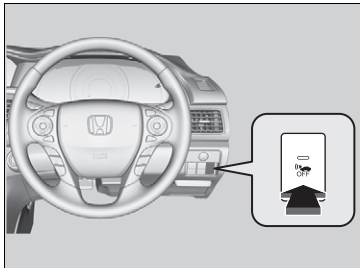
ECON スイッチ

ECON モードのときは、走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。

車両接近通報装置

約 20km/h 以下で走行しているときに、歩行者に車両の接近を知らせるため、走行音を発生させるシステムです。

■車両接近通報装置の ON と OFF



車両接近通報を停止(OFF)状態にするには、OFFを押してください。
車両接近通報が停止状態になります。

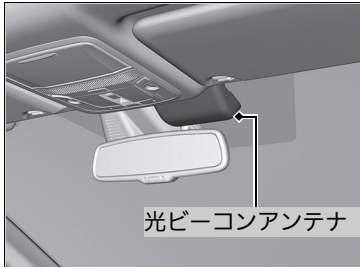
再度使用 (ON)するには、OFFを押します。

≫車両接近通報装置

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的にONになります。

光ビーコンアンテナ

信号情報活用運転支援システムに使用するアンテナを装備しています。



アンテナはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、一時的に通信できなくなる場合があります。

また、フロントガラス外側が汚れ、泥、雪などに覆われていると通信できなくなる場合があります。

光ビーコンアンテナ

フロントガラスにフィルムを貼ったり、アンテナの通信を遮るものを取り付けないでください。

アンテナ付近のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。

Honda 純正品以外のフロントガラスを使用すると、システムが正常に作動しなくなる場合があります。

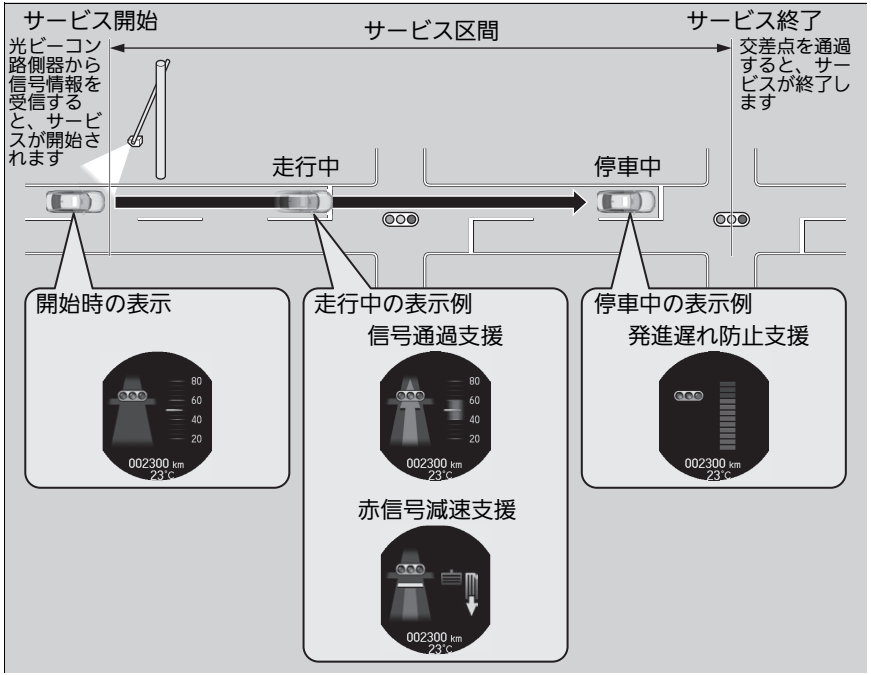
フロントガラスの修理や交換をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。

アンテナを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。

アンテナ及び周辺部に衝撃が加わったときはHonda 販売店にご相談ください。

信号情報活用運転支援システム

信号情報活用運転支援システムは走行時に受信した複数の交差点の信号予定情報を基に、信号通過支援、赤信号減速支援、発進遅れ防止支援をマルチインフォメーションディスプレイ内に表示し、運転者にお知らせする機能です。



▩信号情報活用運転支援システム

⚠警告

信号情報活用運転支援システムは補助機能として使用する。

信号情報活用運転支援システムは、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者に情報提供するための機能です。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

サービス区間を走行することにより、車側からも光ビーコン路側器へ送信される情報があります。その情報は各都道府県の交通管制センターにて管理されますが、個人や車を特定できるものではありません。その情報は渋滞状況の把握や信号制御の改善等に使われます。

マルチインフォメーションディスプレイを使って信号情報活用運転支援/走行情報送信機能の ON/OFF 設定、割込表示や音のありなしの設定ができます。

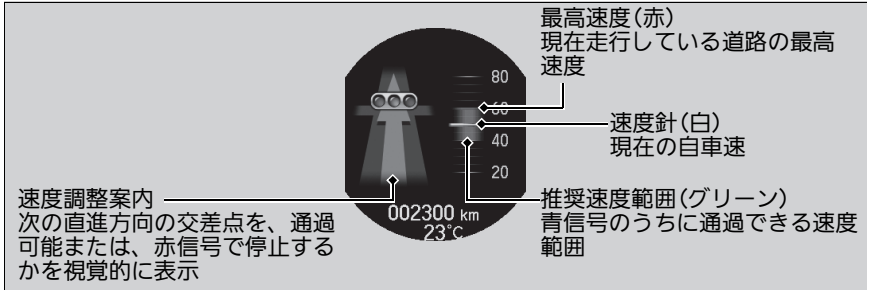
➔ **カスタマイズ機能** P.109

発進遅れ防止支援時にはポーンという音が鳴ります。

サービス区間では、受信した最高速度情報を標識認識機能で使用します。

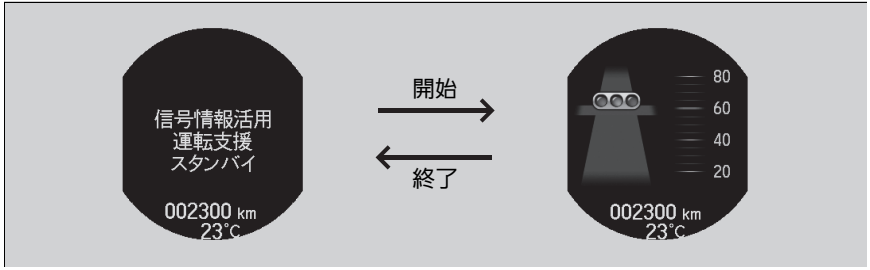
■システムの作動

表示名称と機能は以下のとおりです。



■サービス開始と終了

光ビーコンの下を通過し、信号制御情報を受信したときにサービスを開始します。



サービスを終了すると、スタンバイ状態になります。

次ページに続く

システムの作動

運転中に以下の表示が出た場合、システムの異常が考えられます。
Honda 販売店で点検を受けてください。



カスタマイズ機能で “割り込み表示有り” にしておくと、自動で支援画面が表示されます。サービスが終了すると元の表示画面に戻ります。

サービス途中で右左折した場合スタンバイ状態になります。

自車の前方が渋滞時は作動タイミングが合わないことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイの表示

各支援表示に合わせ周囲の状況を確認しながら適切に走行することで省燃費運転を手助けします。

• 信号通過支援表示 / 赤信号減速支援表示(走行中)



①普段通り運転してください



②青信号で通過可



③今の速度では赤信号で停止します
速度調整をする



④赤信号で停止します



⑤目の前の信号で停止します
アクセルペダルから足を離す



⑥２つ目の信号で停止します
アクセルペダルから足を離す

• 発進遅れ防止支援表示(赤信号で停止中)



⑦赤信号の残時間を表示



⑧まもなく青信号に変わります

マルチインフォメーションディスプレイの表示

通過支援表示が交差点直前では①の表示になります。

配信される信号情報には有効時間があります。
▶渋滞などで有効時間を過ぎると①の表示になります。

⑤⑥表示は走行中の道路環境(勾配など)によっては遅く感じたりすることがあります。

前方の信号が感応式信号機などの場合は発進遅れ防止支援や通過支援に対し、表示(推奨速度範囲も含む)が遅れたり早くなることがあります。

右折や左折の矢印表示がある信号機で右折待ちや左折待ちの場合、支援表示はあくまでも自車が直進する想定で表示します。

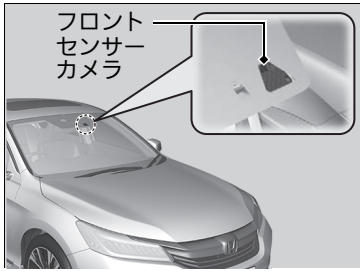
■信号情報活用運転支援システムの条件と制限

以下の条件によりサービスが制限されます。

- (通信機器の整備状況により)全ての路線でサービスされるわけではありません
- サービス路線であってもサービスされない区間があります
- 同じ交差点を通っても支援が出る場合と出ない場合があります
- サービス区間であっても工事や管制センターメンテナンス等でサービスしていない時間帯があります
- 押しボタン式交差点等、サービス対象外の交差点があります

フロントセンサーカメラ

渋滞追従機能付ACC、LKAS(車線維持支援システム)、路外逸脱抑制機能、衝突軽減ブレーキ(CMBS)、誤発進抑制機能、歩行者事故低減ステアリング、先行車発進お知らせ機能、標識認識機能に使用するカメラを装備しています。



カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。

フロントセンサーカメラ

フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けないでください。

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。
Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合があります。
フロントガラスの修理や交換をする場合はHonda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。
車内の清掃 P.321

インストルメントパネル上部に物を置かないでください。
物がフロントガラスに反射してシステムが正常に作動しなくなる場合があります。

カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。
次の場合はHonda 販売店にご相談ください。
- カメラ及び周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。
必要に応じてデフロスターを使用してください。

フロントセンサーカメラ

ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。
カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラが高温です」が表示される場合：

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。必要に応じてデフロスターを使用し、風がカメラに向かうようにしてください。
- 車両を走行し、フロントガラスの温度を低下させ、センサーカメラ周辺の温度を下げてください。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　フロントウインドウが汚れています」が表示される場合：

- 安全な場所に車を駐車し、フロントガラスの汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)

渋滞追従機能付 ACC は、フロントバンパーの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。

渋滞追従機能付 ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

渋滞追従機能付 ACC を作動させるには：

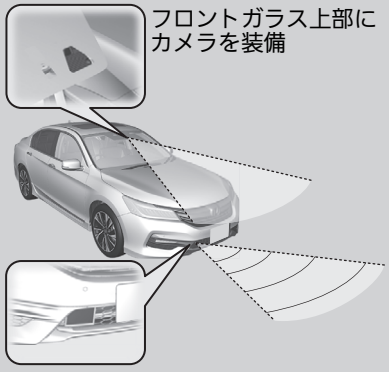
渋滞追従機能付ACCシステムは、シフトポジションがDのときに使用することができます。

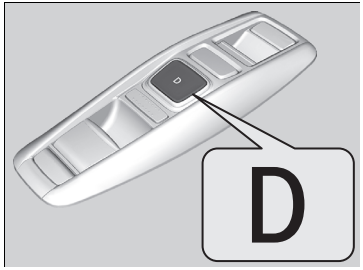
渋滞追従機能付ACC(アダプティブクルーズコントロール)

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC の不適切な使用は事故につながります。取扱説明書の操作手順に従い操作してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

■使用できるシフトポジション
D のとき





ブレーキペダルを操作しての減速中や、パーキングブレーキがかかっているときは、渋滞追従機能付 ACC は作動しません。悪天候などで、レーダーセンサーが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。

渋滞追従機能付　ACC(アダプティブクルーズコントロール)

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC は、補助システムとして使用してください。渋滞追従機能付 ACC は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC の作動中に停車した車両から、適切な駐車操作無しで外に出ると車両が操作無しで動き出す可能性があります。
適切な駐車操作無しで動く車両は、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
渋滞追従機能付 ACC で停車した車両から絶対に外に出ないでください。

次ページに続く

渋滞追従機能付　ACC(アダプティブクルーズコントロール)

使用上の注意：

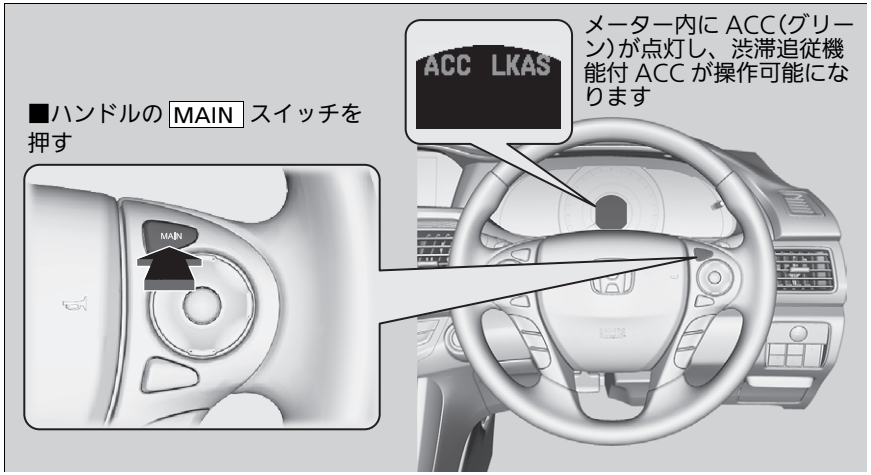
渋滞追従機能付 ACC は、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

パワーモードをONモードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードをONモードにすると、渋滞追従機能付 ACC が作動しない場合があります。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

フロントセンサーカメラ P.214

■システムを作動させるには



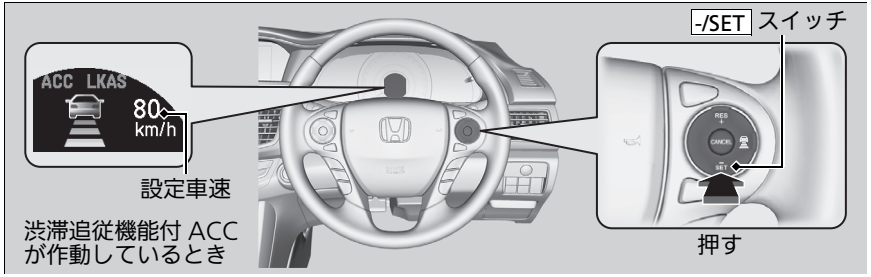
システムを作動させるには

渋滞追従機能付 ACC に使用するレーダーセンサーは衝突軽減ブレーキ(CMBS)のレーダーセンサーと共有しています。

➔ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)** P.278

次ページに続く

■車速をセットするには



ブレーキペダルを操作していないときに -/SET スイッチを押すと現在の車速が設定車速とされ、渋滞追従機能付 ACC が作動し、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンや設定車速が表示されます。

車速が 30km/h 以下で走行しているとき：

先行車を検知している場合のみ作動することができ、現在の車速にかかわらず設定車速が約 30km/h に設定されます。車両が動いていない場合は、ブレーキペダルを踏んでいても作動することができます。

≫車速をセットするには

MAIN スイッチを押すと、渋滞追従機能付 ACC と LKAS の両方が ON と OFF に切り換わります。

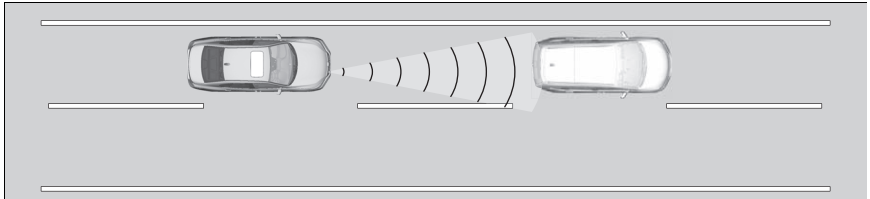
下記の状況のときは、渋滞追従機能付 ACC を使用しないでください。

- 交通量の多い道路や頻繁に加減速を繰り返すような交通状況では、交通状況にあった速度で走行できません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 急な下り坂では設定車速を超えてしまう場合があります。このような場合は、渋滞追従機能付 ACC によるブレーキは作動しません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するときは、自車の前から先行車がいなくなることで設定車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候（雨、霧、雪など）のときは先行車との車間距離を正確に測定できません。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

■渋滞追従機能付 ACC の作動

■先行車がいるとき

渋滞追従機能付 ACC は先行車がレーダーセンサーの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。



渋滞追従機能付 ACC の検知範囲：120m



マルチインフォメーション
ディスプレイに車のアイコン
が表示されます

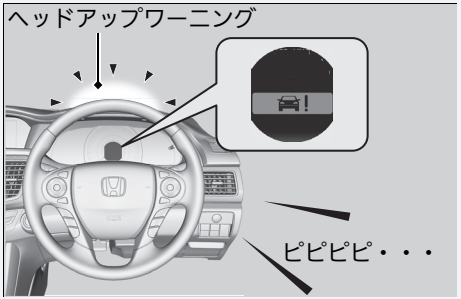
設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

次ページに続く

▨渋滞追従機能付 ACC の作動

先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告やヘッドアップワーニングで視覚への警告が表示されます。

ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。

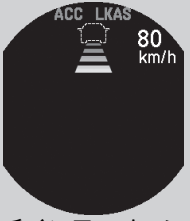


先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。

マルチインフォメーションディスプレイを使って先行車検知音の有り / 無しを設定できます。

➔ **カスタマイズ機能** P.109

■先行車がいないとき



マルチインフォメーションディスプレイに点線の車のアイコンが表示されます

先行車がいない場合、設定した車速で定速走行します。
先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速したあと定速走行します。

■アクセルペダルを踏んだとき

- アクセルペダルを踏み込むと、渋滞追従機能付 ACC が一時的に解除され車速が上がります。このとき、渋滞追従機能付 ACC の警告範囲内に先行車がいても警告音やマルチインフォメーションディスプレイの警告表示はでません。
- アクセルペダルを少しだけ踏むと、車速が低下する場合があります。
- アクセルペダルを離すと、渋滞追従機能付 ACC が復帰し追従走行または定速走行を再開します。

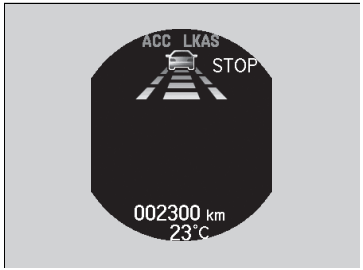
渋滞追従機能付 ACC の作動

制限：
安全な車間距離を保つために、渋滞追従機能付 ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などにより渋滞追従機能付 ACC が適切に作動しないことがあります。

渋滞追従機能付 ACC の条件と制限 P.223

- 道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドル操作や車線内の位置)によっては、一時的にとなりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。
- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

■先行車が減速して停車するとき



先行車が停車すると、自車も自動で停車します。マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
先行車が動き始めると、マルチインフォメーションディスプレイのアイコンが点滅します。 RES/+ スイッチまたは -/SET スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むことで発進し、以前の設定車速の範囲内で追従走行します。

■渋滞追従機能付 ACC の条件と制限

一定の条件でシステムは自動解除し、渋滞追従機能付 ACC 警告灯が点灯する場合があります。以下の条件では渋滞追従機能付 ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

➔ フロントセンサーカメラ P.214

■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- フロントバンパーが汚れているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候
- 先行車による水しぶきや雪の巻き上げがあるとき

次ページに続く

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■前方の車両の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

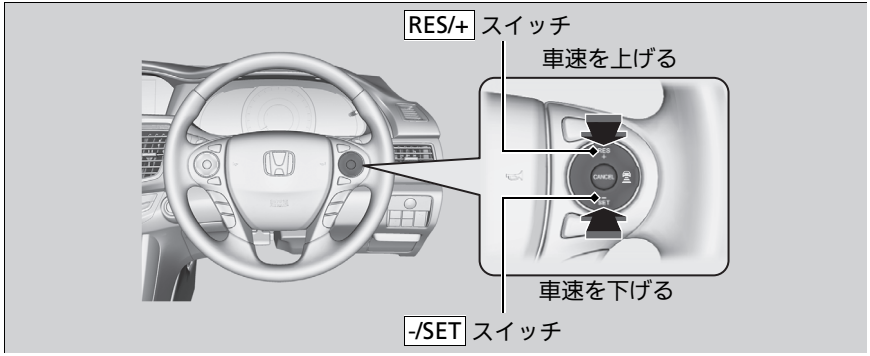
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき

■その他、システムが正しく作動しない事例

- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両がパネルトラックや特殊な形状の車両のとき
- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき

■設定車速を調整するには

手元の RES/+ と -/SET の操作で、設定車速を上げ / 下げすることができます。



RES/+ スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

-/SET スイッチ

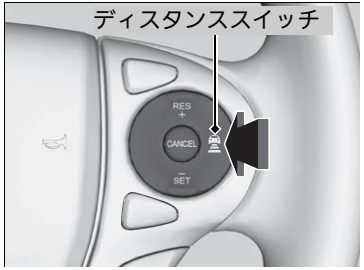
- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

設定車速を調整するには

検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。
これは設定した先行車との車間距離を維持するためです。

次ページに続く

■車間距離を設定するには



ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。
先行車との車間距離設定は、4 段階に切り換えることができます。
ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。
適切な車間距離の設定を決定してください。

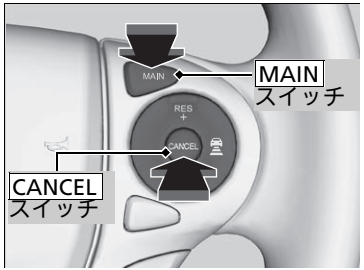
車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定		車速 80km/h のとき	車速 100km/h のとき
短		約 25m	約 30m
中		約 33m	約 40m
長		約 47m	約 59m
最長		約 61m	約 78m

先行車が停車し、自車も自動で停車したときの車間は車間距離設定により変わります。

次ページに続く

■解除するには



以下のいずれかの操作をすると、渋滞追従機能付 ACC が解除されます。

- CANCEL スイッチを押す
- MAIN スイッチを押す
  ▶ メーター内の ACC(グリーン)が消灯します。
- ブレーキペダルを踏む
  ▶ 停車している場合、ブレーキペダルを踏んでも渋滞追従機能付 ACC は解除しません。

■渋滞追従機能付 ACC の自動解除

次の場合は、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC OFF」と表示され、「ピー」とブザーが鳴り、渋滞追従機能付 ACC が自動解除されます。

- 悪天候(雨、霧、雪など)のとき
- フロントバンパーが汚れたとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABS や VSA、または CMBS が作動したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- 急斜面で停車しているとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき

▶解除するには

解除前の設定車速を復帰させるには：

渋滞追従機能付 ACC を解除したあと、停車状態でも RES/+ スイッチを押すと解除前の設定車速で作動を開始することができます。

ただし、以下の場合は復帰しません。

- MAIN スイッチを押して渋滞追従機能付 ACC を OFF したあと
- 30km/h 以下で先行車がいないとき

- 停車状態で先行車がいなくなったとき
- 急加速したとき
- フロントガラス上部のカメラまたはカメラ付近が汚れているとき
- 停車中に運転席のシートベルトを外したとき
- 車両が 10 分以上停車しているとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- 電子制御パーキングブレーキシステム警告灯が点灯したとき

解除するには

停車中の解除：

渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停車しているときに渋滞追従機能付 ACC が解除された場合に、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。

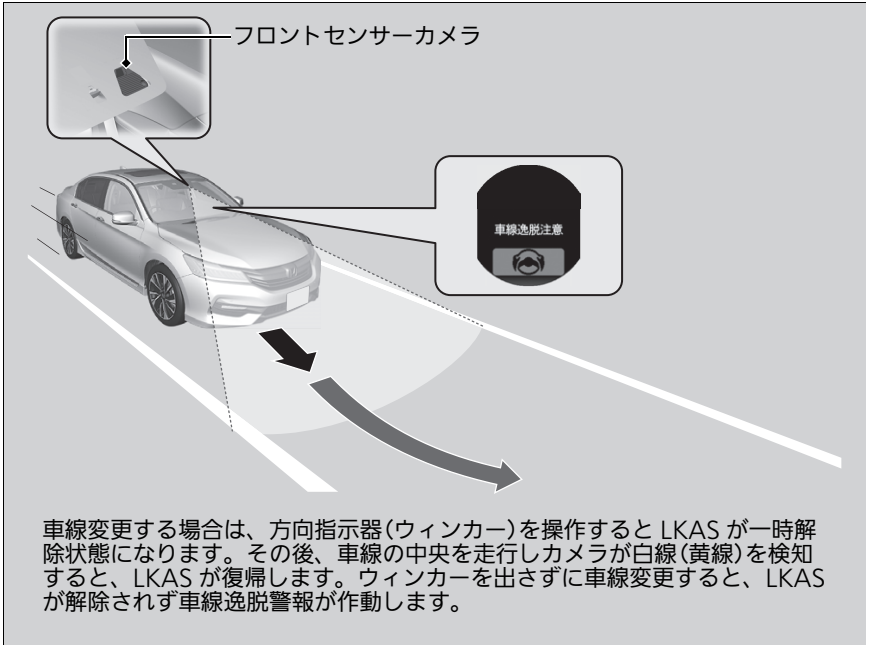


すみやかにブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。

LKAS(車線維持支援システム)

LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

■システムの作動



車線変更する場合は、方向指示器(ウィンカー)を操作すると LKAS が一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線(黄線)を検知すると、LKAS が復帰します。ウィンカーを出さずに車線変更すると、LKAS が解除されず車線逸脱警報が作動します。

LKAS(車線維持支援システム)

⚠警告

LKAS は補助システムとして使用してください。LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

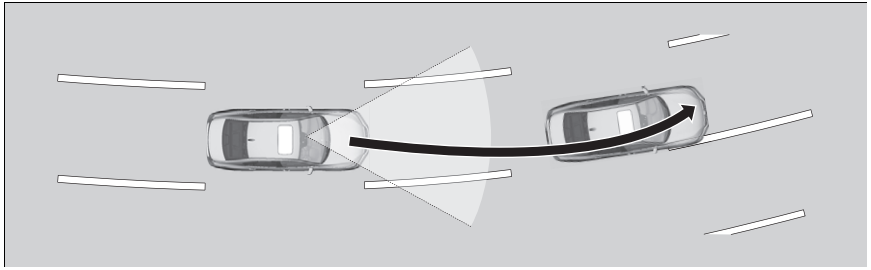
インストルメントパネル上部に物を置かないでください。物がフロントガラスに反射して車線を正確に検知できない場合があります。

LKAS は方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。
LKAS は、すべての車線区画線や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。
運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKAS は、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

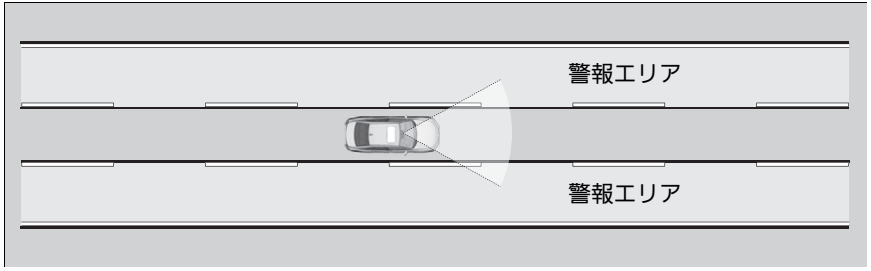
■車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線(黄線)に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



■車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報をハンドルの振動とディスプレイ表示で行います。



LKAS(車線維持支援システム)

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.214

LKAS は条件により正常に作動しない場合があります。

➔ **LKAS の条件と制限** P.239

車線の検知に失敗すると一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

次ページに続く

■ワイパー作動時の LKAS 自動解除機能

ワイパースイッチを LO、HI、AUTO または MIST で連続作動しているときは、LKAS は自動解除します。
ワイパーを OFF にすると、LKAS は復帰します。
ワイパーの作動が停止、もしくは間欠作動になると、LKAS は復帰します。

■車速による LKAS 自動解除機能

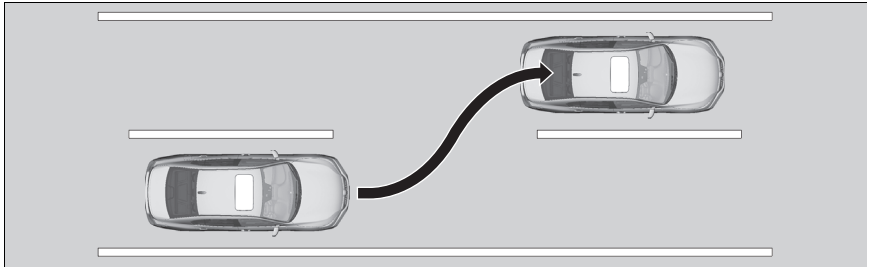
車速が 60km/h 以下になると、LKAS は自動解除します。
車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。

■ブレーキ操作時の LKAS 自動解除機能

減速などでブレーキペダルを踏むと LKAS が解除され、待機状態になります。ブレーキペダルから足を離し、システムが左右の白線（黄線）を検知すると LKAS が自動で復帰し、車線維持走行を補助します。

■車線変更時の一時解除

車線変更する場合は、方向指示器（ウィンカー）を操作するとLKASが一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線（黄線）を検知すると、LKAS が復帰します。



方向指示器（ウィンカー）を出さずに車線変更すると、LKAS が解除されず車線逸脱警報が作動します。

次ページに続く

■ LKAS を作動させるには

LKAS システムは、以下の条件で作動します。

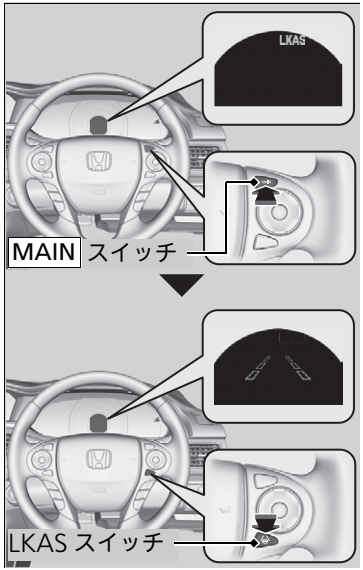
- 車速が約 65 ～ 100km/h で走行しているとき
- 左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線または半径 230m 以上のゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ワイパーを連続で作動させていないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 方向指示器（ウィンカー）を出していないとき

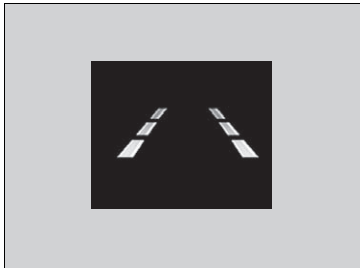
LKAS を作動させるには

白線（黄線）を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。

LKAS の条件と制限 P.239

■システムの作動方法





1. MAIN スイッチを押す
▶LKASシステムがONになり、マルチインフォメーションディスプレイ内にLKAS表示灯（グリーン）が点灯します。

2. LKASスイッチを押す
▶LKASシステムが待機状態になります。マルチインフォメーションディスプレイに車線表示（点線）が点灯します。

3. 車線の中央付近を走行する
▶車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線（黄線）を検知すると、LKASが制御を開始します。

LKASを作動させるには

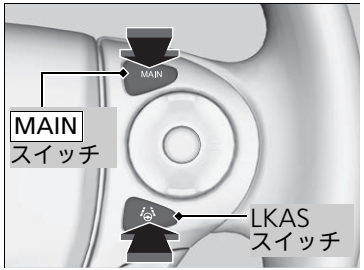
システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- カメラ付近のガラスは常にきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがカメラのレンズに付着しないようにする
- カメラのレンズには触れない
- カメラ付近のガラスにステッカーを貼らない

サスペンションの改造は行わないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

次ページに続く

■解除するには



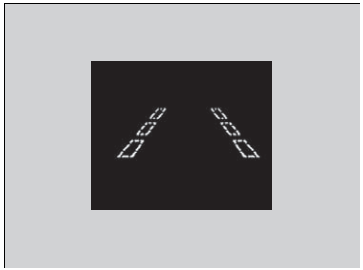
以下のいずれかの操作をすると、LKAS が解除されます。

- MAIN スイッチを押す
- LKAS スイッチを押す

前回走行時にLKASがON状態でも、パワーモードをOFFモードにする度にLKASはOFFになります。

»解除するには

MAIN スイッチを押すと、LKAS と同時に渋滞追従機能付 ACC も解除されます。



■LKASの自動解除

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、LKASが自動解除されます。

- ワイパーを連続作動したとき
  ▶ワイパースイッチをLO、HI、AUTOまたはMISTで連続作動しているときは、LKAS は自動解除します。ワイパーをOFF にすると、LKAS は復帰します。
- ブレーキ操作をしたとき
  ▶減速などでブレーキペダルを踏むとLKAS が解除され、待機状態になります。ブレーキペダルから足を離し、システムが左右の白線(黄線)を検知するとLKAS が自動で復帰します。
- 車速が60km/h以下になったとき
  ▶車速が60km/h以下になると、LKASは自動解除します。車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。
- ワイパースイッチが AUTO のときにワイパーが連続作動した場合には、LKAS は自動解除されます。

ワイパーの作動が停止、もしくは間欠作動になると、LKAS は復帰します。

LKASの自動解除

マルチインフォメーションディスプレイを使って自動解除ブザーの有り/無しを設定できます。

➔ **カスタマイズ機能** P.109

次ページに続く

次の場合、LKAS が自動解除される場合があります。
- 白線（黄線）を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ハンドル操作をしていないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 制限速度を超えた速度で走行したとき
- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき
- ABS、VSA が作動しているとき

■ LKAS の条件と制限

以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 天候(雨、霧、雪など)により、白線(黄線)や歩行者が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき
- ガードレールなどの影が、道路上に映っているとき

次ページに続く

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着したり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 先行車との車間距離が短いとき

標識認識機能

標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。
表示される道路標識は以下の４つです。

- 最高速度
- はみ出し通行禁止
- 一時停止
- 車両進入禁止

■作動のしかた

走行中にフロントガラス上部にあるカメラで特定の道路標識を認識し、マルチインフォメーションディスプレイに道路標識情報を表示します。



標識認識機能

⚠警告

標識認識機能は補助機能として使用する。
標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するよう設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。

信号情報活用運転支援システムサービス区間では、信号情報活用運転支援システムの最高速度情報が優先されます。
➔ **信号情報活用運転支援システム** P.210

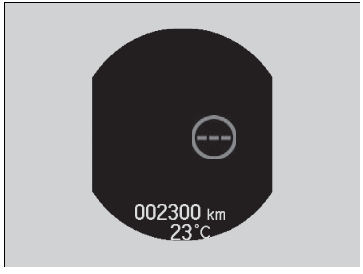
標識認識機能は以下の条件で作動します。
- 最高速度 / はみ出し通行禁止：速度に関係なく作動
- 一時停止 / 車両進入禁止：自車の速度が約 60km/h 以下のとき

以下のときは、道路標識情報が別のものに切り替わります。
- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。
- 最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離(数百〜千数百 m)を走行したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器(ウィンカー)を出しながら右左折したとき

次ページに続く

運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合は以下の画面が表示されることがあります。



標識認識機能

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

フロントセンサーカメラ P.214

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラが高温です」が表示されるとき、標識認識機能が作動せず、⛒が表示されます。

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。窓ガラスが曇った場合、必要に応じて、デフロスターモードを使用してください
- 車両を走行し、フロントガラスの温度を低下させ、カメラ周辺の温度を下げてください

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　フロントウインドウが汚れています」が表示されるとき、標識認識機能が作動せず、⛒が表示されます。
安全な場所に車を駐車し、フロントガラスの汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

■標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内等の暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候
- 前走車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

標識認識機能

標識認識機能が故障した場合はマルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。
のメッセージが消えないときは、Honda販売店で点検を受けてください。



次ページに続く

■標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- 小さいサイズの標識

■その他、カメラが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。
(最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い値を表示したりすることがあります。)

- 標識の上や下に、規制の地点(始まり、終りなど)や条件(曜日、時間帯など)を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識(電光式標識、数字がかすれた標識など)
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合(側道が本線に合流する地点の一時停止標識など)
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合(類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など)

次ページに続く

■マルチインフォメーションディスプレイの表示

同時に二つまで道路標識情報を表示します。ディスプレイの右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

常駐表示モードのときは、ディスプレイの上側には最高速度または一時停止標識、下側にははみ出し禁止または車両進入禁止標識を表示します。

選択表示モードのときの表示例





左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します。

常駐表示モードのときの表示例



上側は一時停止、下側は車両進入禁止を優先表示します。

▶マルチインフォメーションディスプレイの表示

車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。
約5秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

マルチインフォメーションディスプレイは、選択表示モードのほかに、常駐表示モードの選択ができます。

➔ **カスタマイズ機能** P.109

常駐表示モードの道路標識表示

常駐表示モード状態のときは、マルチインフォメーションディスプレイに縮小サイズの道路標識のアイコンを表示し続けることができます。

➔ **カスタマイズ機能** P.109

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

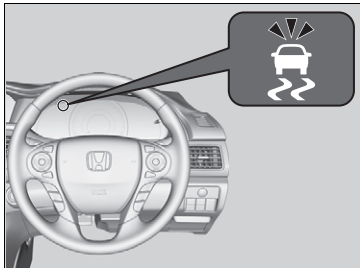
VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 P.275

■TCS(トラクションコントロールシステム)機能
滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■横滑り抑制機能
急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。
さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。
電子制御ブレーキアシスト P.276

■ VSA の作動と警告灯



TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

次ページに続く

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

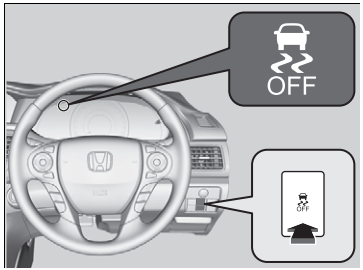
VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。
- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

新雪やぬかるみから脱出したいときに、VSA OFF で VSA を OFF にすると TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。

新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON にしてください。
VSA を OFF にしたままでの走行は、お勧めしません。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。
通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■ VSA OFF スイッチ



VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。
TCS機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。
再度使用(ON)するには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

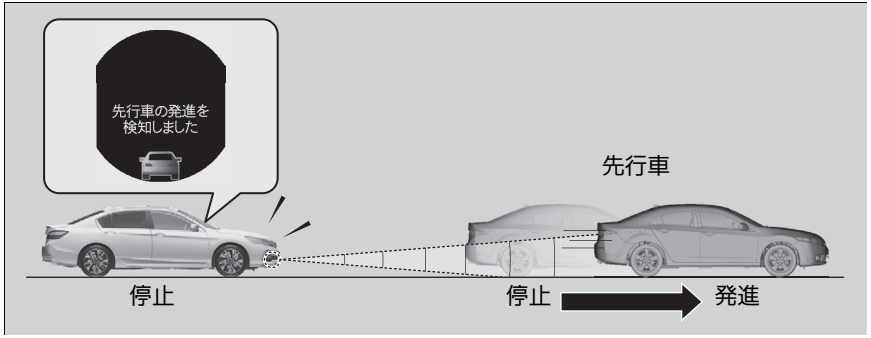
VSA(ビークルスタビリティアシスト)

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的にONになります。

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

先行車発進お知らせ機能

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



■システムの作動条件

先行車に続いて停車(停止状態での車間距離が約10m以内、かつ自車・先行車がしばらく停止)すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

■シフトポジションがDの場合

ブレーキペダルを踏んでいるまたはオートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している。

次ページに続く

▨先行車発進お知らせ機能

⚠警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

他の運転支援システムと同様に、先行車発進お知らせ機能は、天候や環境などによって機能しないことがあります。

先行車発進お知らせ機能を OFF にすることができます。

➔ **カスタマイズ機能** P.109

渋滞追従機能付ＡＣＣ警告灯が点灯しているときは、先行車発進お知らせ機能は作動しません。

➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.216

■シフトポジションがNの場合

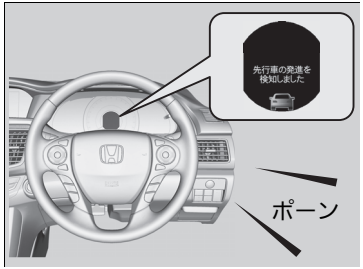
ブレーキペダルを踏んでいるまたはパーキングブレーキが作動しているまたは
オートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している。

システムの作動タイミングを標準・早めの2段階から選択することができます。

➔ **カスタマイズ機能** P.109

標準は先行車が停止状態から約 3m 以上進んだときに作動します。
早めは先行車の発進を検知したときに作動します。

■システムの作動状態



システムが作動すると、「ポーン」とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- フロントバンパーが汚れているとき
- 自車の停車している時間が短いとき

■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

次ページに続く

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■先行車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき

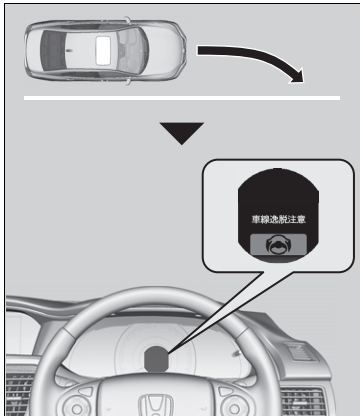
■その他、レーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能はシステムが車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

■システムの作動



このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線または黄色線を検知し、方向指示器(ウィンカー)を使用せずに白線(黄線)を逸脱したことを判断したとき、作動します。
マルチインフォメーションディスプレイにより警告を行うとともに、ハンドルを短時間振動させることで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。
また逸脱を回避するのに大きくハンドル操作が必要なときは、ハンドル操作の支援とともにブレーキ操作の支援も行います。
ブレーキ操作の支援は、検知した線が実線のときのみ行われます。

次ページに続く

▶路外逸脱抑制機能

⚠警告

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

路外逸脱抑制機能は、方向指示器(ウィンカー)を使用しない車線逸脱を検知した時に警告します。
車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。また、天候、速度や路面状況によっては、支援できない場合があります。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.214



システムの支援中に運転者が操作した場合は運転者の操作を優先します。
支援中に運転者が操作しなかった場合は左記の警告を表示します。

■システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき、作動します。

- 車速が約 60 ～ 100km/h で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)が OFF のとき
- ワイパーが連続で作動していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

≫路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能は、正常に作動しないことがあります。

➡ **路外逸脱抑制機能の条件と制限** P.258

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

繰り返し左記の警告が表示されても、運転者の操作がない場合は、警報音が鳴り支援を中断します。

≫システムの作動条件

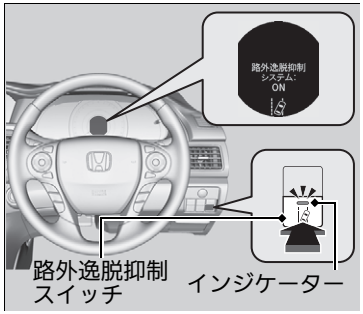
路外逸脱抑制機能は自動的に OFF になり、 路外逸脱抑制機能警告灯が点灯する場合があります。

➡ **警告灯** P.61

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- 車線内を走行していないとき
- カーブ内側に、はみ出して走行してしまっているとき
- 車線幅が狭いとき

■システムの ON と OFF



路外逸脱抑制スイッチを押して、システムの ON と OFF を切り替えてください。
▶システムがONのときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

≫システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用してシステムの設定をカスタマイズすることができます。
カスタマイズ機能で「操舵アシストなし　警報のみ」を選択した場合、システムはハンドル及びブレーキ制御を行いません。
➔ **カスタマイズ機能** P.109

次ページに続く

■路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 天候(雨、霧、雪など)により、白線(黄線)が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき
- ガードレールなどの影が、道路上に映っているとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき

次ページに続く

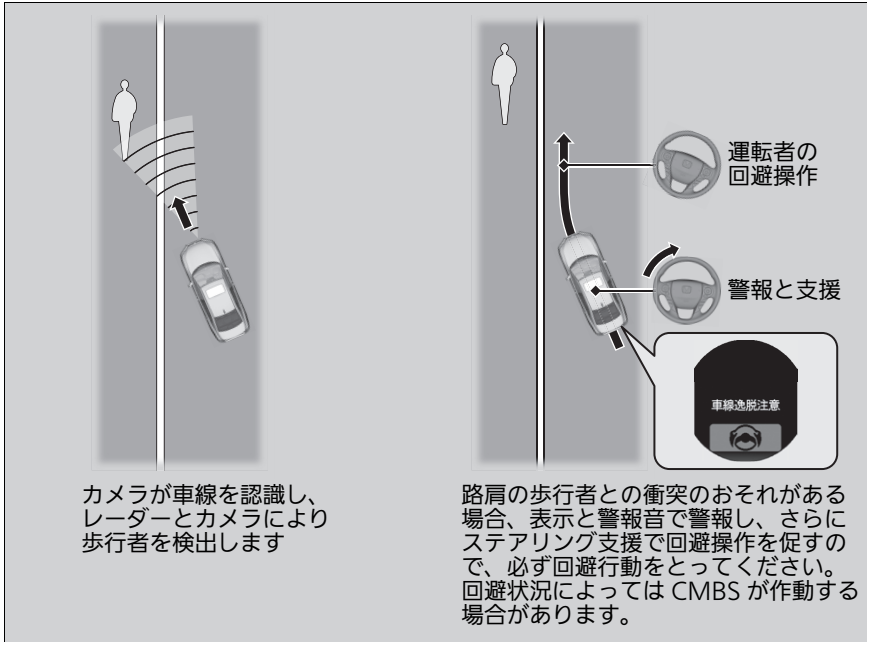
■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき

歩行者事故低減ステアリング

レーダーとカメラにより歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

■システムの作動



カメラが車線を認識し、
レーダーとカメラにより
歩行者を検出します

路肩の歩行者との衝突のおそれがある場合、表示と警報音で警報し、さらにステアリング支援で回避操作を促すので、必ず回避行動をとってください。
回避状況によっては CMBS が作動する場合があります。

次ページに続く

▶歩行者事故低減ステアリング

⚠警告

歩行者事故低減ステアリング機能は、運転者の運転操作を支援するシステムです。
あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

車線内を走行していないときは、歩行者事故低減ステアリング機能は作動しません。

■システムの作動条件

歩行者事故低減ステアリングは以下の状態で作動します。

- 歩行者が路肩を歩行しているときに、車両がその歩行者に向かって車線から逸脱していくとき
- 実線の白線(黄線)が連続しているとき
- 車速が約 10 ～ 40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき

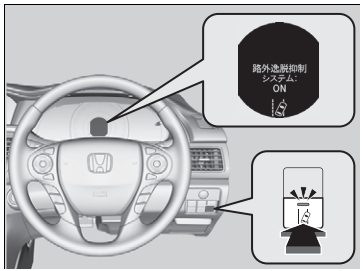
歩行者事故低減ステアリングは以下の状態では作動しません。

- ワイパーを連続で作動させているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を出しているとき

システムの作動条件

運転者による操作が行われているときには支援が感じられないことがあります。

■システムの ON と OFF



歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。
路外逸脱抑制スイッチを押して、歩行者事故低減ステアリングの ON と OFF を切り替えてください。

▶ ON のときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用し、路外逸脱抑制機能の設定をカスタマイズすることができます。
カスタマイズ機能で「操舵アシストなし　警報のみ」を選択した場合、歩行者事故低減ステアリングはステアリング制御を行いません。

カスタマイズ機能 P.109

■歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。
運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 天候(雨、霧、雪など)により、白線(黄線)や歩行者が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- トンネルの出入り口など、周辺の明るさが急に変わるとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき
- ガードレールなどの影が、道路上に映っているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

次ページに続く

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやステアリングを操作したとき
- フロントバンパーが汚れているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき

■歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 自車の前方に歩行者が飛び出すなど、歩行者が急に見え始めたとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物等によりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

次ページに続く

■その他、作動できない事例

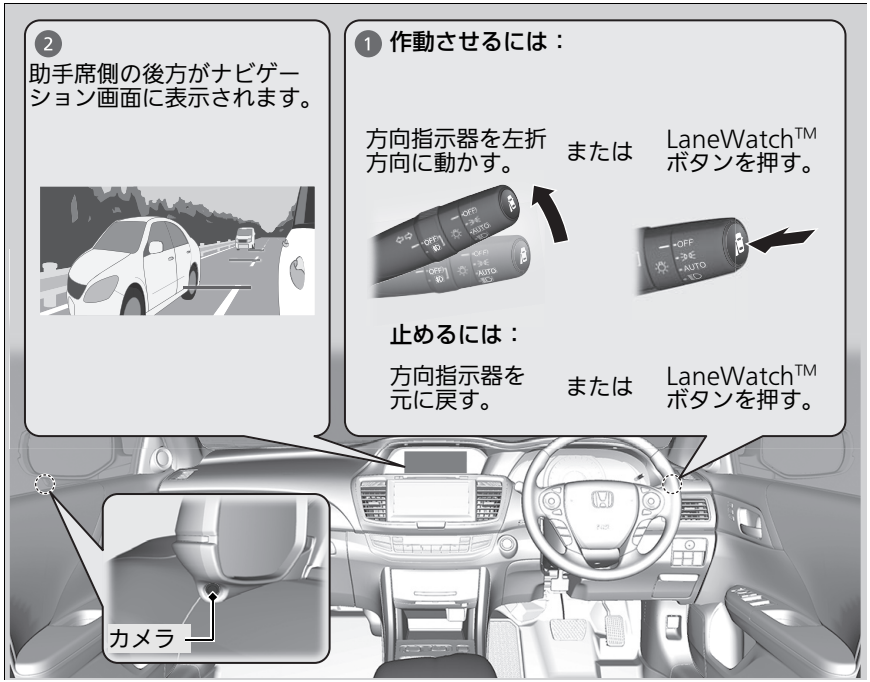
- 急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき

歩行者事故低減ステアリングシステムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- フロントバンパーは常にきれいにしておく
- フロントバンパーのお手入れにベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わない
- フロントバンパーにステッカーを貼らない
- フロントバンパーを交換しない

LaneWatch™

LaneWatch™は、助手席側の後方確認を支援するシステムです。LaneWatch™は助手席側のドアミラーに装備されたカメラの映像を表示することで、ドアミラーで見える範囲に加えて、ドアミラーでは見えない死角を含めた広い範囲を一目で確認することができます。
また、ナビゲーション画面に表示するため、前方から大きく視線を外さずに後方を確認することができます。
LaneWatch™は方向指示器を助手席側に操作したときに連動してナビゲーション画面に表示します。また、常に表示したい場合はLaneWatch™ボタンを押すことで続けて表示することもできます。



次ページに続く

LaneWatch™

⚠警告

LaneWatch™ は、あくまでも運転をアシストするための補助システムです。
助手席側の後方を目視確認(あるいはミラー等による確認)を行う等の、十分な確認をせずに走行すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

使用上の注意：

LaneWatch™ は天候、照明(ヘッドライト、太陽光を含む)、周囲の暗闇、カメラ状態および積載荷重の影響を受けることがあります。
LaneWatch™ カメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に表示される映像と実物とは異なります。
シフトポジションがRのときは、LaneWatch™は作動しません。
以下のような場合、LaneWatch™の映像が適切に表示されない場合があります。

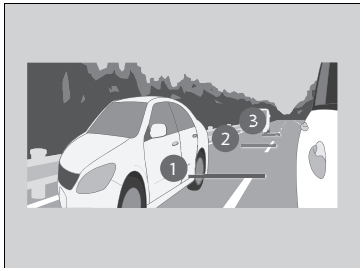
- サスペンションを改造し、車高を変えたとき
- タイヤが指定空気圧に調節されていないとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤを装着しているとき

■カスタマイズ設定

ナビゲーション画面を使用して以下の項目をカスタマイズすることができます。

- **助手席ウインカー連動表示：**方向指示器を操作時に、LaneWatch™を起動するか選択できます。
- **ウインカー切後の継続表示：**方向指示器を戻した後に、2秒間画面表示を継続するか選択できます。
- **目安ガイド線の表示：**距離の目安となるガイド線をモニターに表示するか選択できます。

■距離の目安



画面に表示される3本のガイド線は、自車から車両やものがどのくらい離れているかの目安になります。
ガイド線 1(赤)に近ければ近いほど自車に近いことを示しています。

LaneWatch™

使用上の注意：

- カメラは助手席側のドアミラーに装備されています。常にカメラの周辺をきれいにしてください。カメラのレンズが汚れや湿気に覆われているときは、柔らかい湿った布を使用して掃除し、常にきれいな状態にしてください。
- ラベルやシールでカメラレンズをふさがないでください。
- カメラのレンズに触れないでください。

距離の目安

ガイド線1(赤)の周辺は、リヤバンパー付近に非常に近い位置です。車線変更の前には目視で安全を確認してください。
ガイド線 1、2 と 3 の間の距離は、道路状況や車両の荷重に応じて変化します。例えば、自車後部により荷重がかかっているとき、画面上のガイド線は実際の距離よりも近くに見えることがあります。

下記のような場合、Honda 販売店で点検を受けてください。

- 助手席側のドアミラー、又はその周囲に強い衝撃を受けてカメラの角度が変わった場合。
- LaneWatch™ の映像が画面に全く表示されない場合。

高電圧バッテリーの特性

長期間駐車をすると、高電圧バッテリーは少しずつ放電をします。
バッテリーの性能を維持するために、少なくとも 3ヶ月に一度、30 分以上走行をしてください。走行によりバッテリーに充電されます。
長期間走行をしないと、高電圧バッテリー充電容量が低下したり、寿命が縮む原因となります。
バッテリーの寿命を長くするために、夏場は日陰への駐車をおすすめします。

高電圧バッテリーの特性

高電圧バッテリーが放電しすぎないように注意をしてください。
充電量が0の状態で長期間放置されるとエンジンが始動できなくなるおそれがあります。

ブレーキシステム

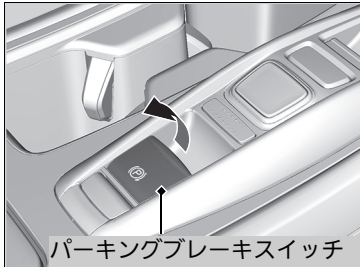
■電子制御パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。自動での解除および手動での操作ができます。

■手動で操作するとき

パーキングブレーキスイッチの操作で、パーキングブレーキをかけたり解除したりできます。

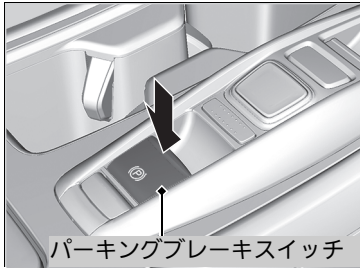
急な下り坂の発進時などに、手動でパーキングブレーキを解除すると、スムーズな発進を行うことができます。



■手動でパーキングブレーキをかける

パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げてください。

▶パーキングブレーキが作動すると、電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が点灯します。



■手動でパーキングブレーキを解除する

1. パワーモードがONモードのときに、右足でブレーキペダルをしっかりと踏む。
2. パーキングブレーキスイッチを押す。

▶パーキングブレーキが解除され、電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が消灯します。

▨ブレーキシステム

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキ装置の作動のため、モータールームからモーター音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

▨電子制御パーキングブレーキ

パーキングブレーキをかけたり解除したときに作動音が聞こえます。
これはブレーキシステムが作動している音で異常ではありません。

パーキングブレーキをかけたり、解除するとブレーキペダルが動くことがあります。
これはブレーキシステムの作動によるもので異常ではありません。

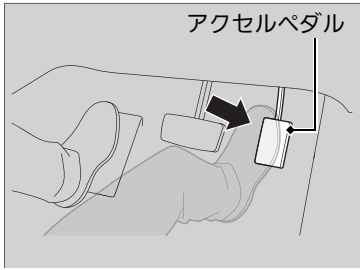
12V バッテリーがあがっているときは、パーキングブレーキをかけたり、解除することはできません。
➔ ジャンプスタート P.346

走行中にパーキングブレーキスイッチを引き続けると、その間はパーキングブレーキがかかります。

10 分以上渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で停車していると、自動でパーキングブレーキがかかります。

■自動解除するとき

アクセルペダルの操作とパーキングブレーキの解除が連動します。
渋滞や上り坂での発進に便利です。



アクセルペダルをゆっくりと踏んでください。

▶パーキングブレーキが解除され、電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が消灯します。

パーキングブレーキの自動解除は、次の条件が揃ったときに行えます。

- 運転席シートベルトを着用しているとき
- パワーシステムが起動しているとき
- シフトポジションが[P]、[N]以外のとき

»電子制御パーキングブレーキ

渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でシートベルトを外したとき、自動でパーキングブレーキがかかります。

渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でパワーモードを OFF モードにしたとき、自動でパーキングブレーキがかかります。

パーキングブレーキを自動で解除できないときは、手動で解除してください。

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できません。

- PGM-FI 警告灯
- トランスミッション警告灯

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できないことがあります。

- 電子制御パーキングブレーキシステム警告灯
- VSA 警告灯
- ABS 警告灯
- エアバッグシステム警告灯

次ページに続く

■オートマチックブレーキホールド

停車中に、ブレーキペダルを踏み続けなくても、自動的にブレーキを保持する機能です。保持中にアクセルペダルを操作すると、自動でブレーキが解除され発進することができます。信号待ちなどの一時的に停止したいときの使用に適しています。

■機能を ON させるには

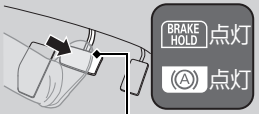


オートマチックブレーキホールドスイッチ

シートベルトを着用し、パワーシステムを起動してからオートマチックブレーキホールドスイッチを押す。

- オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が点灯し、機能が ON になります。

■ブレーキを保持させるには

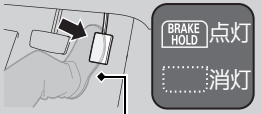


ブレーキペダル

シフトポジションが P R 以外のときにブレーキペダルを踏んで停車する。

- オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯し、自動でブレーキが 10 分間保持されます。
- オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯後、ブレーキペダルから足を離してください。

■車両を発進させるには



アクセルペダル

シフトポジションが P N 以外のときにアクセルペダルを踏むと機能が解除し、発進します。

- オートマチックブレーキホールド表示灯が消灯し、自動でブレーキが解除されます。

▶オートマチックブレーキホールド

⚠警告

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、ブレーキペダルから足を離さない。

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、オートマチックブレーキホールドが作動していても、ブレーキペダルから足を離したときに車が動くことがあります。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

駐車をする目的でオートマチックブレーキホールドを作動させない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

オートマチックブレーキホールドシステム作動中は絶対に車から離れないでください。駐車する際はシフトポジションを P にしてパーキングブレーキをかけてください。

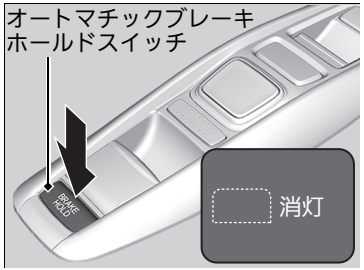
■オートマチックブレーキホールドが自動的に解除されるとき

- シフトポジションが P もしくは R で、ブレーキペダルを踏んでいるとき
- パーキングブレーキスイッチを引いたとき

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動した後、オートマチックブレーキホールドシステムによるブレーキ保持が解除されます。

- 10 分以上ブレーキを保持したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- オートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したとき

■機能を OFF させるには



機能が ON のときにオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

▶オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が消灯します。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯中にOFFにしたいときは、ブレーキペダルを踏みながらオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

オートマチックブレーキホールド

⚠警告

オートマチックブレーキホールドを使用する際は、オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯するまでブレーキペダルから足を離さない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯した後にブレーキペダルから足を離してください。

システムが作動していても通常と同じ手順でパワーシステムの停止が行えます。

➔駐停車操作 P.287

パワーシステムを停止すると、システムは自動的に OFF になります。

自動洗車機を使用するときは、システムが OFF になっていることを確認してください。

ブレーキ保持中にタイヤの回転を検知すると、ブレーキ力を強めるために作動音が発生する場合があります。

次ページに続く

■フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

➔ **電子制御ブレーキアシスト** P.276

ブレーキのロックを防止する ABS(アンチロックブレーキシステム)で、安全性の向上を図っています。

➔ **ABS(アンチロックブレーキシステム)** P.275

フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。

Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。そのため、長い下り坂などでは回生ブレーキを使用します。

アクセルペダルから足を離し、減速セレクターを使用すると、回生ブレーキの強さが調整できます。

➔ **減速セレクター** P.204

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

なお、低速(車速約 10km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

パワーモードを ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

≫ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。
ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。

ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、過信せず安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

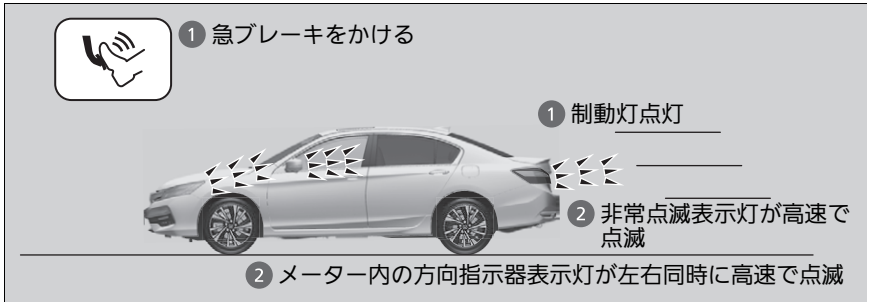
ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

➔ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.249

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60ｋm/ｈ以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。

■作動のしくみ



エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ハザードスイッチがONのときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。

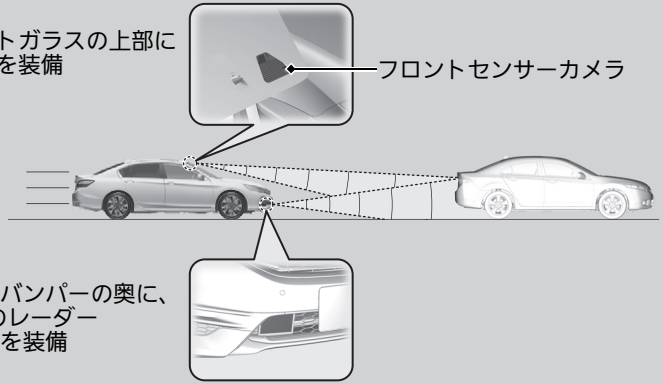
ABS が一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるときおよび歩行者に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝撃を軽減するシステムです。

■システムの作動

自車の車速が約 5km/h 以上になるとレーダーセンサーとカメラが前方の車両や歩行者の検知を開始。



自車との速度差が約 5km/h 以上ある車両および歩行者に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
対向車および歩行者に対しては、自車が約 80km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
さらに、約 30 ～ 80km/h で走行中に対向車に対して CMBS が作動する状況では、ステアリング振動による警告も作動します。
CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれがなくなったと判断した後に、自動ブレーキは解除されます。

▶衝突軽減ブレーキ(CMBS)

⚠警告

衝突軽減ブレーキ(CMBS)は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。レーダーやカメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

次のような場合、レーダーセンサーやカメラが車両、歩行者や路面状況を検知できず、CMBS が正常に作動しない場合があります。

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントバンパーが汚れているとき
- フロントガラスの曇り、雨粒、シールなどでカメラ前方が覆われているとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 逆光のとき
- 強い光が車両や歩行者、路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 路面に水溜りや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路などわだちのある道路のとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両や歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき

次ページに続く

■前方の車両や対向車、歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

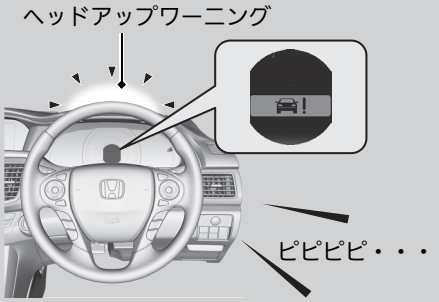
- 前方の車両や歩行者との距離が極端に短いとき
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 自車の前方に対向車や歩行者が飛び出したとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき
- 暗がりで前方の車両が無灯火のとき

■その他、作動できない事例

- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやハンドルを操作したとき
- 急加速やハンドル操作をしながら、前方の車両や対向車、歩行者に接近したとき
- 前方の車両や対向車、歩行者が自車の正面にいないとき
- 前方の車両や歩行者との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき
- 交差点などで自車の前方に車両が飛び出したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき

■CMBS の警告のしかた

以下の方法により、CMBS は衝突のおそれがあることを、運転者に知らせます。
- マルチインフォメーションディスプレイの警告やヘッドアップワーニングでの視覚への警告表示や警告ブザーに加え、ステアリング振動による警告が発生します



CMBS の警報距離を Far・Normal・Near の 3 段階から選択することができます。

➡ **カスタマイズ機能** P.109

Far は Normal に対して遠くで警告します。Near は Normal に対して近くで警告します。

■ステアリング振動による警告について

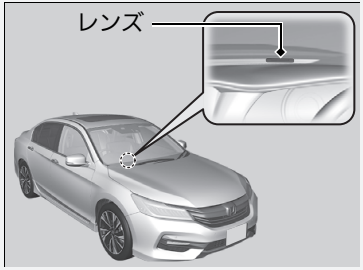
対向車に対して衝突のおそれがあるときは、視覚への警告に加え、ハンドルに短時間の弱い振動を発生させて運転者に注意を喚起します。

▶ ブレーキやハンドルを操作するなどの適切な行動で衝突を回避してください。

⊠衝突軽減ブレーキ(CMBS)

ヘッドアップワーニングのレンズは、ダッシュボード前方にあります。

レンズを物でふさいだり、液体をこぼしたりしないでください。



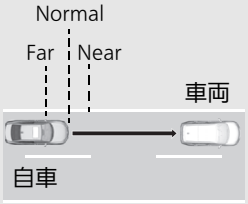
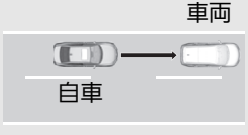
EPS 警告灯が点灯しているときは、ステアリング振動による警告は作動しません。

➡ **EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯** P.69

次ページに続く

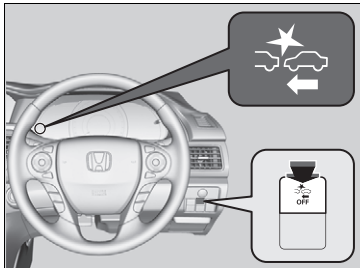
■ CMBS 作動の流れ

CMBSの作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

車両と自車の距離		状況	ブザーと表示による警告	ステアリング	ブレーキ
第 1 段階		車両への衝突のおそれがでてきた状況	ヘッドアップワーニングと警告表示が 2 回点滅する さらに接近するとヘッドアップワーニング、警告表示およびブザーによる警報を行う ▶ 衝突警報距離を変更することができます。 ➲ **カスタマイズ機能** P.109	• 対向車の場合、ハンドルに短時間の弱い振動を発生	—
第 2 段階		衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況	ヘッドアップワーニング、警告表示およびブザーによる警報を行う	—	軽いブレーキ
第 3 段階		回避が困難な状況			強いブレーキ

※：CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します

■ CMBS の ON と OFF



CMBS OFF スイッチを「ピーッ」とブザーが鳴るまで押すことで、システムの ON と OFF を切り換えます。

CMBS が OFF に切り換わったとき CMBS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに CMBS OFF とメッセージが表示されます。

CMBS を OFF にした状態でパワーシステムを停止すると、再起動時に CMBS は OFF となっています。

⊠衝突軽減ブレーキ（CMBS）

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候になったとき
- カメラの温度が高温になっているとき
- フロントバンパーまたはフロントガラスがほこり、泥、落ち葉、湿った雪などで覆われているとき
- タイヤの異常を検出したとき

CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

パワーモードを ON モードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードを ON モードにすると、CMBS が作動しない場合があります。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

次ページに続く

■衝突の可能性のない場合の作動について

衝突の可能性がなくても、以下のとき、CMBS が作動することがあります。

- 左折、または右折している前方車両がいるとき
- 追い越し時に前方の車両や交差点などで対向車に接近して走行するとき
- 低いゲートや狭いゲートなどの間を規制速度を越えるような速度で通過しようとするとき
- 段差のある道路、線路、工事の鉄板などの上を走行するとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどがあるとき
- カーブ走行などで自車の正面に対向車がいるとき
- 駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき

▶衝突軽減ブレーキ（CMBS）

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- フロントバンパーは常にきれいにしておく
- フロントバンパーのお手入れにベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わない
- フロントバンパーにステッカーを貼らない
- フロントバンパーを交換しない

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **フロントセンサーカメラ** P.214

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- レーダーセンサーおよびカメラに衝撃が加わったとき
- フロントバンパーやカメラ周辺の修理を行うとき

サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

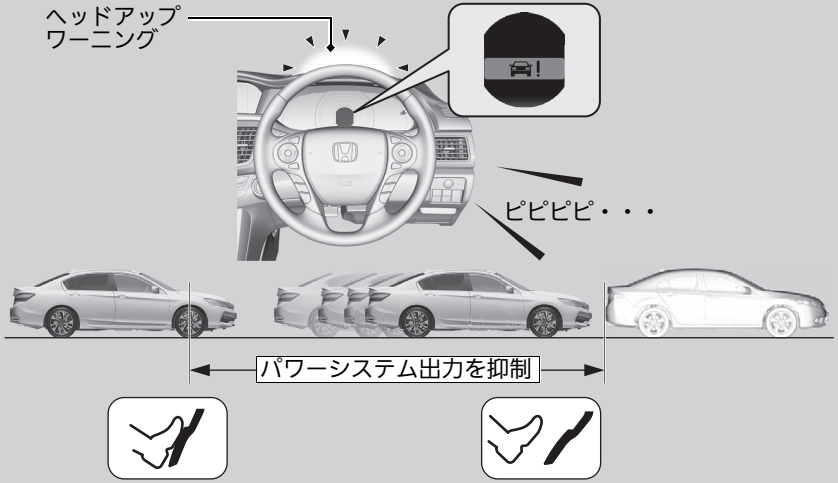
タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

■誤発進抑制機能

停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、パワーシステム出力を抑制し、急な発進を防止して衝突時の衝撃を軽減する機能です。
なお、急な坂道やシフトポジションが P、R、N のときは、作動しません。

作動状態

機能作動中はブザー（ピピピ）がなり、マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップワーニングの警告が点滅します。



誤発進抑制機能

⚠警告

あらゆる状況でアクセルペダルの踏み過ぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。

運転者が常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

誤発進抑制機能は、CMBS と同じセンサーを使用しています。CMBS を OFF にしているときは、誤発進抑制機能は作動しません。また、誤発進抑制機能を正常に作動させるために守ること、正常な作動ができない状況、衝突の可能性のない場合の作動やレーダーセンサーの取り扱いなどは、CMBS と同じです。

踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することがあります。そのときは、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、CMBS を OFF にして遮断機を押しのけてください。

次ページに続く

■作動解除の条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- ハンドルを操作して、衝突を避けようとしたとき

駐車する

1. シフトポジションは D のまま、ブレーキペダルをしっかり踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
3. パーキングスイッチを押す。
4. パワーシステムを停止する。
▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車するときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。

次ページに続く

⚠注意

駐車時はパワーシステムを停止する。
万一、シフトポジションが P N 以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で P N 以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

車が完全に止まらないうちに P に入れないでください。
トランスミッション破損の原因となります。

枯草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

仮眠するときは、パワーシステムを停止してください。
▶ 無意識にシフトポジションを操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐車する

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

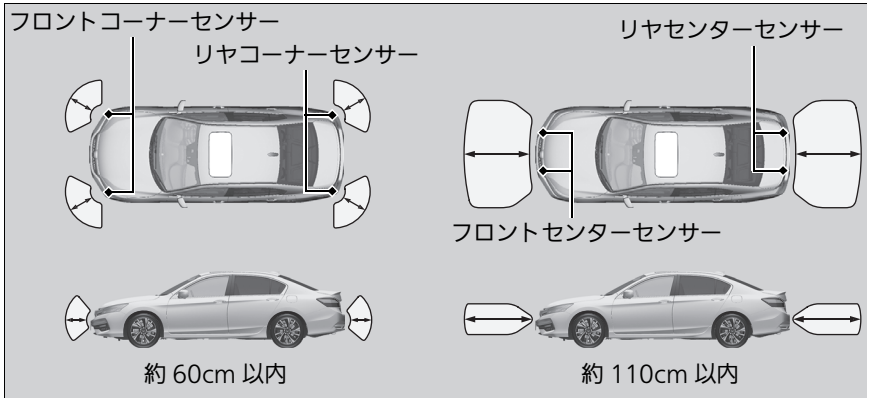
車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。
車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。
輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

パーキングセンサーシステム

車両前方のフロントセンターセンサーおよびフロントコーナーセンサーと車両後方のリヤセンターセンサーおよびリヤコーナーセンサーが障害物を検知し、障害物と車両の距離をブザーとオーディオインフォメーション画面で知らせます。

■パーキングセンサーの取付位置と検知範囲



パーキングセンサーシステム

駐車する前に車両の廻りに障害物がないことを確認してください。

次のようなときは、システムが正常に働かないことがあります。

- センサーが雪、氷、泥などで覆われているとき
- 凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 近くに超音波を発する電子機器があるとき
- 悪天候のとき

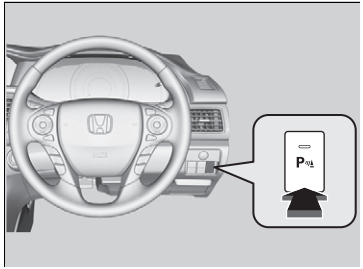
次のようなときは、システムが検知できないことがあります。

- 障害物が薄いとき、または低いとき
- 雪、布、スポンジなど吸音しやすい材質があるとき
- バンパーの真下に障害物があるとき

センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

次ページに続く

■パーキングセンサーの ON と OFF



パワーモードがONモードのときに、パーキングセンサーシステムスイッチを押して、システムの ON と OFF を切り換えます。
パーキングセンサーシステムをONにしたとき、スイッチのインジケーターが点灯します。

リヤセンサーは、シフトポジションが R で、車速が8km/h以下のとき障害物を検知します。

フロントセンサーは、シフトポジションが P 以外で、車速が8km/h以下のとき障害物を検知します。

パーキングセンサーの ON と OFF

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

■障害物を検知したときの作動状態

ブザー音の間隔	障害物との距離		インジケーター	オーディオ インフォメーション画面
	コーナーセンサー	センターセンサー		
長い	—	約 110-60cm	点滅(イエロー)※	
短い	約 60-45cm	約 60-45cm	点滅(オレンジ)	
非常に短い	約 45-35cm	約 45-35cm		
連続	約 35cm 以下	約 35cm 以下	点滅(レッド)	

※：このときは、センターセンサーのみが障害物を検知します。

次ページに続く

■リヤセンサーの OFF

1. パーキングセンサーシステムが OFF になっていることを確認する。パワーモードを OFF モードにする。
2. パーキングセンサーシステムスイッチを押しながら、パワーモードをONモードにする。
3. パーキングセンサーシステムスイッチを 10 秒間押し続け、スイッチのインジケーターが点滅したら手を離す。
▶ このときブザーが 1 回鳴ります。
4. 再度パーキングセンサーシステムスイッチを押すと、スイッチのインジケーターが消える。
▶ ブザーが 2 回鳴り、リヤセンサーが OFF になります。

リヤセンサーを再度ONにするときは、上記の手順を行ってください。センサーが ON になると、ブザーが 3 回鳴ります。

リヤセンサーの OFF

シフトポジションが R のとき、パーキングセンサーシステムスイッチのインジケーターが点滅し、リヤセンサーが OFF になっていることを知らせます。

リアカメラシステム

リアカメラの取り扱いについては、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

指定燃料について

■指定燃料

無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

■タンク容量

60 リットル

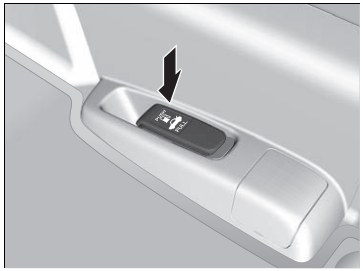
▶指定燃料について

指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

給油のしかた



1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. セレクトレバーを P にする。
3. パワーシステムを停止させる。
4. 運転席右下にあるフューエルリッドオープナーを押す。

給油のしかた

⚠警告

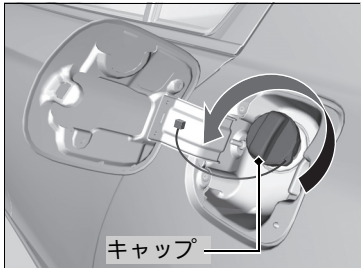
燃料補給時は火気厳禁。

燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- エンジンは常に止める
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

次ページに続く



5. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。

▩給油のしかた

⚠警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。
静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

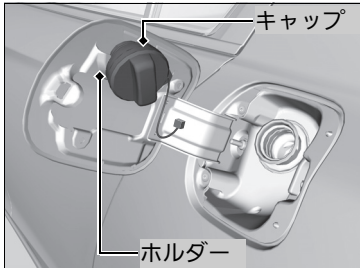
⚠注意

キャップはゆっくり開ける。
急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。
燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

燃料蒸気を吸わないでください。
燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。



6. キャップをホルダーにかける。
7. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
▶満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。
8. 給油後、「カチッ」という音が1回以上するまでキャップを締め付ける。
▶フューエルリッドは、手で押さえつけて閉めます。

給油のしかた

⚠注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。
純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。



メンテナンスの前に
- 点検整備について 299
- メンテナンスを安全に行うために 300
- メンテナンスに関する注意事項..... 300

エンジンルーム内のメンテナンス
- エンジンルーム内のメンテナンス項目...301
- ボンネットを開ける..... 302
- 推奨エンジンオイル..... 303
- ウィンドウォッシャー液の補給..... 303

電球の交換..... 304

ワイパーブレードラバーの点検と整備... 310

タイヤの点検と整備
- タイヤの点検 312
- タイヤとホイールの交換 314
- タイヤのローテーション 315
- 冬期のタイヤ 316

Honda スマートキー
- Honda スマートキーの取り扱いと電池交換..... 317

エアコンのお手入れ
- エアクリーンフィルター 319

清掃
- 日常のお手入れ..... 321
- 車内の清掃 321
- 車外の清掃 322

アクセサリーと改造
- アクセサリー 325
- 改造や部品交換について 325

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

■点検整備の種類

■日常点検
長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検
12か月および24か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他
新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

■メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する
  ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
  ▶ エンジンをかけるときは必ず十分な換気を行ってください。

■車についての安全事項

- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
  ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
  ▶ 指定されたとき以外は、パワーモードを OFF モードにして作業してください。ONモードでは、ガソリンエンジンが自動的に動きだしたり、エンジン停止中でも冷却ファンが回りだすことがあります。

メンテナンスに関する注意事項

■メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

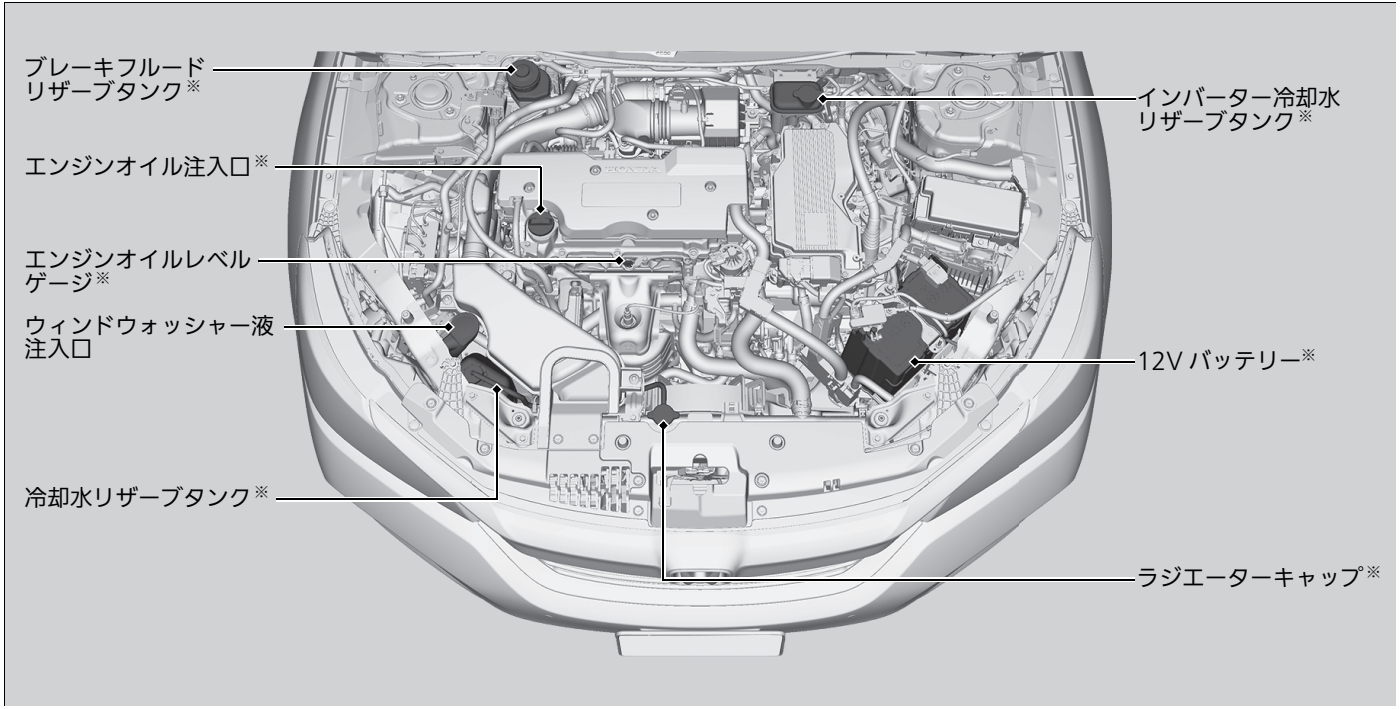
メンテナンスを安全に行うために

⚠警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。
走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
必ず、この取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

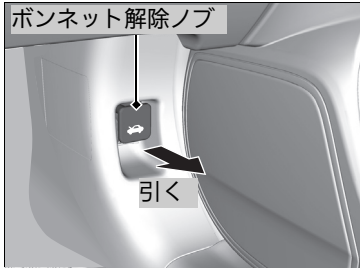
メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。
必ず、この取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

エンジンルーム内のメンテナンス項目



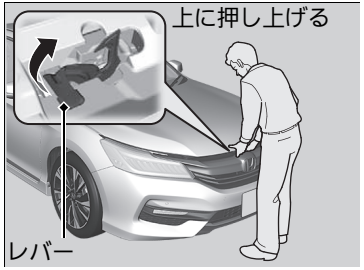
※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

ボンネットを開ける

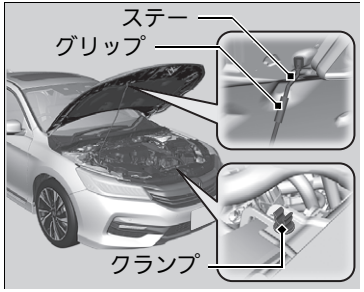


1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。

2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
▶ ボンネットが少し浮き上がります。



3. ボンネット中央のレバーを上に押し上げロック機構を解除し、ボンネットを開ける。



4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約30cm の高さから手を離します。

▶▶ボンネットを開ける

⚠注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。
ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

推奨エンジンオイル

エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながることがあります。



推奨エンジンオイル：

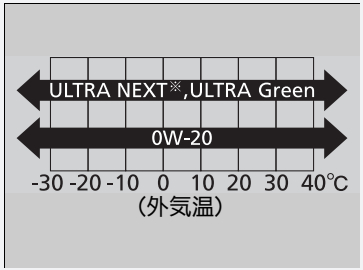
Honda 純正エンジンオイル

Honda 純正エンジンオイル P.362

API SM 級または SN 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル

推奨エンジンオイル

市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。

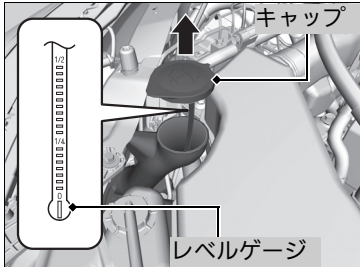


※：最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。Honda 販売店でお求めください。

冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量は、キャップに付いているウォッシャー液レベルゲージにより確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

ヘッドライト電球

ロービームヘッドライト、ハイビームヘッドライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

車幅灯電球

車幅灯は LED を使用しています。点検や交換は必ず Honda 販売店に依頼してください。

アクティブコーナリングライト電球

アクティブコーナリングライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

フォグライト電球

フォグライトはLED を使用しています。点検、交換はHonda 販売店に依頼してください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

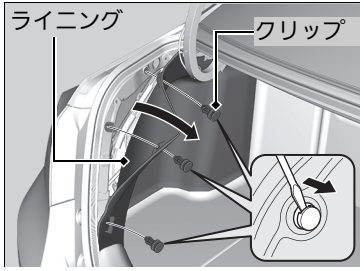
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

制動灯 / 尾灯、後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球

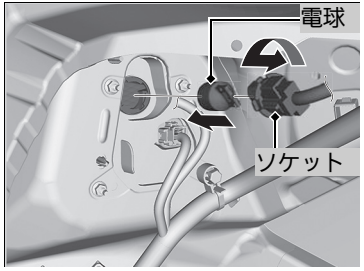
制動灯 / 尾灯はLED を使用しています。点検、交換はHonda 販売店に依頼してください。

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

制動灯 / 尾灯	: LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	: 12V−21W(橙色)



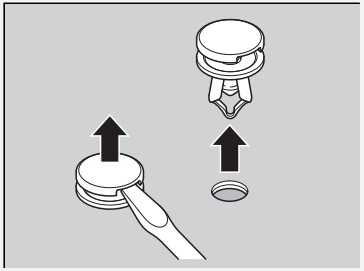
1. マイナスドライバーでトランク内のクリップを外し、ライニングをめくる。



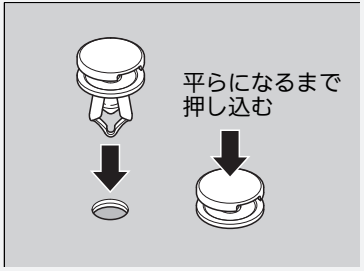
2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

制動灯 / 尾灯、後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球

クリップを外すときは、クリップの切り欠き部にマイナスドライバーを差し込んで、中央部のピンを起こして取り外します。



クリップを取り付けるときは、クリップ中央部のピンを起こしたまま差し込み、ピンを平らになるまで押してください。

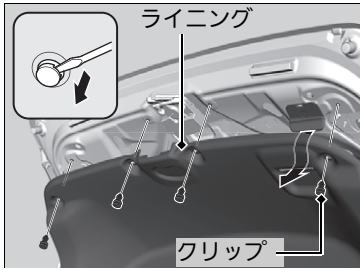


尾灯 / 後退灯電球

尾灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

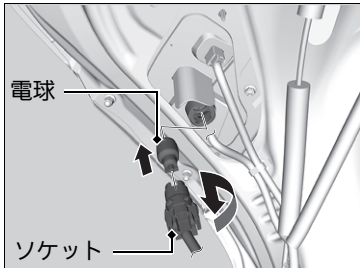
交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

尾灯	: LED
後退灯	: 12V−16W



1. マイナスドライバーでトランクリッド内側のクリップを外し、ライニングをめくる。

➔ **クリップの外しかた** P.306



2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。

3. 新しい電球を差し込む。

番号灯電球

番号灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

ハイマウントストップランプ電球

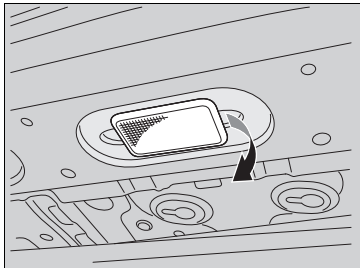
ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

その他の電球

■トランク照明灯電球

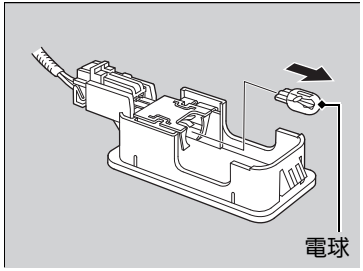
下記の電球をご使用ください。

トランク照明灯：12V−5W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。

▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



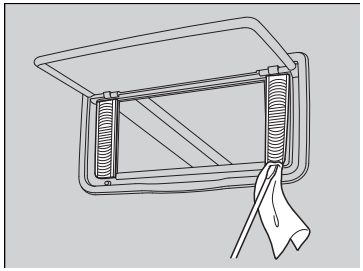
2. 古い電球を抜き取る。

3. 新しい電球を差し込む。

■バニティミラー照明灯電球

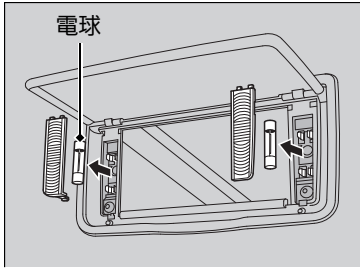
下記の電球をご使用ください。

バニティミラー照明灯：14V−1.4W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。

▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. 古い電球を抜き取る。

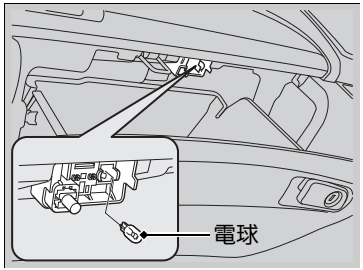
3. 新しい電球を差し込む。

■グローブボックス照明灯電球

下記の電球をご使用ください。

グローブボックス照明灯：
12V−3.4W

1. グローブボックスを開ける。



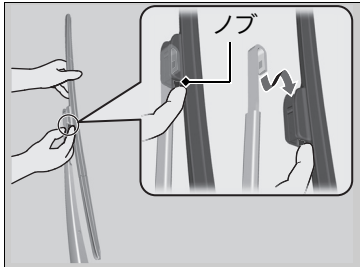
2. 古い電球を抜き取る。

3. 新しい電球を差し込む。

ワイパーブレードラバーの点検

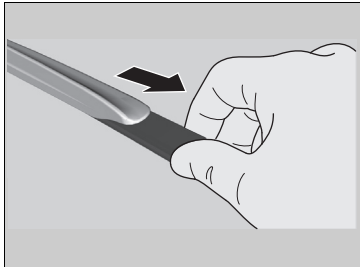
ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

ワイパーブレードラバーの交換



1. 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。

2. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。



3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

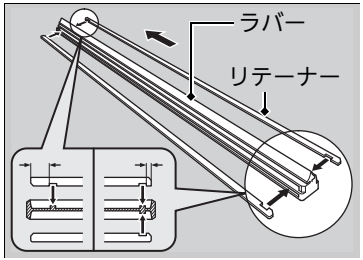
»ワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

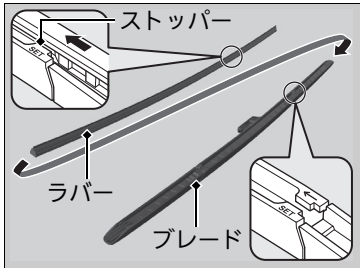
ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。



4. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。
▶ラバーの突起部とリテーナーの溝を正しく合わせてください。



5. ラバーをストッパーがない側からブレードに沿って差し込む。
▶ラバーのストッパーがブレードのツメに挿入されるまで差し込み、確実に固定します。その後、ブレードをワイパーアームに取り付けます。

ワイパーブレードラバーの交換

ワイパーアームを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。
安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
  ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
  ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

メンテナンス

≫タイヤの点検について

⚠警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。
この取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

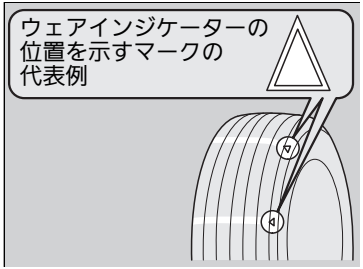
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

➡ **仕様** P.362

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
  ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
  ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



ウェアインジケーター(摩耗限界表示)

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての４つのタイヤを交換することをお奨めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

タイヤとホイールの交換

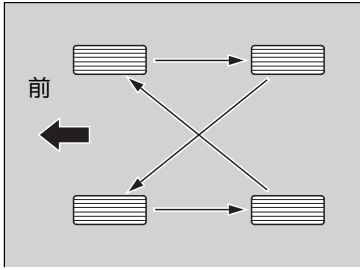
⚠警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

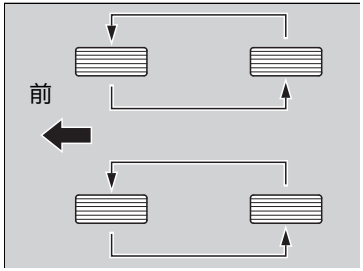
5,000km 走行したごとにタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

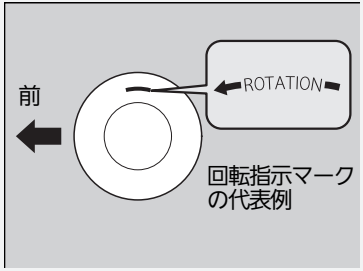
■回転指示マークがあるタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ回転指示マークがあります。
図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



締め付けトルク
108 N・m (11 kgf・m)

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。
また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。
装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

■スノータイヤ

- 四輪とも同じ種類のタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

■タイヤチェーン

- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

▶冬期のタイヤ

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。
チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは前輪に装着します。
後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以下の速度で走行してください。
なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

■取り扱いについて

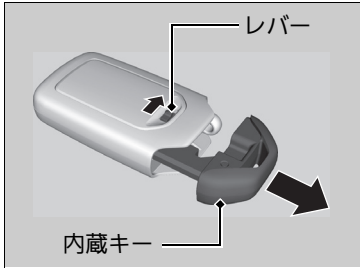
Honda スマートキーの取り扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信器を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

■電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。

■Honda スマートキー



ボタン電池 CR2032

1. レバーを引きながら、内蔵キーを取り出す。

取り扱いについて

Honda スマートキーをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

電池交換のしかた

⚠注意

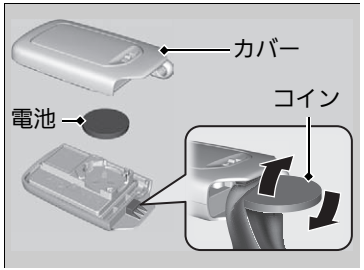
電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。
飲み込むと傷害を受けるおそれがあります。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda 販売店での交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。
確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

次ページに続く



2. カバーを外す。
- ▶ ボタンを紛失しないよう丁寧に取り外してください。
- ▶ カバーに傷が付かないように、コインに布などを巻いてカバーを取り外します。

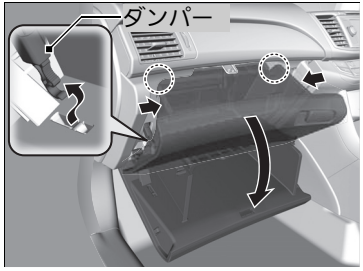
3. ⊕と⊖を間違えないよう、電池を交換する。

エアクリーンフィルター

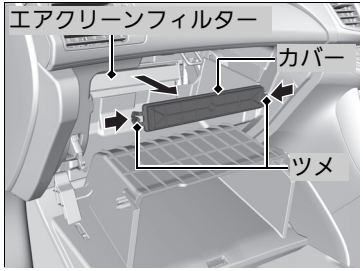
■エアクリーンフィルターの交換時期

エアクリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。
粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

■エアクリーンフィルターの交換



1. グローブボックスを開け、ダンパーを外す。
2. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。



3. 左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースのカバーを外す。

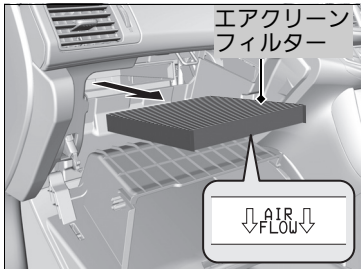
エアクリーンフィルター

芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなり、脱臭寿命が短くなることがあります。

エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

アレルフリー高性能脱臭フィルターは、空気中の花粉・粉じんを集じんし、アレルゲンを処理、排気ガス臭も低減します。

次ページに続く



4. エアクリーンフィルターを引き出す。

5. 新品と交換する。

▶「AIR　FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

日常のお手入れ

■走行後のお手入れ

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。
飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

■洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。
以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵やほこりを取り除いてから汚れを落としてください。ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

■シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

次ページに続く

洗車について

凍結防止剤を散布した道路や、海岸地帯を走行したときの洗車は、フェンダーの内側を念入りに洗ってください。

車内の清掃

室内に水をかけないでください。
オーディオやスイッチなどの電装品に水がかかると故障の原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。
ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

■本革のお手入れ

本革シートなどは、ウール用中性洗剤の 10% 水溶液を柔らかい布に軽く含ませ汚れを落とします。その後、真水を含ませた柔らかい布で洗剤分を拭き取り、風通しをよくして乾燥させます。
汚れが付着したらすぐに拭き取ってください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

車外の清掃

洗車は、十分に水をかけながら、下回り、足回りの汚れを落とします。塗装面は、屋根から順に下のほうへ水をかけながら、スポンジかセーム革のような柔らかいもので洗います。
汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い、水で完全に洗剤を落としてから水が乾かないうちに拭き取ります。

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納する
- ワイパースイッチを OFF にする

■高圧洗浄機を使うとき

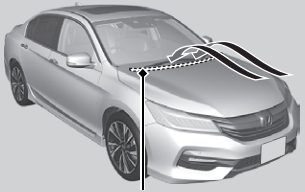
- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ウィンドーまわりは、近づけすぎると室内に水が入ることがあるため、特に注意して行う
- エンジンルームには水をかけない

» ガラスのお手入れ

リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線やアンテナ線が装着されています。
傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

» 車外の清掃

故意に空気取り入れ口や、エンジンルームに水をかけないでください。
故障の原因になります。



空気取り入れ口

■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面温度が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■はっ水ガラスについて

前席ウィンドー(ドアガラス)にはっ水膜がコーティングしてあり、水滴をはじきます。水洗いするか、柔らかい湿った布などで拭き取ってください。

ガラスクリーナーを使うと一時的に水はじきが悪くなることがありますが、水洗いをすれば元に戻ります。水はじきが悪くなったときは、Honda 販売店にご相談ください。

»ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

»バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

»ガラスのお手入れ

水滴をはじく効果の持続時間には限りがあります。長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 泥などの汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない
- 金属製のもので霜取りなどを行わない
- 自動洗車機を使うときは、先に泥などの汚れを落とす

次ページに続く

■アルミホイールのお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、スポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。

■ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。
これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。
また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■親水ミラー

雨天時の視認性向上のため、ミラー表面に付着した雨滴を膜のように広げる親水効果を持つコーティングを施しています。

■親水効果の回復

ミラー表面に汚れなどが付着して親水効果が低くなったときは、以下の手順を行うことにより効果が回復します。

1. ミラー表面を水洗いし、汚れを落とす。
2. 水を含ませたきれいな布で拭き取る。
▶ 汚れが落ちない場合は純正ガラスクリーナーや家庭用中性洗剤を使用して洗浄後、十分な水で洗い流してください。
3. 5 ～ 9 時間ほどミラー表面に太陽光を当てる。

≫アルミホイールのお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド(研磨剤)の入った洗剤などは使わない。
変色やしみの原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

≫親水ミラー

アドバイス

ミラーの親水効果が失われますので、以下の点にご注意ください。
- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
  ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
  ▶ サイドカーテンエアバッグの作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けないでください。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

≫改造や部品交換について

⚠警告

不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故につながる可能性があります。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故につながる可能性があります。

電装品の分解、改造は行わないでください。故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

⚠警告

高電圧バッテリーは、純正品の使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用した場合、過充電や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

次ページに続く

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。
装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

改造や部品交換について

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。
純正部品には下記のマークが付いています。



お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。

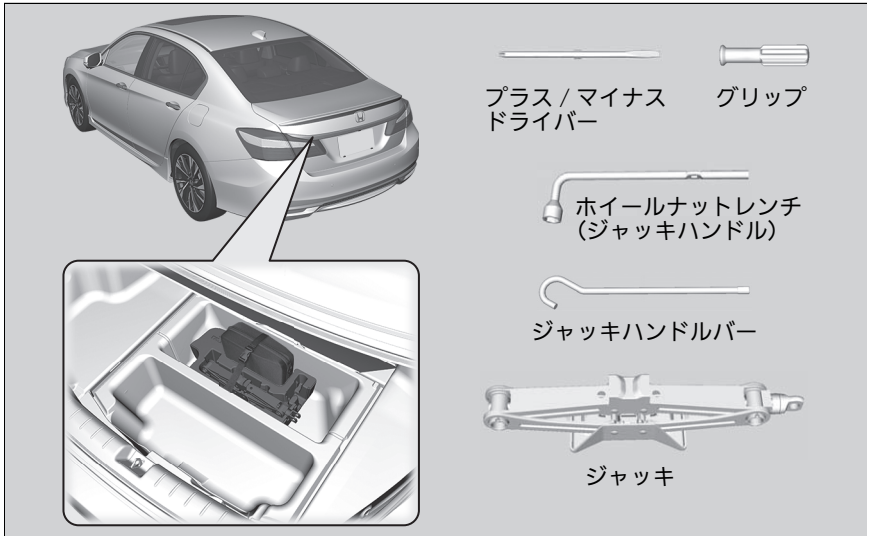


万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

工具、発炎筒.....328
パンクしたとき.....330
ジャッキの取り扱い.....340
パワーシステムが起動しない
パワーシステムの確認.....342
Honda スマートキーの電池が切れたとき.....344
緊急時のパワーシステム停止方法.....345
ジャンプスタート.....346
オーバーヒート.....348
警告灯の点灯 / 点滅.....351
ヒューズ
ヒューズの設置場所 356
ヒューズの点検と交換..... 359
けん引..... 360

工具の種類



工具の種類

ジャッキのかけかた P.340

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

発炎筒

⚠警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたタイヤの応急修理

タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。
単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

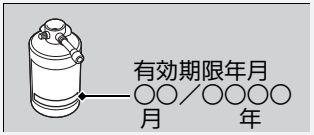
■走行中、パンクに気がついたときは

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停め、パーキングブレーキをかける。
2. シフトポジションを P にする。
3. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

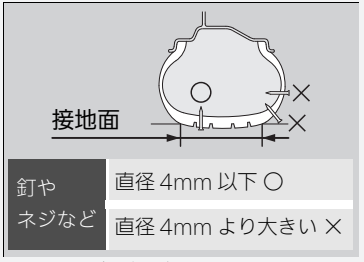
▶パンクしたタイヤの応急修理

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき



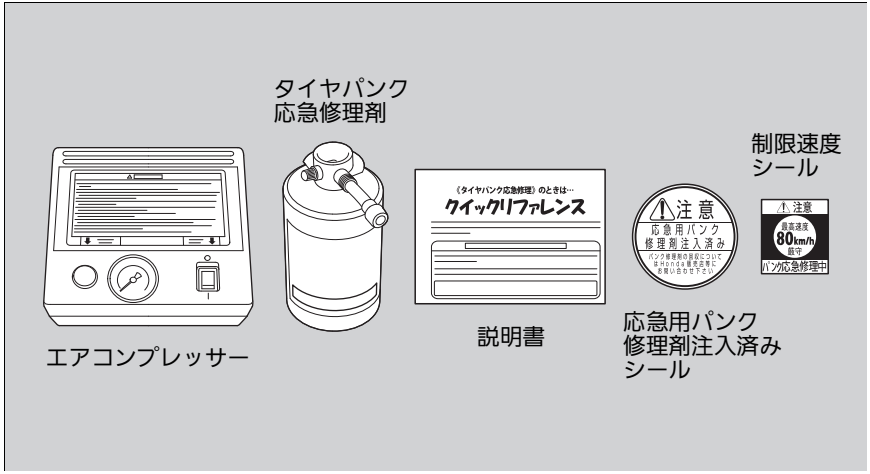
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき

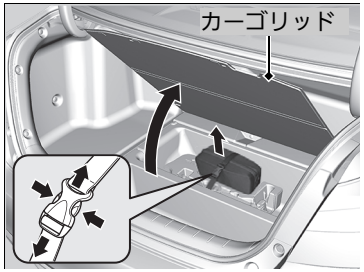


- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

■タイヤ応急修理の準備





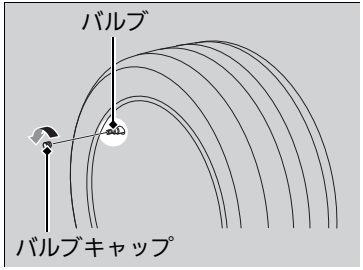
1. カーゴリッドを開ける。
2. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

タイヤ応急修理の準備

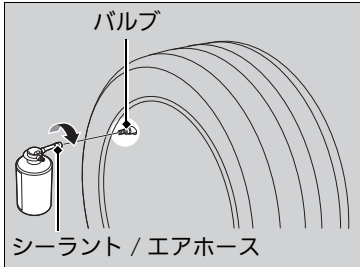
応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

次ページに続く

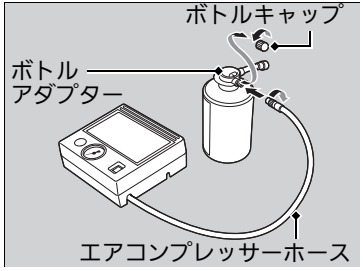
■応急修理剤とエアの注入



1. バルブからバルブキャップを取り外す。



2. 応急修理剤のボトルをよく振る。
3. タイヤのバルブにシーラント / エアホースをきつく締め付ける。
▶ シーラントがすべてタイヤに流れ込むようにボトルを垂直にする。



4. ボトルアダプターからボトルキャップを外す。
5. ボトルアダプターにエアコンプレッサーのエアホースをきつく締め付ける。

▶▶応急修理剤とエアの注入

⚠注意

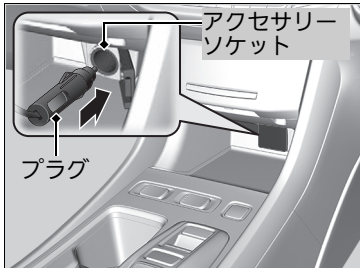
応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。
誤って飲用した場合、
- できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

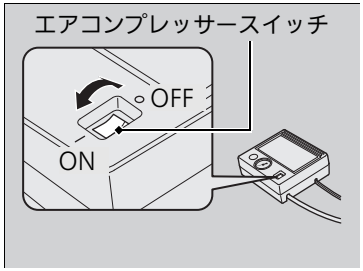
目に入ったり皮膚に付いた場合
- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。
ボトル・キャップを外した後、ボトルを振らないでください。修理剤がホースから飛び出るおそれがあります。

外気温が氷点下以下のときはシーラントは容易に流れないかもしれません。使用前に約5分間暖めてください。

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。





6. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
➔ **アクセサリーソケット** P.175

7. パワーシステムを起動する。
➔ **一酸化炭素について** P.59

8. エアコンプレッサーのスイッチを ON にする。
➔ **指定空気圧** P.362
▶ コンプレッサーはタイヤにシーラントと空気を注入し始めます。

9. 指定の空気圧に達したら、エアコンプレッサーの電源を OFF にする。
▶ エアコンプレッサーの空気圧計を確認してください。

応急修理剤とエアの注入

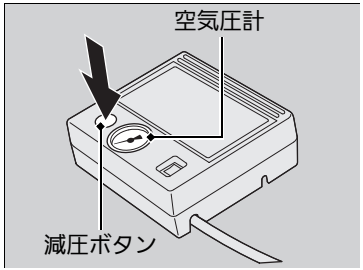
⚠警告

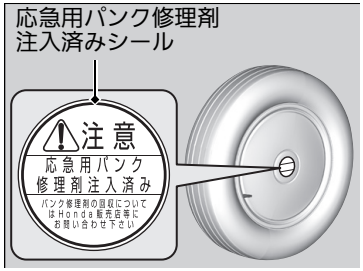
一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

アドバイス
15 分以上コンプレッサーを使用しないでください。
エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。

次ページに続く





10. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。

11. タイヤバルブからシーラント/エアホースを外しバルブキャップを取り付ける。

12. 減圧ボタンを押して、空気圧計が0kPaになるまで空気を抜く。

13. 修理が完了したタイヤに、応急用パンク修理剤注入済みシールを貼る。

▶ タイヤのホイールの平らな部分に貼ってください。

応急修理剤とエアの注入

シーラントが注入されている間、圧力は一時的に高くなります。注入が完了すると圧力は落ちますが、再度上昇します。これは正常です。

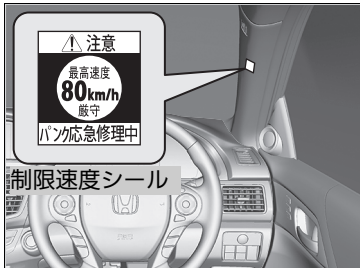
正しい空気圧を測定するためには、シーラントが注入された後にコンプレッサーの電源OFFしてください。

指定空気圧は、運転席側横の車体にある空気圧ラベルを確認してください。

10 分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。
Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については販売店にお尋ねください。

■点検走行



1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
▶法定速度を守ってください。高速道路では 80km/h 以下を厳守してください。
3. 10分または5km走行したあと安全な場所に車を停める。
4. タイヤのバルブにシーラント / エアホースをきつく締め付ける。

≫点検走行

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

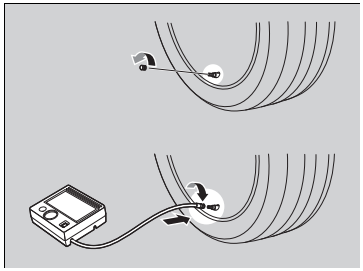
降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

⚠注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。

次ページに続く



5. エアコンプレッサーに付属の圧力計で空気圧を測定する。
▶ エアコンプレッサーの電源をON にしないでください。
6. 空気圧が 130 k Pa 未満の場合：
応急修理剤では修理できません。
運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。
- 空気圧が 225 k Pa(前輪)、220 k Pa(後輪)の場合：
応急修理は完了です。
- 空気圧が 130 kPa 以上、225 k Pa(前輪)、220 k Pa(後輪)以下の場合：
エアコンプレッサーを使って指定空気圧まで高める。
Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 5 までを繰り返す。

▶ 高速道路では 80km/h 以下で、法定速度を守って Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

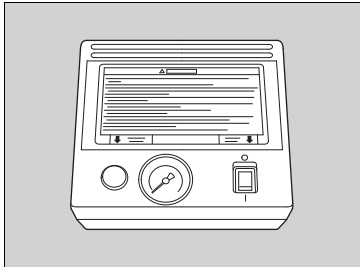
7. タイヤバルブからシーラント / エアホースを外しバルブキャップを取り付ける。
8. 減圧ボタンを押して、圧力計が 0kPa になるまでエアを抜く。
9. キットを車両に戻す。

≫点検走行

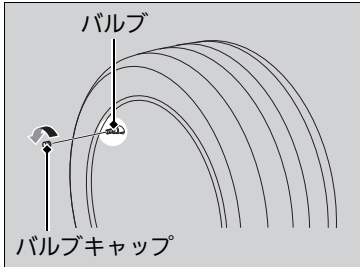
走行前に、エアコンプレッサーなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

■タイヤ空気圧の補充

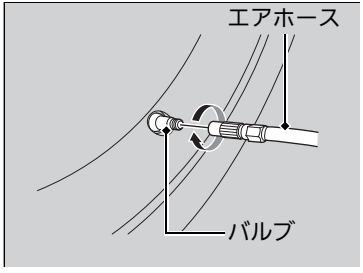
このキットを使ってパンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。



1. カーゴリッドを開ける。
2. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。



4. バルブからバルブキャップを取り外す。



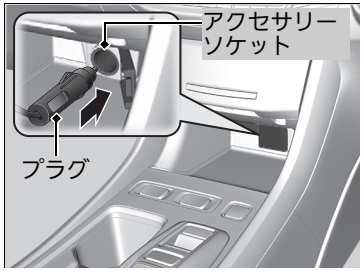
5. エアコンプレッサーのエアホースをタイヤのバルブにきつく締め付ける。

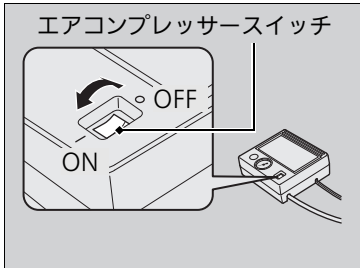
次ページに続く

⨠タイヤ空気圧の補充

アドバイス

15 分以上コンプレッサーを使用しないでください。
エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。





6. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。

▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。

➔ **アクセサリーソケット** P.175

7. パワーシステムを起動する。

➔ **一酸化炭素について** P.59

8. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、指定の空気圧まで高める。

▶ コンプレッサーはタイヤに空気を注入し始めます。

▶ もしパワーシステムを起動させたなら完了するまで停止させないでください。

タイヤ空気圧の補充

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

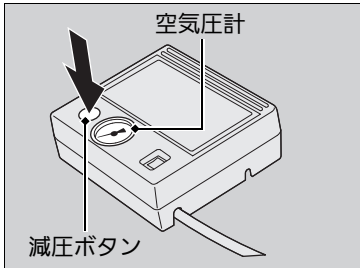
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。

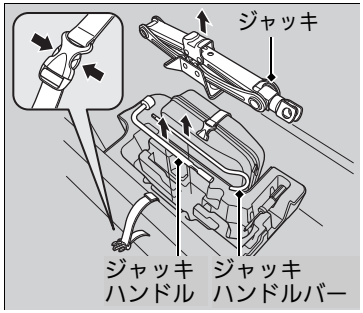
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

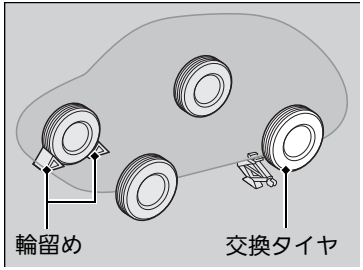
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。



9. エアコンプレッサーのスイッチを OFF します。
▶ エアコンプレッサーの空気圧計を確認してください。
▶ もし空気圧が高ければ、減圧ボタンを押して減圧します。
10. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。
11. タイヤバルブからシーラント / エアホースを外しバルブキャップを取り付ける。
12. 減圧ボタンを押して空気圧計が 0kPa になるまで空気を抜く。
13. キットを車両に戻す。

ジャッキのかけかた





1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. シフトポジションを[P]にする。
3. パーキングブレーキをかける。
4. パワーモードをOFFモードにする。
5. カーゴリッドを開けて、ジャッキ、ジャッキハンドルバー、ジャッキハンドルを取り出す。
6. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪留めをする。
7. 交換するタイヤに最も近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。

▶ジャッキのかけかた

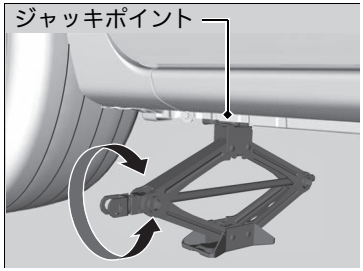
⚠警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。
車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

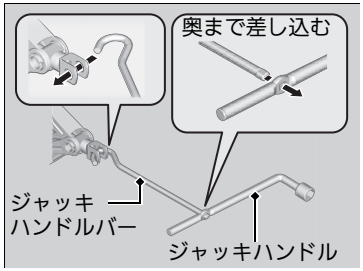
ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。
- パワーシステムを起動したままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下に物を入れたりしない

この車に搭載されているジャッキをお使いください。
このジャッキで別の車を上げたり、この車を上げるために別の車のジャッキを使用した場合、車両かジャッキが破損することがあります。



8. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。

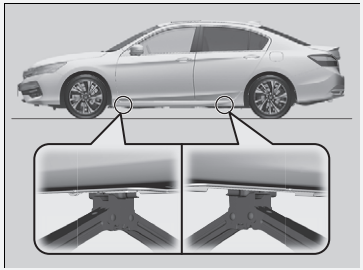
▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。



9. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

ジャッキのかけかた

ジャッキポイントは、下記の通りです。



パワーシステムの確認

READY 表示灯が点灯せず、「READY TO DRIVE」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されない場合、以下のことが考えられます。項目を確認し、適切な処置を行ってください。

パワーシステムの確認

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

ジャンプスタートの方法 P.346

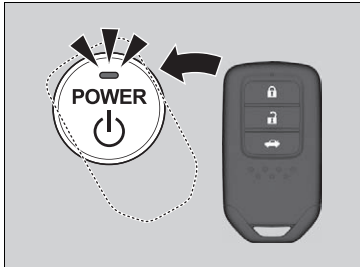
項目	状況	対処のしかた
関連した警告灯か警告メッセージが表示されるかどうかを確認する	「外気温が低いために始動できません」と表示される	**マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ** P.82
	「キーでスイッチに触れて下さい」と表示される ▶Honda スマートキーの作動範囲を確認します。 **POWER スイッチの作動範囲** P.145	**Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.344
	パワーシステム警告灯が点灯する	Honda 販売店で点検を受けてください。
室内灯の明るさを確認する	室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合	Honda 販売店で 12V バッテリーの点検を受けてください。
	室内灯などの明るさに問題がない場合	全てのヒューズを確認するか、Honda 販売店で点検を受けてください。 **ヒューズの点検と交換** P.359
シフトポジションを確認する	P または N 以外のシフトポジションが選択されている	シフトポジションを P にしてください。

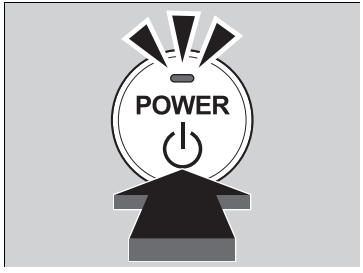
項目	状況	対処のしかた
イモビライザーシステム表示灯を確認する	イモビライザーシステム表示灯が点滅している	➔ **イモビライザーシステム** P.137
ヒューズを点検する		全てのヒューズを確認してください。 ➔ **ヒューズの点検と交換** P.359

以上の確認をしてもパワーシステムが起動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「キーでスイッチに触れて下さい」とメッセージが表示されるか、 POWER のインジケーターが点滅しているときは、READY 表示灯が点灯しません。
以下の手順でパワーシステムを起動してください。





1. POWER を押す。
▶「ピーピーピーピーピーピー」とブザーが鳴り、インジケーターが約 30 秒間点滅します。

2. インジケーターが点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
▶「ピッ」とブザーが鳴り、インジケーターが約 10 秒間点灯します。

3. インジケーターが点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、 POWER を押す。
▶ READY 表示灯が点灯します。
▶ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

緊急時のパワーシステム停止方法

POWER ボタンは走行中、緊急事態の場合にパワーシステムを停止するために使用することができます。
パワーシステムを停止しなければならない場合は、次のいずれかを行ってください。

- POWER を 2 秒間押す
- POWER を連続して 2 回押す

このとき、ハンドルロックはされていません。

パワーシステムが停止すると、パワーモードはアクセサリーモードになります。
車が停止すると、自動的にシフトポジションが P になり、パワーモードが OFF モードになります。

緊急時のパワーシステム停止方法

緊急時など必要な場合以外は、走行中に POWER を押さないでください。

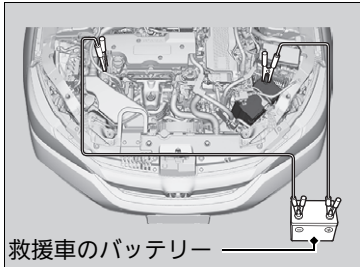
ジャンプスタートの方法

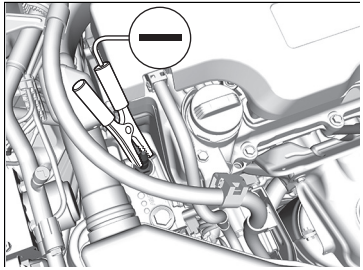
■処置のしかた

まず、ボンネットを開け、12V バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。

次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。

ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。





1. 自車と救援車のパワーシステムを停止する。

2. ブースターケーブルを、自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子に接続する。

3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。

▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。

▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。

4. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。

5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンマウントボルトに接続する。

6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。

7. 自車のパワーシステムを起動する。

≫ジャンプスタートの方法

⚠警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。

ジャンプスタートの操作を間違えると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。

タバコの火、火花、炎をバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所にバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。

バッテリー液が凍結したバッテリーでジャンプスタートすると、バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、バッテリーの性能が低下します。

エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。

ケーブルをエンジンマウントボルト以外に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。

バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

■システム起動後の作業

自車のパワーシステムが起動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンマウントボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。
5. 12V バッテリーの電圧が回復するまでアイドリングしてください。
- ▶ READY 表示灯が点灯すれば走行可能です。
- ▶ ブレーキ、ブレーキシステム、ABS、VSA の警告灯が点灯し消灯しない場合は、パワーシステムを OFF にして、再度、自車のパワーシステムを起動してください。警告灯が消灯しない場合は、異常が考えられますので、販売店で点検してください。
- ▶ パワーシステムが起動しないときは、ジャンプスタートを繰り返してください。

Honda 販売店で点検を受けてください。

システム起動後の作業

⚠警告

12V バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。
12V バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
12V バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店で 12V バッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。
バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- マルチインフォメーションディスプレイに「温度上昇のため出力が制限されます」とメッセージが表示される
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」と表示される
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■マルチインフォメーションディスプレイに「温度上昇のため出力が制限されます」とメッセージが表示されたとき

パワーシステムが高温になると、マルチインフォメーションディスプレイに「温度上昇のため出力が制限されます」とメッセージが表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.82

1. ただちに車を安全な場所に停める。

▶ パーキングスイッチを押し、パーキングブレーキをかけます。すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。

2. パワーシステムを起動したまま、警告メッセージが消えるのを待つ。

▶ 警告メッセージが消えない場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」とメッセージが表示されたとき

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。

2. すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。

▶ **蒸気が出ていない場合**：パワーシステムを起動したままボンネットを開ける。

▶ **蒸気が出ている場合**：パワーシステムを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

次ページに続く

マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」とメッセージが表示されたとき

⚠警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。
ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

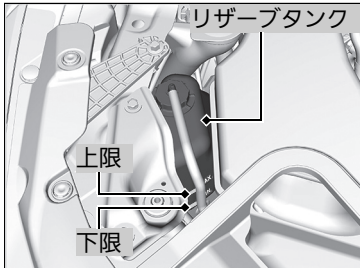
エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス

マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」とメッセージが表示された状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

■次にすること



1. 冷却ファンの作動を確認し、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」のメッセージが表示されなくなったらパワーシステムを停止する。
▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにパワーシステムを停止します。

2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
▶ 冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、パワーシステムを起動する。
「エンジン冷却水高温」のメッセージが消えた場合は、運転を再開します。消えないときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

油圧警告灯が点灯した



■点灯の理由
エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると点灯します。

■点灯したらすぐにすること
1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること
1. パワーシステムを停止し、3 分間ほど放置する。
2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。
▶ 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
3. パワーシステムを起動し、油圧警告灯を確認する。
▶ **消灯した：**運転を再開してください。
▶ **10 秒以内に消灯しない：**パワーシステムを停止して、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

12V バッテリー充電警告灯が点灯した



■点灯の理由
12V バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること
電気の消費を減らすため、エアコン、リヤデフロスターなどを OFF にして、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

油圧警告灯が点灯した

アドバイス
油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由

エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは

高速走行を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを止めて冷えるまでお待ちください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

≫PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

PGM-FI警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

エンジン再始動後再び点滅するときは、50km/h以下の速度で最寄りのHonda販売店まで走行し点検を受けてください。

≫ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。

ABS 警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店で点検を受けてください。

EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS が異常のときに点灯します。
- 停車中にエンジンの空ぶかしを行うと点灯し、ハンドルが重くなる場合があります。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、パワーシステムを再起動する

その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

電子制御パーキングブレーキシステム警告灯が点灯した



■点灯の理由

電子制御パーキングブレーキが異常のときに点灯します。

■点灯したときは

パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■電子制御パーキングブレーキ作動警告灯の点灯または、点滅と同時に点灯したときは

手動または自動でパーキングブレーキを解除してください。

➡ **電子制御パーキングブレーキ** P.270

- 電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が一緒に点灯または点滅し続けているときは、ただちに安全な場所に停車し Honda 販売店へご連絡ください。
  ▶ 車両が動き出さないように、シフトポジションを P にしてください。
- 電子制御パーキングブレーキ作動警告灯だけが消灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

≫電子制御パーキングブレーキシステム警告灯が点灯した

パーキングブレーキを使用すると、パーキングブレーキが解除できなくなることがあります。

電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が一緒に点灯しているときは、パーキングブレーキが作動しています。
電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が一緒に点滅しているときは、システムの点検中でパーキングブレーキが作動していない可能性があります。

トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した



■点滅の理由

トランスミッションが故障すると表示します。



■点滅したらすること

ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した

システムを起動できないことがあります。

停車するときは、確実にパーキングブレーキをかけてください。

走行できないときは、専門業者に連絡してください。

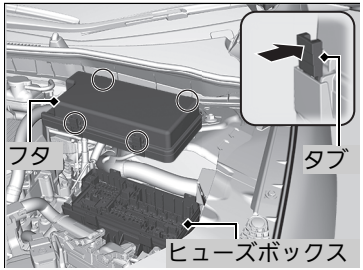
➔ **非常時のけん引** P.360

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、パワーモードをOFFモード にして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、2つのヒューズボックスに入っています。

■エンジンルーム内のヒューズボックス

エンジンルーム内の助手席側に付いている12Vバッテリーの隣にあります。タブを押して開けてください。
ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とフタの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。



■各ヒューズの装備と容量

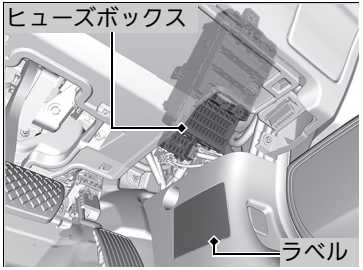
容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1		バッテリー	150A
2		EPS	70A
		ESB	40A
		右側電子制御パーキングブレーキ	(30A)
		ヒューズボックスオプション 1	40A
		シフトバイワイヤー	(30A)
		RFC	40A
		イグニッションメイン 1	30A
3		ヘッドライトロービームメイン	30A
		エンジンウォーターポンプ	30A
		イグニッションメイン 2	30A
		ワイパーモーター	30A
4		FI メイン	15A
5		PCU ウォーターポンプ	7.5A
6		EVTC	20A
7		IG ホールド	10A
8		ドライブバイワイヤ	15A
9		イグニッションコイル	15A
10		制動灯	10A
11		VBU	10A
12		ヒューズボックスメイン 2	60A
		リヤデフロスター	50A
		ヒューズボックスメイン 1	60A
		ABS/VSA FSR	40A
		ヘッドライトハイビームメイン	30A
		ABS/VSA モーター	30A
		ヒーターモーター	40A
		左側電子制御パーキングブレーキ	(30A)
		車幅灯	20A
		ヒューズボックスオプション 2	40A
13		エアコン PTC 4	(40A)
14		エアコン PTC 2	(40A)

	表示	装備	容量
15		フォグライト	10A
16		ホーン	10A
17		IG Hold 3-L/R	15A
18		室内灯	7.5A
19	—	—	—
20		オーディオアンプ	(20A)
21		バックアップ	10A
22		オーディオ	15A
23		P-ACT ドライブ	(7.5A)
24	R	右側ヘッドライト ロービーム	10A
25	L	左側ヘッドライト ロービーム	10A
26		IGPS	10A

■室内のヒューズボックス

アクセルペダルの上にあります。
ヒューズボックスの下に、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。



■各ヒューズの装備と容量

容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1		エアコン	7.5A
2		—	(7.5A)
3	—	—	—
4	—	—	—
5		メーター	10A
6		—	(7.5A)

	表示	装備	容量
7		オプション	(7.5A)
8	—	—	—
9		フューエルポンプ	20A
10		ABS/VSA	7.5A
11		VB ソレノイド	10A
12		フロントワイパー	7.5A
13		発電機	10A
14		アクセサリーソケット (センターコンソール内)	20A
15	DR	運転席パワーシート (リクライニング)	(20A)
16		サンルーフ✤	(20A)
17	FR	前席シート ヒーター✤	(20A)
18		—	(7.5A)
19		運転席側ドア アンロック	10A
20		助手席側ドア アンロック	10A
21	—	—	—
22		運転席側ドアロック	10A
23	—	—	—
24		SRS エアバッグ	10A
25	(INTR)	室内イルミネーション	10A

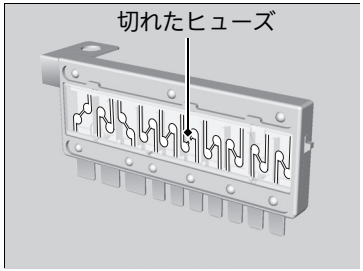
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

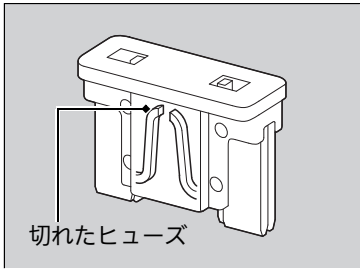
	表示	装備	容量
26		キーロック	7.5A
27	(EXTR)	車幅灯	10A
28		ランバーサポート	(10A)
29	R	右側ヘッドライト ハイビーム	10A
30		ウォッシャー	15A
31		エアコンメイン	10A
32	DR	運転席パワー ウィンドー	20A
33	AS	助手席パワー ウィンドー	20A
34	REAR L	後席左側パワー ウィンドー	20A
35	REAR R	後席右側パワー ウィンドー	20A
36	DR	運転席パワーシート (前後スライド)	(20A)
37		アクセサリー	7.5A
38	—	—	—
39	L	左側ヘッドライト ハイビーム	10A
40		アクセサリーソケット (コンソールパネル)	20A
41		助手席側ドアロック	10A
42		ドアロック	20A

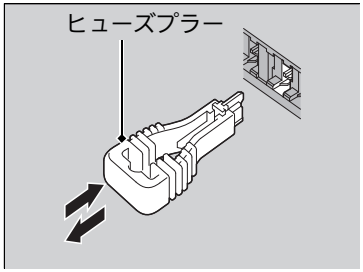
	表示	装備	容量
a		Honda スマート キーシステム	10A
b		シフター	(7.5A)
c		ハイブリッド システム	10A
d		非常点滅表示灯	15A
e	AS	助手席パワーシート (リクライニング)	(20A)
f	AS	助手席パワーシート (前後スライド)	(20A)
g	REAR	リヤシート ヒーター✤	(15A)
h		アクティブ コーナリングライト	(15A)
i	—	—	—
j		IG MON	7.5A

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ヒューズの点検と交換







1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。
2. ヒューズボックスのフタを取り外す。
3. エンジンルーム内の大きいヒューズを点検する。
▶切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。
4. エンジンルーム内と、室内の小さいヒューズを点検する。
▶切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

ヒューズの点検と交換

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。
交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。
➡**各ヒューズの装備と容量** P.356、357

エンジンルーム内のヒューズボックスには、フタの裏にヒューズプラーがついています。
ヒューズプラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

非常時のけん引

けん引するときは、Honda 販売店にご連絡ください。

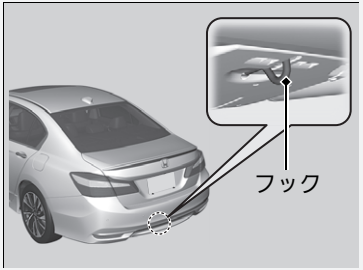
けん引は、専門業者に依頼して四輪を持ち上げて行ってください。

≫非常時のけん引

アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。
バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

車両後方についているフックを他車のけん引や緊急時の脱出に使用することはできません。
フックが破損するおそれがあります。後方からけん引する必要がある場合は、Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。



資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

仕様 362

仕様

■仕様

名称	アコード　ハイブリッド
排気量	1,993 cm³
車体形状	4 ドアセダン
乗車定員	5 名

■調整

点火プラグ	NGK	ILZKAR7E11S
電極のすき間	基準値	1.0-1.1mm

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
・交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	1-5mm
	床板とのすき間	138mm 以上 { 約 196N (20kgf) の力 }
	カーペットとのすき間 (参考値)	120mm 以上 { 約 196N (20kgf) の力 }

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	60 ℓ

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■ 12V バッテリー

容量 / タイプ	36Ah (5) /46B24R

■ウォッシャー液

タンク容量	2.5 ℓ

■電球

ヘッドライト (ロービーム)	LED
ヘッドライト (ハイビーム)	LED
アクティブコーナリングライト	LED
フォグライト	LED
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	LED
車幅灯	LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	LED
制動灯 / 尾灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-21W (橙色)
尾灯	LED
後退灯	12V-16W
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	LED
トランク照明灯	12V-5W
マップランプ	LED
室内灯	LED
バニティミラー照明灯	14V-1.4W
ドア開閉灯	LED
後席マップランプ※1	LED
グローブボックス照明灯	12V-3.4W

※1 ： サンルーフ非装備車

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ ブレーキフルード DOT3 または DOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正 ウルトラ ATF-DW1	2.11 ℓ (交換時)

■推奨エンジンオイル

Honda 純正エンジンオイル	ULTRA NEXT※2	
	ULTRA Green	
	ULTRA LEO	API SN 級 SAE 0W-20
規定量	オイル交換時	3.5 ℓ
	オイル、オイルフィルター同時交換時	3.8 ℓ

※2 ： 最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	5.71 ℓ (交換時：リザーブタンク 0.71 ℓ 含む)

■タイヤ

サイズ	225/50R17 94V※3 235/45R18 94W※4	
空気圧 (kPa[kgf/cm²])	前輪	225 (2.3)
	後輪	220 (2.2)
リムサイズ	17X7 1/2J※3 18X8J※4	

※3 ： 17 インチホイール装備車
※4 ： 18 インチホイール装備車

数字

12Vバッテリー充電警告灯 64, 351

A

A/C(エアコン) 182
ABS(アンチロックブレーキシステム) 275
ABS警告灯 66, 275
AT(オートマチック
トランスミッション) 199

C

CMBS(衝突軽減ブレーキ) 278
CMBS警告灯 70, 71

E

ECONスイッチ 207
ECON表示灯 75
ECOスコア 13, 105
ECOドライブディスプレイ 13, 104
EPSシステム警告灯 69
ETC車載器 1

H

Hondaインターナビシステム ..... 別冊
Hondaスマートキー 124, 125
Hondaスマートキーシステム警告灯 66
Hondaスマートキー持ち去り警告 147
POWERスイッチ 145
電池交換のしかた 317
Hondaスマートキーシステム警告灯 66

I

ISOFIX 52, 55

L

LaneWatch™ 267
LKAS(車線維持支援システム) 230
LKAS警告灯 68
LKAS(レーンキープアシストシステム)
LKAS表示灯 75

M

MIST 152

P

PGM-FI警告灯 64, 352
POWERスイッチ 145

S

SEL/RESETスイッチ 99
SPORT HYBRID i-MMD(インテリジェントマ
ルチモードドライブ) 5
SPORTモードスイッチ 206
SPORTモード表示灯 77
SRSエアバッグ 39
エアバッグシステム警告灯 46, 69

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト) 249
VSA OFF警告灯 69
VSA OFFスイッチ 250
VSA警告灯 69

W

W(ワット数) 362

ア

アクセサリーソケット 175, 333, 338
アクセサリーと改造 325
アクセサリー 325
アクティブコーナリングライト 149
電球の交換 305
アダプティブクルーズコントロール(ACC)
ACC表示灯 75
安全に関する表示 28
安全のための確認事項 31
アンチロックブレーキシステム(ABS) 275
ABS警告灯 66, 275

イ

一酸化炭素の危険性 59
イモビライザーシステム 137
イモビライザーシステム表示灯 74
イルミネーションコントロールノブ 154
インフォメーション表示灯 74

ウ

ウィンカースイッチ(方向指示器) 148
ウィンドーの開閉 139
ウィンドウォッシャー
ウィンドウォッシャー液の補給 303
ウィンドウォッシャースイッチ 152
ウェアインジケーター 313
運転
エンジンスタートボタン付Hondaスマートキーシステム 194
シフト操作 200
パワーシステムの起動 192
ブレーキ操作 270

エ

エアコン 181, 319
エアクリーンフィルター 319
エアコンの使いかた 182
窓の曇りや霜の取りかた 183
モード切り換えスイッチ 182
エアバッグ 39
SRSエアバッグ 39
エアバッグシステム警告灯 46, 69
エアバッグシステム故障診断記録装置 28
エアバッグのお手入れ 46
サイドエアバッグ 42
サイドカーテンエアバッグ 44
エアバッグシステム故障診断記録装置 28
エコアシストシステム 12
エマージェンシーストップシグナル 277
エンジンオイル 303
推奨エンジンオイル 303, 362
油圧警告灯 64, 351
エンジン作動表示 107
エンジンスタートボタン付Hondaスマートキーシステム 194
エンジンの始動
ジャンプスタート 346
エンジンルーム内のメンテナンス 301
ウィンドウォッシャー液の補給 303
エンジンルーム内のメンテナンス項目 ... 301
推奨エンジンオイル 303
ボンネットを開ける 302
冷却水の点検と補給 350
エンジン冷却水 362

オ

オートライトコントロール 150
追越合図(パッシング) 150
応急修理剤(タイヤパンク) 330
オーディオ装置 188
オートエアコン 182
オートマチックブレーキホールド 272
オートマチックブレーキホールドシステム表示灯 77
オートマチックブレーキホールド表示灯 77
オートワイパー 153
オーバーヒート 348
オドメーター 99, 101
温度センサー 102

カ

カーゴフック 177
外気温表示 99, 102
改造や部品交換について 325
鍵(かぎ) 123
カスタマイズ機能 109
ガソリン 294, 362

キ

キー
Hondaスマートキー 124, 125
キー閉じ込み防止装置 129
キーナンバータグ 124
キーの種類と機能 123

キーレスエントリー 128
キーレスエントリーでドアが開かない 25
後席ドアが開かない 25
電池交換のしかた 317
内蔵キー 123
キー閉じ込み防止装置 129
キーナンバータグ 124
キーレスエントリー 128
電池交換のしかた 317
キックダウン 199
給油 294
給油のしかた 295
指定燃料 294, 362
燃料計 98
燃料残量警告灯 66

ク

空気圧 362
グラブレール 4
クリープ現象 199
グローブボックス 171

ケ

経過時間表示 99, 102
計器 60
警告灯 61
12Vバッテリー充電警告灯 64, 351
ABS警告灯 66, 275
CMBS警告灯 70, 71
EPSシステム警告灯 69, 353
Hondaスマートキーシステム 警告灯 66
LKAS警告灯 68
PGM-FI警告灯 64, 352
VSA OFF警告灯 69
VSA警告灯 69
エアバッグシステム警告灯 46, 69
シートベルト非着用警告灯 65
渋滞追従機能付ACC警告灯 67
電子制御パーキングブレーキシステム 警告灯 354
トランスミッション警告灯 355
燃料残量警告灯 66
パワーシステム警告灯 64
ブレーキ警告灯(レッド) 61, 352
ブレーキシステム警告灯(オレンジ) 62
油圧警告灯 64, 351
路外逸脱抑制機能警告灯 72
けん引 360
減速セレクター 204

コ

交換
アクティブコーナリングライト電球 305
グローブボックス照明灯電球 309
後退灯電球 307
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯 電球 306
車幅灯電球 304
制動灯/尾灯電球 306
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯 電球 304
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯 電球 305
トランク照明灯電球 309
ハイマウントストップランプ電球 308
バニティミラー照明灯電球 309
番号灯電球 308
尾灯電球 307
フォグライト電球 305
ヘッドライト電球 304
ワイパーブレードラバー 310
工具 328
航続可能距離表示 99, 102
後退灯 307
高電圧バッテリー 269
高電圧バッテリーの特性 269
高電圧バッテリー残量計 98
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯 306
コートフック 176
誤発進抑制機能 285
コンソールボックス 171

サ

サービス診断記録装置 28
データの開示について 28
サイドエアバッグ 42
サイドカーテンエアバッグ 44
サングラスボックス 176
サンバイザー 4
サンルーフの開閉 142

シ

シートの調節
アームレスト 168
フロントシート 163
ヘッドレスト 166
シートベルト 32
アンカーポイント 38
シートベルトの着用 35
シートベルトの点検 38
シートベルト非着用警告灯 65
シートベルトプリテンショナー 34
シートベルトリマインダー 33
妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた 37
時刻の設定 122
室内装備品 171
室内灯 169
シフト操作 200
シフトポジション 200
車外の清掃 322
車線維持支援システム(LKAS) 230
LKAS警告灯 68
ジャッキ 340
ジャッキハンドル（ホイールナットレンチ） 340
ジャッキハンドルバー 340
車内の清掃 321
車幅灯 304
車両接近通報装置 208
ジャンプスタート 346
渋滞追従機能付ACC(アダプティブクルーズコントロール) 216
渋滞追従機能付ACC警告灯 67
渋滞追従機能付ACC表示灯 75
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)
渋滞追従機能付ACC警告灯 67
収納スペース 177
瞬間燃費表示 99, 101
仕様 362
衝突軽減ブレーキ(CMBS) 278
CMBS警告灯 70, 71
ショルダーアンカー 37
信号情報活用運転支援システム 108
親水ミラー 324

ス

スイッチ
SPORTモードスイッチ 206
オートマチックブレーキホールドスイッチ 272
パーキングブレーキスイッチ 270
スイッチ操作
ECONスイッチ 207
アクティブコーナリングライト 149
イルミネーションコントロール 154
ヒーテッドドアミラースイッチ 155
フォグライトスイッチ 151
方向指示器(ウィンカー)スイッチ 148
リヤデフロスタースイッチ 155
ワイパー/ウォッシャースイッチ 152
ステアリング 158
スノータイヤ 316
スパークプラグ 362
スピードメーター 98

セ

清掃 321
制動灯 306
セキュリティシステム 137
イモビライザーシステム 137
セキュリティアラームシステム 137
先行車発進お知らせ機能 251

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯 305

タ

タイヤ 312
ウェアインジケーター 313
指定空気圧 362
タイヤとホイールの交換 314
タイヤの点検 312
タイヤのローテーション 315
タイヤパンク応急修理キット 330
冬期のタイヤ 316
パンク 330
タイヤチェーン 316

チ

チェーン 316
チャージメーター表示 98
チャイルドシート 47
ジュニアシート 58
乳児のチャイルドシート 48
幼児のチャイルドシート 49
チャイルドプルーフ 132
駐停車操作 287

テ

デフロスター
リヤデフロスタースイッチ 155
点火プラグ 362
電子制御パーキングブレーキ 270
電子制御パーキングブレーキシステム警告灯 63, 354
電子制御ブレーキアシスト 276
電池交換 317

ト

ドアの施錠と解錠
Hondaスマートキー 124, 125
キー閉じ込み防止装置 129
キーナンバータグ 124
キーの種類と機能 123
キーレスエントリー 128
キーレスエントリーでドアが開かない 25
後席ドアが開かない 25
車外でのドアの施錠/解錠 126
車内での施錠/解錠 130
チャイルドプルーフ 132
ドアミラー 160
ドアミラーウィンカー 3, 305
冬期のタイヤ 316
スノータイヤ 316
タイヤチェーン 316
時計 122
トップテザーアンカレッジ 56
トップテザーストラップ 56
ドライビングポジションシステム 156
トラブルシューティング
アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない 27
パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない 26
パンクした 330
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 26
オーバーヒートした 348
キーレスエントリーでドアが開かない 25
警告灯が点灯/点滅した 351
けん引してもらいたい 360
後席ドアが開かない 25
ジャンプスタートしたい 346
走行するとブザーが鳴る 26
ハイオクガソリンは使える? 27
パワーシステムが起動しない 342
パンクした 330
ヒューズが切れた 356
ブレーキを踏むと音がする 26
ブレーキを踏むと振動する 25
トランクの開閉 134
トランスミッション警告灯 65, 355
トランスミッションフルード 362
トリップメーター 99, 101
ドリンクホルダー 173

ナ

内蔵キー 123

ネ

燃料 294
燃料計 98
燃料残量警告灯 66

ハ

パーキングセンサーシステム 289
排気ガスの危険性 59
ハイビーム 150
電球の交換 304
ハイビーム表示灯 73
ハイマウントストップランプ 308
ハザードスイッチ ..... **表紙ウラ**
発炎筒 329
パッシング 150
バッテリー
高電圧バッテリー 269
12Vバッテリー充電警告灯 64, 351
ジャンプスタート 346
容量 362
発話スイッチ 1
バニティミラー 4
パワーフロー 107
パワーウィンドーの開閉 139
パワーシステム警告灯 64
パワーシステムの起動 192
パワーシステムが起動しない 342
パワー表示 98
パワーモード 145
パワーモード警告ブザー 146
パンク 330
番号灯 308
ハンドル 158
ハンドル位置調節レバー 158
汎用型ISOFIX チャイルドシート 55

ヒ

ヒーテッドドアミラー 155
非常点滅表示灯スイッチ ..... **表紙ウラ**
尾灯 306, 307
ヒューズ
各ヒューズの装備と容量 356, 357
ヒューズの設置場所 356
ヒューズの点検と交換 359
標識認識機能 242
標識認識機能表示 108
表示灯
LKAS表示灯 75
減速セレクター表示灯 73
シフトポジション表示灯 73
ACC表示灯 75
ECON表示灯 75
EV表示灯 76
EVモード表示灯 76
READY表示灯 76
イモビライザーシステム表示灯 74
インフォメーション表示灯 74
セキュリティアラームシステム作動表示灯 75
ハイビーム表示灯 73
フォグライト点灯表示灯 73
方向指示器表示灯 73
ライト点灯表示灯 73

フ

ブースターケーブル 346
フォグライト 151
電球の交換 305
フォグライト点灯表示灯 73
ブザー
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 26
走行するとブザーが鳴る 26
フューエルリッドの開けかた 295
ブレーキシステム 270
ABS（アンチロックブレーキシステム） ... 275
アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない 27
エマージェンシーストップシグナル 277
オートマチックブレーキホールド 272
電子制御パーキングブレーキ 270

電子制御ブレーキアシスト 276
パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない 26
フットブレーキ 274
ブレーキ警告灯(レッド) 61, 352
ブレーキシステム警告灯(オレンジ) 62
ブレーキを踏むと音がする 26
ブレーキを踏むと振動する 25
ブレーキフルード 362
ブレーキ警告灯(レッド) 61, 352
ブレーキシステム警告灯(オレンジ) 62
フロントシートヒーター 179
フロントシート 163
フロントシートヘッドレスト 163, 166
フロントパワーシート 163
フロントセンサーカメラ 214

へ

平均車速表示 99, 102
平均燃費表示 99, 101
平均燃費履歴表示 99, 103
ヘッドライト
追越合図(パッシング) 150
ハイビーム 150
ハイビーム表示灯 73
ライト点灯表示灯 73
ロービーム 150
ヘッドライトオートオフ機能 150
ヘッドレスト
フロントシート 163, 166
リヤシート 166, 167

ホ

ホーンスイッチ 1
ホイールナットレンチ(ジャッキハンドル) 340
方向指示器(ウィンカースイッチ) 148
方向指示器表示灯 73
歩行者事故低減ステアリング 261

マ

マスタードアロックスイッチ 130
マルチインフォメーションディスプレイ 99
警告メッセージ 78

ミ

ミラー 159
自動式防眩ミラー 159
ドアミラー 160
バニティミラー 4
ルームミラー 159

メ

メーター 98
高電圧バッテリー残量計 98
スピードメーター 98
チャージメーター表示 98
燃料計 98
パワー表示 98
マルチインフォメーションディスプレイ 99
メンテナンス 298
Hondaスマートキー 317
エアコンのお手入れ 319
エンジンルーム内のメンテナンス 301
清掃 321
タイヤの点検と整備 312
メンテナンスに関する注意事項 300
メンテナンスを安全に行うために 300
ライト類の点検と整備 304
ワイパーブレードラバーの点検と整備 310

モ

モード切り換え(エアコン) 182

ユ

油圧警告灯 64, 351

ラ

ライトスイッチ..... 150
追越合図(パッシング)..... 150
ハイビーム..... 150
ハイビーム表示灯..... 73
フォグライト 151
ライト点灯表示灯..... 73
ロービーム..... 150
ライト類の点検と整備 304
アクティブコーナリングライト電球 305
グローブボックス照明灯電球..... 309
後退灯電球..... 307
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球 306
車幅灯電球..... 304
制動灯/尾灯電球 306
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯電球 304
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球 305
トランク照明灯電球 309
ハイマウントストップランプ電球..... 308
バニティミラー照明灯電球..... 309
番号灯電球..... 308
尾灯電球 307
フォグライト電球..... 305
ヘッドライト電球..... 304
ラジエーター..... 348

リ

リアカメラシステム 293
リザーブタンク 350
リバース連動ドアミラー..... 161
リムサイズ..... 362
リヤサンシェード..... 178
リヤシートヒーター 180
リヤデフロスタースイッチ 155

ル

ルームミラー..... 159

レ

レーンキープアシストシステム(LKAS)
LKAS表示灯 75
冷却水..... 350, 362
オーバーヒート..... 348
補給..... 350

ロ

ロアアンカレッジ..... 55
ロービーム..... 150
路外逸脱抑制機能..... 255
路外逸脱抑制機能警告灯 72

ワ

ワイパー/ウォッシャー..... 152
ワイパーブレードラバー 310

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。
Honda ホームページ　http://www.honda.co.jp/
（Honda ホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください）

携帯電話からは、携帯電話用 Honda ホームページをご覧ください。
http://dream.honda.co.jp/dealerlocator/
※：QR コード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00
〒351-0188　埼玉県和光市本町8ー1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、原動機型式、登録番号、登録年月日
② 車種名、タイプ名、走行距離　③ ご購入年月日　④ 販売店名